◎開議の宣告　（午前１０時００分）

○議長（大塚純一郎君）　おはようございます。

定足数に達しましたので、直ちに本日の会議を開きます。

上着の脱着を許可いたします。

◇◇◇◇◇　◇◇◇◇◇　◇◇◇◇◇

◎町長の行政諸報告

○議長（大塚純一郎君）　日程に入る前に、町長より発言の申し出がありましたので、これを許可いたします。

町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　皆様、おはようございます。

一般質問の議事日程に入る前に、私から一言、追加の行政諸報告をさせていただきたいと思います。

林野火災についてでございます。

昨日、６月１５日午後７時３７分に連絡が入りまして、発生場所といたしまして、小林字ニック沢から、坂田字ウチクイ周辺ということで、特定はできておりませんが、広域消防署より林野火災の連絡がありました。東北電力小林変電所の裏山との情報から、裏山ではないかということであったそうであります。早速、消防署只見出張所、警察署、消防団、町の消防担当が合流し、見たところ、火点を見ることができたということで、大倉の田向地内に現地本部を昨晩設置しました。地図を頼りにいろいろ探索しましたけども、金山町の郡境かもしれないということで特定することに至りませんでした。その後、人家にも影響がないと、また夜間のため、非常に難しいということで昨晩は現地本部を解散しました。そして、広域消防署からは金山町の可能性もあるということで、会津広域消防本部のほうにも連絡し、防災ヘリ出動も視野に入れた体制で準備しようということで別れたということであります。今朝、７時５０分に大倉地内に現地本部を設置しました。大倉の明和浄化センターに現地本部を設置しました。その後、坂田、現在、ウチクイに現地本部を移動しております。そういった中で金山町側からも入山する旨の一報があったということでございます。現在は只見町といたしましては広域消防署から８名、警察署４名、町消防団から２７名が出動しておりまし

て、その後、９時５分にウチクイから消防のドローンで現場確認を開始しまして、９時３５分頃、ドローンで白煙で確認できたというところまででございまして、その後の情報はまたわかり次第報告させていただきますが、現時点までの状況を報告させていただきます。

以上でございます。

◇◇◇◇◇　　◇◇◇◇◇　　◇◇◇◇◇

◎一般質問

○議長（大塚純一郎君）　それでは、日程第１、一般質問を行います。

一般質問は、一問一答方式により行います。

議員各位並びに当局は、簡潔な質問、答弁に留意され、実質的な審議を尽くされますようお願いをいたします。

質問項目が複数ある場合には最初に一括して質問し、２回目から項目ごとに質問するか、または一括して質問するかは質問者の裁量で質問していただくことにします。

なお、質問時間は答弁を含めて６０分以内といたします。

質問は一般質問者席についてから開始し、終了時間は議長がお知らせをします。よろしくお願いいたします。

順番に発言を許可いたします。

２番、酒井正吉郎君の一般質問を許可します。

２番、酒井正吉郎君。

〔２番　酒井正吉郎君　登壇〕

○２番（酒井正吉郎君）　それでは、通告に基づき一般質問をいたします。

質問事項。来年度、全線再開通の見通しとなったＪＲ只見線の復興推進についてであります。

質問の要旨。

一時は誰もが不可能と思っていた鉄路による只見線の全線再開通が、国、県、沿線の自治体と住民の方々、そして全国の鉄道ファンの総力結集により実現される見通しとなりました。町民の中には代行バスでも良かったという意見も少なからずありましたが、来年度中には会津川口駅から只見駅間が１０年ぶりに鉄路でつながります。会津若松駅から小出駅までの約

１３５キロにも及ぶ、かつて重要な役割を果たした只見線が全国のローカル線廃止のストッパーとしても期待されています。そこで、以下の項目について問います。

１、コロナ禍の中、ＪＲ東日本、国、県、沿線町村などと今後の運営、存続等について、どのような協議をし、復興を推進していくのか。

２、上下分離方式での運営により、今後の維持管理費が沿線町村に重くのしかかってくると考えられます。他町村と協力、連携して取り組む事業は何か。

３、来年度、只見線再開の式典が只見駅前で催され、只見線の復興と存続が奥会津地域の活性化につながることを期待されます。町は町民総意としてどのような目標を掲げ、町の活性化につなげていくのか、町長の考えを伺います。

以上。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

〔町長　渡部勇夫君　登壇〕

○町長（渡部勇夫君）　それでは、２番、酒井正吉郎議員のご質問にお答えいたします。

ＪＲ只見線の復興推進についてのご質問でありますが、酒井議員ご質問のとおり、現在、ＪＲ只見線は令和４年中の復旧工事完了を目途に工事が進められております。これもひとえに、国、県、沿線自治体、地域住民、全国の鉄道ファンの皆様はじめ、議員各位や多くの関係者の皆様の温かいご支援の賜物であり心から敬意と感謝を申し上げます。

また、実現が難しいと思われていたＪＲ只見線の鉄路での復旧は、鉄道軌道整備法の改正や上下分離方式での運行方法など全国ローカル線の大きな希望となったことや、ローカル線廃止に対するストッパーとしても期待されていることも酒井議員お質しのとおりでございます。

さて、１点目のコロナ禍の中、関係機関、団体等と今後の運営、存続等についてどのような協議をし、復興を推進していくのかについてでありますが、令和３年はＪＲ只見線の全線開通５０周年という記念の年であります。８月２８日に魚沼市、８月２９日に只見町において記念式典の開催を計画しておりますが、コロナ禍でありますので式典の内容等につきましては関係する魚沼市やＪＲ東日本と十分な協議を重ねてまいります。

また、県のＪＲ只見線復興推進会議では、県と沿線市町村が協力し只見線の利活用計画としてアクションプログラムを策定し、景観整備や学習列車の運行など様々な事業に取り組み、復興に向けて推進をしております。

２点目の上下分離方式での運営による今後の維持管理費についてであります。運営費は年間総額を２億１、０００万円と想定し、その７０パーセントの１億４，７００万円を福島県、残りの３０パーセントの６，３００万円を会津１７市町村が負担することとなっており、このうち只見町は１，９３５万５，０００円の負担となっております。この額はＪＲ只見線被災以前の経費試算によるものであり、近年の維持費増嵩傾向からすると上昇が予想されますが、県との協議では、この額を超えることとなった場合は、超過分は県で負担することで調整が図られております。また、この負担額については沿線市町村を含め県としても大きな負担になることが想定されますので、会津地方の市町村で構成する会津総合開発協議会や県、福島県の町村会。町村長の会議がございます。そういった中でも連携をいたしまして国へ負担軽減を求めているところでございます。

３点目のどのような目標を掲げ、町の活性化につなげていくのかについてであります。

酒井議員ご質問のとおり、只見線の復興と存続を奥会津地域の活性化につなげることは非常に重要だと考えます。町といたしましては、ＪＲ只見線が鉄路で復旧して良かったと町民の皆様に思っていただけることが一つの大きな目標と考えており、利用促進による只見町、そして奥会津地域への来訪者の拡大を目指しております。そのような中、只見駅周辺の魅力向上として、東北芸術工科大学や只見区の皆様と連携して三石神社の遊歩道整備を実施することとしており、６月１９日、２０日に第１回目の整備を行います。

また、旅行者に対する滞在商品のパッケージ化やふるさと納税を切り口とした縁結び事業も計画しております。これらの事業展開を図ることにより交流人口や関係人口を増加させ、町の活性化につなげてまいりたいと考えておりますので、引き続きご指導をお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（大塚純一郎君）　２番、酒井正吉郎君。

○２番（酒井正吉郎君）　それでは再質問いたします。

町長は、前町長からバトンタッチされた後、沿線市町村の盾になり、鉾になり、奮闘されている佐藤前知事と内堀現知事にお会いし、また鉄道軌道法改正案の国会成立に向け、赤字ローカル線の災害の復旧を支援する議員連盟事務局長として尽力された菅家代議士とお会いしましたか。そこで、お礼を申し上げ、只見線と只見町の将来に向けてどのような話をしましたか。伺います。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　再質問にお答えいたします。

菅家一郎代議士とはお会いしておりますし、お願いもしてございます。私、町長になる以前、担当しておる課長をさせていただいておりました。そういった中で、当時の町長と、そういう議員連盟の先生方にお会いし、町長がお願いし、私は随行でございましたが、そういったことで国、各国会議員の先生方のところや、自民党の、東京にあります自民党本部の会議、そういったところに行っておりますので、経過もある程度承知しているつもりでございますが、今、酒井議員おっしゃる趣旨を踏まえまして、引き続き、お力添えいただく先生方に今後のご支援、利活用の促進に向けても併せて努力をしていきたいなというふうに考えております。

○議長（大塚純一郎君）　２番、酒井正吉郎君。

○２番（酒井正吉郎君）　コロナ禍の中だから、ではなく、コロナ禍の中だからこそ、トップセールスが最重要です。

本日、嬉しいニュースが入りました。７月１０日に、会津鉄道のお座トロ列車が初めて只見線に乗り入れされるとのことです。県と会津鉄道の鈴木新社長の元気のあるタッグです。我々も駅前の整備等、もたもたしているわけにはいきません。

平成２３年の豪雨災害から、はや１０年以上の歳月が流れ、その間、町の頭脳である役場と、シンボルだった開発センターが姿を消し、平成２６年には県、ＪＲ東日本を含め、町内関係者が商工会に集まり、駅前広場から始まる中心市街地の再興について真剣に討議したはずでした。国も町の決断に手を差し伸べて待っていたにもかかわらず、残念にも水に流してしまい、近隣町村の中心市街地に比べても見劣りする現状になってしまいました。町では来年に向け、道の駅建設に向けた第一ステージの実施や、駅周辺のエリアなどの観光資源の磨き上げ、三石神社の参道整備など予定されていますが、付け焼刃的政策ではなく、地に足を付けた持続可能な事業の推進が求められます。

また、５年後には町におっても、奥会津地域にとっても、最後の望みとも言えるルート２８９八十里越えの開通が現実味を帯びてきました。ＪＲ只見線とルート２８９八十里越えは鉄道と国道としてインフラ整備の中でも最も重要です。この二つを復興推進していくことは、町と奥会津地域の存続、発展に欠かせない最後のチャンスです。

質問になります。今まで長きに亘り、ＪＲ東日本と県を先頭とした沿線市町村側は、只見

線の復旧復興に向け議論を戦わせてきて、結局、上下分離方式により鉄道での復興が決定し、今、復旧工事の最後の追い込み中です。最後まで代行バスによる復旧案にこだわり続けたＪＲ東日本に対し、交渉妥結の結果が鉄道による復旧に決定したことに対し、バトンタッチした首長としてどのように理解していらっしゃいますか。

平成３１年度、包括外部監査報告書が公表されましたが、その中での指摘について、町長はどのように認識されていますか。伺います。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　まずあの、ＪＲ只見線、平成２３年７月の豪雨災害によって多くの施設、鉄橋等が被害を受けまして、本当に、一時は鉄路での復旧は難しいのではないかということが多くの方が思われたと思います。ですが、住民の方々、沿線の市町村、住民の方々や全国の多くの鉄道ファン、多くの関係者のお力で、やはり只見線は全線再開通してほしい、するべきだという声が、最初は、そうは言っても無理だろうということが、議員連盟が、国会議員の先生方による議員連盟ができ、それが自民党の部会に上がり、鉄道軌道法の改正ということで、只見線に限らず、全国のローカル線、全国の鉄道が、今どこで大きな災害があるかわかりませんから、これは只見線だけの問題ではなくて、全国どこにでも起こり得る問題だということで、超党派でそういった機運が盛り上がって、当初は非常に難しいと思われていた鉄道軌道法の改正ということで、そこまでやっていただいて、今は本当に、そういった意味では只見線が鉄道軌道改正法に適合する第１号の路線でありまして、本当に順調な工事の進捗と併せまして、その後の利活用について注目されている路線だというふうに受け止めておりますので、やはりＪＲ只見線、その只見駅を中心とした駅前の賑わいづくり、産業振興であったり、そこはしっかりとその想いを受け止めて努めていかなければならないというふうに思っております。

併せまして、国道２８９号線八十里越えにつきましても、先般、国土交通副大臣から、直接、５年以内というお言葉をいただきました。その後、南会津建設事務所の所長もお見えになりましたけども、国直轄工事のほかに福島県の工事もありますので、やはり福島県の工事も国直轄の工事と歩調を合わせて、やはりやっていくということで、その後のお話も、先日の勉強会でもいろいろ聞かせていただいたところでございます。どちらもとても大事な、道路としての動脈、また鉄道でありますので、やはり只見町としてはこれを好機と捉えて、それを逃すことなく、医療面や様々な産業面、教育面、多くの分野すべてに亘りまして、町の

新たな飛躍の時だというふうに思っております。そういった中でしっかりと議員の皆様はじめ、町民、多くの全国の方々の声をしっかりと受け止めた中で、それぞれの事業に取り組んでいきたいという覚悟でございますので、ご理解をいただきたいと思います。

○議長（大塚純一郎君）　２番、酒井正吉郎君。

○２番（酒井正吉郎君）　手元に、只見町と観光まちづくり協会がメンバーになっている、只見線利活用プロジェクトチームが２０１８年に編集発行した只見線利活用計画があります。多くの関係者の方々が、あらゆる角度から復興に向けた取り組みや、新たな利活用に向けて真剣に討議され、作り上げた復興のバイブルともいえるものです。その中で、目指すべき姿としては、只見線が日本一の地方創生路線として生活路線、観光路線、教育路線。そして産業路線として利活用されるとともに、それらが循環し成長することで何度でも乗りたい、訪れたいと思える路線と地域になることと宣言されています。コロナ過がこのプロジェクトの推進にも大きな障害になったと思いますが、この計画は現在でも順調に進んでいますか。伺います。

○議長（大塚純一郎君）　地域創生課長、目黒康弘君。

○地域創生課長（目黒康弘君）　酒井議員のご質問にお答えいたします。

今ほどの計画書、町のほうで協力しまして、構成メンバーとしてこちらの計画書を作成させていただいております。中については、計画後も、こちらのほうで毎年、事業として進めておりますので、内容としましてはそれを根幹にしまして、事業を復興に向けて進めているところでございます。

○議長（大塚純一郎君）　２番、酒井正吉郎君。

○２番（酒井正吉郎君）　沿線みんなで協力して、復興に挑戦するわけですが、金山・三島の陰にいるのではなく、只見独自でも自立できるトップランナーを目指してください。目指すべきです。

今回、私は、ＪＲ只見線の復興に向けた一般質問をするにあたり、只見線に何度か乗車してみました。地元の我々も只見線の利活用が少ない中、何故、全国の多くの只見線のファンの方々が一生懸命にご寄付や署名まで協力して復旧にこぎつけてくれたのか。（聴き取り不能）からの復興策は専門家にお任せし、私は町外からの来訪者の目線に立ち、只見線の良さ、存在意義は何かを探ってみたいと思います。

２０１１年の東日本大震災の復旧が続く中、全国的に赤字ローカル線の存続危機が大きな

ニュースになり、鉄道ファンの方はじめ、多くの人が何らかのきっかけで只見町を知ることになりました。国内屈指の豪雪地。赤字ローカル線ワースト１０の只見線。ユネスコエコパークの町。全国でトップの水力発電所群の町。白神山地以上のブナ林の町。などでしょうか。さらに、詳しく調べるには、大体、情報はインターネットの検索からになります。只見町のホームページ、次に観光協会のホームページに進んでみると、只見町の全容を調べるのに時間がかかりました。試しに他町村も検索してみると、わかりやすくスピーディーに検索できるところもありました。ホームページの中に、只見の今の情報をいかに的確に、魅力的に紹介できるかが大切で、来訪者獲得の第一関門です。パンフレットやリーフレットも大切ですが、最初に情報をホームページ上で充実させることが大切です。是非、日本一のホームページを目指し、再検討をお願いします。

只見駅に限らず、駅は鉄道利用者だけでなく、その地域を象徴する窓口、旅の玄関口です。駅に行けば、その地域がどんなところなのか、大体わかるとも言われます。さらにそこから、どこに行けば楽しめるのか、目的を達成されるのか、を案内する窓口が観光まちづくり協会の一つの大きな役割です。インフォメーション機能を有する観光まちづくり協会のおもてなし、心いっぱいの対応は間違いなく只見のファンを増やし、只見の印象と評価を高めます。

町長。ホームページ、観光まちづくり協会の体制は万全ですか。伺います。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　今、議員おっしゃっていただいたこと、とっても大事なことだというふうに思っております。やはり今、只見の駅前に行ってみると、非常に寂しくて、昔は只見中学校があったり、役場が本庁舎あって、食堂とか、本屋さんとか、今の若い子供達はわからないかもしれませんが、自分が子供の頃は本当に賑わって、商店もずっと続いておりました。非常に、当時をする酒井議員、私からすれば、非常に今の状況は別の町にいるような寂しい感じをしております。来年、只見線が全線再開通すると、はっきり日時はわかりませんが、来年中には全線再開通するということでありますので、町といたしましては来年７月を目途に、駅前に、簡易なものではありますが、建物、案内機能。それから食べたり飲んだりできる飲食。それからお土産物を買っていただくような物産販売。この三つの機能を基本とした建物を駅前に整備したいというふうに考えております。勿論、それだけで足りるわけではありません。やはり、今、ポータルサイトという言葉ありますが、やはり、行政情報だけじゃなくて、あらゆる町の産業、観光含めた、あらゆる、一箇所にアクセルすれば、見やす

くて、次のところに飛んでいけるような、そういった情報提供。そういったきめ細かなものが必要だというふうに思っております。やはりあの、民間であったり、ＪＲさんもそうですが、大きな駅に行くと、今、鉄道収入だけで黒字のところはほぼありません。やはりそこに、そういう飲食であったり、物販であったり、そういった機能を付加して、全体として黒字経営を目指すというのが今一般的な、民間企業の、鉄道事業者のあり方だというふうに承知してます。なかなか、そういった中で、ＪＲ只見線上下分離方式で、この後、来年以降、スタートするわけですけど、やはりそこは町として、そのような機能を体制をしっかりと再構築して、その機能を提供していくという考え方は議員おっしゃるようにとっても大事なことだというふうに思っておりますので、その整備といいますか、より良い環境づくりに向けて努力していきたいというふうに考えております。

○議長（大塚純一郎君）　地域創生課長、目黒康弘君。

○農林建設副課長（目黒康弘君）　酒井議員のご質問にございましたホームページの内容のことでございます。ご意見のほうには日本一のホームページを目指していただきたいという内容もございました。ホームページ管轄しております地域創生課の広報広聴のほうでも、そういったページを目指しまして、最近になりますが、コロナの関係の情報が非常にわかりづらいというところがございまして、先月から新たに、一番トップページにコロナ関係の情報が載るような形でトップページを大幅リニューアルさせていただきました。広報ただみのほうにも、町のホームページをリニューアルしましたという形で載せさせていただいておりますが、まだまだ情報のほうは複雑になっているところもございますので、そのあたりは修正しながら、わかりやすい情報を併せて提供できるような形で目指していきたいと思っております。またあの、直近の情報、なかなか、ホームページ変えて載せられないというところがございまして、町のフェイスブックのほうで、できる限り、１週間に１回なり２回ということで町の情報、景色、そういったものを載せて、今、只見町でこういった花が咲いてますとか、こういった新緑の状況になってますということで、そういったＳＮＳも使った情報発信をなお行っておりますので、そういったところも踏まえまして、引き続きわかりやすい情報の発信に努めてまいりたいと思います。

○議長（大塚純一郎君）　２番、酒井正吉郎君。

○２番（酒井正吉郎君）　安心しました。これからも頑張っていっていただきたいと思います。只見を選んでもらい、来てもらわないことには、次の展開はありません。

いろいろ只見線に乗車して質問を続けます。

今回、只見線の起点である会津若松駅４番線からのスタートでした。私には山・川・トンネル・鉄橋など、見慣れた車窓からの風景でしたが、巷では赤字ローカル線ながら、山のローカル線日本一と新聞や専門誌にまで紹介されています。現在は川口駅から代行バスに乗り換えになりますが、ここから列車に乗車している想定で進みます。川口駅を出て金山町から只見町に入ると、突然、視界が開けて、ダム湖と蒲生岳、左手に十島集落が飛び込んできて、停車駅は塩沢です。現状は田畑の中にポツンと屋根なしのホームがあるだけ。看板は錆だらけで、ホームを降りると、雨の日はびしゃびしゃの土の通路で、改善有と思いました。そんな中でも、集落の人達はボランティアで草を刈り、花壇づくり、ありがとうございます。ここで、多くの人から要望が出ている河合継之助記念館前にホームを移動し、駅名を塩沢河井記念館前にするべきという件はどうなっていますか。町長、伺います。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　本当に、沿線の方々につきましては、草刈りであったり、花壇整備であったりということで、非常にボランティア活動といいますか、献身的に只見線のためにお力添えをいただいているということ、お話を改めていただきまして、本当に有難いなというふうに思います。

そういった中で、いろいろ、駅舎の改修につきましては、一番大きな只見駅の駅舎の改修問題残っておりますが、今の塩沢の話が出ました。本当にそういったところが沿線に多くございます。一つあの、河井記念館につきましては、今般、映画、峠という映画がコロナ禍で残念ながら一年延期、上映が一年延期されてしまいましたが、やはりあの、河合継之助記念館が塩沢にございます。そういったことで、私、先般、ＪＲの仙台支社長さんとお会いしまして、今なかなか、駅をまるっきり変えるのは難しいということなんですが、今、副駅、サブタイトルみたいな意味ですが、本来の駅が塩沢駅であったら、副駅が河井つぎのすけ、ぐぐのすけと、いろいろ、つぎのすけと、つぐのすけと、いろいろありますけど、河井つぎのすけ駅、つぐのすけ駅に副駅名をしていただきたいというお願いは支社長にはお願いしてます。ですから、本来の全部、名前変えると、全国の時刻表から全部、その調整が非常にハードルが高いということでありまして、それよりは副駅のほうがハードルは低いというお話はいただいてますので、軽井沢とか、向こうのほうもそうですけど、そういったことで副駅のお願いはしてはおります。あとは駅舎につきましては、やはり、そういった雨で濡れてしま

うとか、いろいろあると思いますけど、そういったのはまず只見駅の話を最初にして、それからいろいろまた沿線の方々、議員の皆様と只見線を支援する会の方々、沿線自治体と協議しながら、それは検討していきたいなというふうに思います。

あとはあの、駅の移動につきましては、これ、非常にまたハードルがさらに高いということで、現在は基本的にもう、新しい線路はどこであっても踏切はつくらないという考え方ですから、新しくつくるところはもう、全部、踏切なし。ですから、下をくぐるか、高架にするか、ということで、それははっきりしてます。ですから、盛んに今、ＪＲも、只見駅の脇の踏切も、毎年のように踏切を廃止してほしい。滝神社に通じるところですが、踏切を廃止してほしいという話はありますが、勿論、町として、わかりました、なんていうわけにはいきません。皆様、日常使っておられますし、滝神社に通じる大切な踏切ですから、やはりそれは残してほしいということをずっとやってます。ですから、その駅舎の塩沢のことはわかりますが、副駅の話はそういった話いただいてますが、なかなかこう、前町長もそういう話をされたというふうに伺ってますが、なかなか、さらにハードルが高いものがあるなというふうに思っております。率直なところを申し上げさせていただきました。

○議長（大塚純一郎君）　地域創生課長、目黒康弘君。

○地域創生課長（目黒康弘君）　今ほどの酒井議員のご質問についてお答えいたします。

まず、駅の二つ、塩沢と蒲生駅ということで、塩沢駅の移動については今、町長のほうからも申し上げたとおりでございます。なかなか、非常にハードルが高い部分がありまして、町長もおっしゃっていたとおり、副駅名ということで、今相談をさせていただいているところです。

それで、両駅については、ボランティアで草刈りということでやっていただいている経過がございまして、先ほど議員ご指摘のとおり、看板が錆だらけ。そして、ホームの手すりとかが錆になっているというようなところもございます。こちらについては今、只見線の復興推進会議開業準備室のほうと、まだ県のほうの改修が終わるまでは設備としては県の施設にならないので、県の施設に、改修工事が終わった後で、先々のお話はさせていただいております。ただ、こういった錆だらけになっている部分は塗装したりとか、新たな形で改装は予定しておりますが、その中でも、せっかくあの、只見駅の、我々のほうのところでパンフレットを作ったりとかというところのデザイン的な部分で、会津短大の学生さんとか、東北芸術工科大学の学生さんが入ってもらって、デザイン的な部分もやっていただきました。そう

いった中で、まだ仮の話ですけども、両駅の駅舎に将来を担う子供たちの絵を、只見線に関連するもののようなものを書かせていただいて、そういったものを残していって、地域のシンボルとしていってはどうかというご提案もいただいております。そういったところも含めまして、検討させていただきながら、両駅、開通後にはきれいになっているような形で進めさせていただきたいと思っております。

○議長（大塚純一郎君）　２番、酒井正吉郎君。

○２番（酒井正吉郎君）　今のお返事で、ハードルは高い。賛否はあるでしょうが、乗降客の目線で、さらに再開通後は上下分離方式で駅、線路などは県、自治体のほうの担当になるということですので、是非、今後もあきらめないで、この検討事項を残していっていただきたいと思います。

次に、このエリアは、魅力がいっぱい、おもてなしいっぱいの地域です。ここで二つ目の提案です。滝湖を白鳥の湖に復活したいです。笑っちゃいけません。豪雪地帯の山奥にある白鳥の越冬湖は珍しく、かつて白鳥おじさん、岩淵さんの長年に亘るお世話により１００羽あまりまで増えましたが、現在は２０羽あまりだそうです。芦ノ牧温泉駅のねこ駅長は癒しの存在で超有名ですが、こちらはＳＮＳ映えを狙うばかりでなく、動物愛護の面からも再現したいものです。そして、ここ３地区では、それぞれわらび園が開かれ、春一番の山焼きは圧巻です。公園や河川敷沿いにブナの若木や水仙などの多年草を植栽し、町外からのお客様をもてなしておられます。川霧、山霧の中での舟遊びなどは、金山・三島の霧幻狭の渡しにも劣らない魅力になります。白鳥の湖の再現、３地区の歓迎のおもてなしに対し、町長、伺います。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　貴重なご提案ありがとうございます。本当に、白鳥、昔、私もあの、そういった白鳥を守る会ですか、探鳥会で参加させてもらったことあります。その後、豪雨によりまして、一時は飛来しない年が何年かあったかと承知しておりますが、また最近、白鳥が飛来して、見えるようになって良かったなというふうに思っております。当時、岩淵さんが先頭に立って、白鳥の餌やりをやるところを何回も見ておりますので、そういった白鳥が来る駅ということは非常に魅力的だなというふうに思います。

山菜につきましても、本当に集落の方が、本当に自主的に、自分達で野焼きをされて、管理をよくされて、本当に献身的にやっていただいているというふうに頭が下がる思いであり

ます。本当に県外の方も、町外の方も、毎年、それを楽しみにして、リピーターとして来られる方も多くいらっしゃるということも承知しております。また、お土産として町外の方にお届けすると、本当にこんなおいしい、太いもの、立派なものということでびっくりされる方も多くいらっしゃるということも承知しております。そういった様々な魅力に満ち溢れてますので、あとはそれをどういうふうにこう、束ねるといいますか、うまくコーディネイトして、それを魅力として発信できるかということがとっても大事だということをおっしゃっていただいているというふうに受け止めております。まさにそのとおりだと思いますので、そういったこと含めて、今後検討して、そのような方向に向けてできるように、みんなでこう、力を合わせて、アイディアを出し合って、できるかということを考えていきたいというふうに思いますので、引き続きのお力添えをいただきたいというふうに思います。

○議長（大塚純一郎君）　２番、酒井正吉郎君。

○２番（酒井正吉郎君）　逆の立場になって考えてみますと、ほかより目立って、魅力的でなければ、只見に来ません。そこをスタートに返って大切にしていきたいと思います。

　次に、蒲生に向けて川べりを走りますが、寄岩沿いの全長３７１メートルの第８橋梁がビューポイントになります。そして、今の蒲生駅はひっそりして寂しい限りですが、再開通後には蒲生区民の元気な人たちが駅のまわりに集まり、無人駅とは思えないおもてなしいっぱいの公園駅に様変わりし、人気の駅です。東北のマッターホルン、蒲生岳の登山口と、かたくりまつりの花園は駅のすぐ目の前です。集会施設ゆきの里のさわやかトイレはいつもきれいに管理され、登山客や通行客に感謝されていますが、蒲生岳登山口と駅に続くメインストリートは道幅が狭く、路肩が軟弱なため、改修の余地有と思いますが、何度も改修をお願いされていると思いますが、担当課長の見解を伺います。

○議長（大塚純一郎君）　農林建設課長、星一君。

○農林建設課長（星　一君）　今お質しの道路につきましては、おっしゃるとおり、非常に狭い道幅というような状況になっております。状況についてはおっしゃるとおりということでありますけれども、様々な補償関係も大きく絡んでくる。なかなか、改修するには大変な道路ということを認識しております。なお、集落の方々も含めまして、今後、改めて検討しながら考えてまいりたいというふうには考えております。あそこ、なかなか、元々、用地が非常に狭いところですので、なかなか解消策というのが非常に難しいかなというふうには思いますけれども、なお、そのあたり含めて検討はしてまいりたいと考えております。

○議長（大塚純一郎君）　２番、酒井正吉郎君。

○２番（酒井正吉郎君）　次に、八木沢地区から車窓に浅草岳の雄姿を見ながら、叶津川の上を左に大きくカーブを描きながら、長い叶津川橋梁を渡ると叶津地区です。この地点には撮り鉄に人気の二つ目のビューポイントがあり、蒲生岳をバックに叶津川を渡る列車、特にＳＬの力強い姿は感動ものと言われました。続けます。そして、まもなく只見高校の校庭の桜並木を見ながら、有志の方々の力作である笑顔のかかし君達の歓迎を受けながら、只見駅に到着となります。只見駅は昭和３０年から５０年代にかけて、ダムの建設資材や木材の積み下ろし駅として乗降客と貨物が盛んに行き交ったので、駅の敷地は只見線の中でも広く、中核駅としての面影を残しています。かつては駅前から始まる中心市街地は奥会津一と言われる賑わいを見せ、沿道にはあらゆる店がひしめき合っておりました。今では見る影もなく寂れてしまいましたが、駅を中心にまわりの里山風景を見直してほしい。この只見盆地の中に広大なユネスコエコパークの町只見の縮小版、ミニ只見の原風景をつくるべきと考えます。桧枝岐ではミニ尾瀬づくりに大金を投入されていますが、こちらは費用を抑え、自然の、只見の自然をここに凝縮させるのです。背戸山には難攻不落で歴史的にも有名であった山城、水久保城を配し、その裾野には滝神社と三石神社が連座しており、今後は磨きをかけて、信夫山の花見山ならぬ、要害山の花園に整備していくべきところです。奇岩を本殿と祀る縁結びの三石神社を磨きなおし、滝神社から桜並木と菖蒲園を通り、ヒメサユリの咲くゆり平へ。そこから続くスキー場は遠方からも良く見えて、斜面を利用して春から秋まで多年草の花や山野草に彩られ、上段は雪まつりの火文字が良く似合います。里山には町の木・ブナと町の花・こぶし。花言葉は友情と歓迎。そして、桜並木と菜の花が咲き乱れる様を想像してください。その中を流れる只見用水の脇には、水の郷只見にぴったりの力強さと癒しを兼ね備えた巨大なご連水車が回る光景は最高のビュースポットエリアになると思います。ＳＮＳに載って、いつの日か、奥会津癒しの里只見と紹介されないでしょうか。まず、やるべきことは観光施設等のハード事業ではなく、自分達ができるソフト事業からと考えます。

　要害山の裾野の整備、巨大水車の出現などについて、町長、ここで希望の持てるコメントをお願いします。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　本当に、魅力に満ち溢れたご提案ありがとうございます。

　これ、一つ、だいぶ前になりますけど、要害山にかつて鉄塔を立てるという話がありまし

た。ですが、只見区、地域の方々が、やはりあの、要害山、山城であったところに近代的な鉄塔を立てるのはいかがなものかということで、その声が大きく届きまして、その事業者さんは鉄塔建設をあきらめたということがあります。そういったことから、当時の只見の地域の方々、関係者の方々の、やはり、要害山、シンボルの山であったり、地域の景観を大事にしていきたいという思いは強く持っておられるということは十分承知しております。

またあの、本当にそういった魅力的な景観であったり、様々な整備をしていくということも大事だなというふうに思っております。それにはやはり、議員の皆様はじめ、関係の方々、今も三石神社の整備のことで、実はあの、昨日、三石神社のところにテレビ局の方が来られて、放送された番組が昨日の夕方、流されたようですが、そういったようなことであれば、民放のほうでもそういった只見線のことに今注目を、三石神社の縁結びとか、注目をもって取材に訪れていらっしゃいますので、そういった中でもそれぞれの職員が丁寧に対応させていただいて、その魅力のあるＰＲに努めていただいています。また本当に、かかしにつきましても、最初、本当に、本当に人が居るんじゃないかと思うほどびっくり、見間違うような素晴らしいかかしもあそこでお迎えだったり、またお帰りになる特見ていただくように、献身的な立派なかかしが立っております。

そういった中で、やはり地域の方々のご理解・ご協力、引き続きのご理解・ご協力なしでは何一つ達成できませんので、そういった関係を大切にさせていただきながら、併せて体制の整備もしっかりしていって、一挙にはできませんけど、やはり魅力ある只見駅、只見町となるように、努めてまいりたいというふうに思いますので、引き続きのご指導をお願い申し上げます。

○議長（大塚純一郎君）　２番、酒井正吉郎君。

○２番（酒井正吉郎君）　ＪＲ東日本側からは、再開通当初は一日３本のダイヤで運行すると条件づけられているようですが、それなら、空き時間の長いダイヤを逆手にとって、町内から里山地域まで散策してもらいましょう。駅中心に二次交通とレンタサイクルなどを利用すれば、春には残雪とブナの新緑。秋には紅葉の美しい田子倉方面。国内最大の水力発電所群。田子倉湖の遊覧。只見湖一周から旅行村にかけてのサイクリング。ユネスコエコパークの本拠地ブナセンター。歴史遺産の叶津番所。河井継之助記念館など、好みに合わせていろいろの選択肢があります。理想を言えば、一日以上滞在してもらい、只見４名山や、癒しの森・恵の森など、登山・トレッキングを楽しんでもらい、朝日地区の天神山、黒谷川、湯ら里周

辺や明和地区の旧考古館周辺、布沢地区、ブランドのトマト畑、ねっか醸造所など、多くの見所・過ごし所を回遊してもらい、地域の文化と人に触れあってもらい、そして只見のリピーター、関係人口の仲間入りをしてもらいたいと思います。

ここで少し脇道にそれますが、渡部町長は、奇跡の復活ローカル線として有名なＪＲ五能線と、千葉県のいすみ鉄道に乗車されたことはありますか。あったら、その時の感想などをお願いします。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　残念ながら、両路線とも乗ったことはありません。

そういった中で、実はあの、これもある国会議員の先生にご紹介されて、鉄本という本がございます。それはローカル線を利用して地域創生、地域の発展に繋げるということで、今、単行本が２８巻まで出ております。今、町長室にありますけど。それ、職員、地域創生課の職員も見ておりますが、それをある国会議員の先生に勧められました。それはまだ只見線の全線再開通が決まる前でした。やはりあの、そういった中に、鉄道を地方創生の頼みとするというものでありまして、やっぱり、当時、役場の課長でしたが、課長、それ、読んでおいたほうが良いよということで、それを全部読ませていただきました。読みました。買って。やはり、そういった中でもいすみ鉄道とか五能線。そういった様々な地方の赤字ローカル線含めた復興・復旧、または廃線になった様々な事例が出てまいります。そういった中で事例としては知っておりますが、まだ乗っておりませんので、是非、機会をつくって乗ってみたいなと思います。

あと、ただ、前町長当時、そういう五能線を、やはり只見線が目指す路線の一つだということで、町村会ですか、関係者の方々が五能線に乗られたということで、その経過、その時の様子は承っておりますので、そういった参考になる先進地。

あといすみ鉄道の社長さんには前回、魚沼市で会議あった時に、今年の３月ですか、直接、名刺交換させていただいて、いろんな話も聞かせていただきましたので、そういったことはありますけど、正直、乗っておりませんので、是非、機会をみつけて乗せていただきたいなというふうに思います。

○議長（大塚純一郎君）　２番、酒井正吉郎君。

○２番（酒井正吉郎君）　トップ自ら行かなきゃだめです。成功事例の良いところはちゃっかり真似しましょう。只見の持ち味を生かして。

二つの路線ともユニークな中にも地域の特徴を的確に捉えた取り組みをしており、特に五能線は、ＪＲ線とは考えられない観光体験メニューを提供しており、手本にすべき鉄道です。海沿いを走る一部区間では徐行運転を行い、景勝地である千畳敷駅では１５分間も停車し、停車時間中に千畳敷海岸を散策することができます。またご当地駅の列車内では、津軽三味線の演奏や津軽弁語り部体験も行われ、車内販売では今では珍しい駅弁や乗車記念グッズ、晩酌セットも注文できるサービスも提供されるなど、１４７．２キロの長い旅を退屈しないで楽しませる工夫がされています。また、集客するためだけの作りごとやイベントではなく、先人から脈々と続く、地に足付いた生き様の磨き上げが根底にあり、それがお客様に伝わってくるからこそ、このように只見よりはるかに遠い本州の果てまで、お金と時間をかけて多くの人が旅をされるのだと思います。今では軌道に乗り、リゾートしらかみとして青池・橅・くまげらという、それぞれ特徴を持った３種類の高級感のある快速列車が人気を博しています。只見線にも近い将来、過去に運行された、多層階建て急行猪苗代や、急行奥只見号。そして、特別列車四季島などが運行されることを目指したいものです。五能線の良いところを見習い、名実ともに山のローカル線日本一の只見線を目指しましょう。

町長は関係人口を増やしたいとのことですが、並行して只見２世・３世の方々に繋がる、ふるさと只見会などへのアタックが大切です。町の人口４，０００人よりはるかに多くの只見出身者が町外で活躍されて、故郷を見守っていてくださるわけで、この方々、親戚人口の掘り起こしから急ぎましょう。少子高齢化、人口減少に加速度がつき、相撲で言えば俵に足がかかっているわけですが、役場内だけ課題を抱え込まず、情報を共有し、明和地区の農業青年を中心とした元気印グループや、朝日地区でかつて黒谷川の川幅いっぱいに鯉のぼりを泳がせた唱平の中年グループ、町内３地区で老若男女が１本の担ぎ棒の下、わっしょいした祭好きの皆さんなどが、そして只見の土台をしっかり支えている女性陣と、未来のある若い世代の方々、経験豊かな年配者の方々と対等にタックを組んでいきましょう。リーダーが不足なら、町外から移住定住、二地域居住されている只見町復興請負人の方々もたくさんおられます。例えばブナセンター長、株式会社湯ら里の営業本部長、布沢縁樹の家のオーナーの方々ほか、明和自治振興会の方々など、民間の方にも見識と行動力のある先輩の方々が出番を待っておられます。遠くの神様にすがり、コンサルタントへの丸投げは成功したためしがありません。

今回も質問が迷走してしまいましたが、厳しい荒波の中、只見線の復興存続に向けてみん

なで頑張ることは、とりもなおさず、只見町そのものの再興に繋がることと信じます。

最後に、只見町と只見線の復興に向けての町長の覚悟を再度求め、質問を終わります。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　最後の答弁の機会になると思いますが、お答えいたします。

本当にあの、明和地区の農業青年の方々が、本当に、子供達、明和の子供達に、お米作りから、将来、成人したときにお酒飲めるような取り組みとか、様々な、受発信をされておられますし、あとはかつて黒谷川に架かる多くの鯉のぼりの、その時の景色も今浮かんできました。また、早苗饗神輿。再興会で代表としてご活躍されましたけど、当時の本当に元気あふれる只見町を今思い起こしております。

そういった中で、やはりトップセールス、とっても大事だというふうに、それは自覚しております。そのように努めてまいります。そのうえで、やはり議員の皆様のお力添えがなければできませんので、やはりあの、町内にいる方々の声をしっかり聴かせていただく。意見交換をさせていただく。そして、只見町出身者の方々、また、出身でなくても只見町のファンの方、只見町を応援しようと思う方々のお一人お一人のお気持ちを大切にして、力を合わせて、役場が下書きあって、これをやってくださいという時代では、もうありませんから、一緒になって、みんなでより良いものをつくり上げて取り組んでいくと。まさにおっしゃるとおりだと思いますので、そういった考え方で懸命に努めてまいりたいというふうに思いますので、覚悟のほどを申し上げまして一般質問に対する答弁と御礼とさせていただきます。

ありがとうございます。

○２番（酒井正吉郎君）　以上です。

○議長（大塚純一郎君）　質問時間６０分になりました。

これで、２番、酒井正吉郎君の一般質問は終了しました。

続いて、６番、矢沢明伸君の一般質問を許可します。

６番、矢沢明伸君。

〔６番　矢沢明伸君　登壇〕

○６番（矢沢明伸君）　６番、矢沢明伸です。

通告に基づきまして、一般質問をさせていただきます。

私の一般質問は２点あります。

一つ目は、只見線の再開通、国道２８９号八十里越の開通を目前にした具体的な振興策に

ついて。

もう一つは、平成２３年新潟・福島豪雨災害から１０年、災害対策に向けての対応についての二つであります。

まず１点目。只見線の再開通、国道２８９号八十里越の開通を目前にした具体的な振興策についてでありますが、まず歴史的な流れから振り返ってみますと、昭和４６年に只見線が全通し、昭和４８年には国道２５２号六十里越が開通しました。当時は多大な地域の盛り上がりと、地域発展に大きな期待が寄せられました。そして、行楽期には多くの観光客が訪れ、旅館、民宿等も賑わいを見せてきました。もう一つの街道八十里越は、明治末期まで新潟県中越地方と南会津地方の経済的、人的交流の重要な生活の道として利用されてきました。しかし、時代の変遷の中で物資や商品の輸送が磐越西線、鉄道へと移行し、八十里越は衰退してきました。そんな中、先ほどの明治末期からいろんな人の尽力がありまして、昭和４５年には国道２８９号に指定され、昭和４７年には国道２８９号線八十里越地点開発促進期成同盟会が結成され、冬期間も通行可能となる八十里越の開通は長年の悲願として工事が進められてきております。

今般、国道２８９号八十里越が令和８年にも開通されると報道されました。この開通によって、新潟、日本海方面との通年の交流が図られ、観光ルートや物流等の重要な路線として振興、活性化が期待されております。

また、平成２３年の新潟・福島豪雨災害により不通となっていますＪＲ只見線は、再開通が令和４年の上半期にも予定されているとＪＲからの報道もされております。

全国的にも、数年の中で鉄道そして道路、交通環境が大きく改善される地域は他にはないと考えております。只見町は季節によっては末端の地域としてみられてきている部分もありましたが、今般のＪＲ只見線、国道２８９号八十里越、国道２５２号六十里越も含め、周辺地域との交流や只見地域への経済効果、地域振興に大いに期待がされているところであります。

このような重要な変化の時を迎え、今後、既存の設備、道路、施設等も含め、の整備はもちろん、具体的な施策、事業、整備を早急に進めることが必要と考えますが、町長の考えをお伺いします。

次に、２点目でありますが、平成２３年新潟・福島豪雨災害から１０年、災害対策に向けての対応についてであります。

只見町に大きな被害をもたらしました平成２３年の新潟・福島豪雨災害から１０年が経過しました。近年は全国各地で豪雨災害が多発し、住民の生命、財産が危険にさらされている現状があります。只見町でもここ数年の中で台風や豪雨の際に住民への避難指示等の発令がされ、緊迫する状況がありました。

今般、国の避難情報に関するガイドラインの中で避難勧告が廃止され、避難指示等の警戒レベルの内容が改訂されました。災害対応には普段の防災意識の啓発やハザードマップなどの町民への周知のほか、災害時の適時な状況把握が必要と考えております。自治体で避難情報を発令する際には、災害、河川等の水位の状況をタイムリーに把握することが最も重要であり、地域内の河川等の状況把握については消防団等の協力も必要でありますが、増水、そして夜間等の際には危険を伴う場合も多くあると考えます。そのため、町内や流域に設置してある国県の災害情報システムの活用等分かりやすい情報の周知、更に増水時等のリアルタイム、そして安全な状況把握のため、以下の仕組みの構築、検討が必要であると思うが、町長の考えをお伺いします。まず１点目でありますが、河川状況把握のためのライブカメラの整備であります。それから２点目としまして、浸水想定区域や洪水氾濫箇所等への探知センサー等のＩＣＴの活用ということであります。町長の考えをお伺いしたいと思います。

以上であります。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

〔町長　渡部勇夫君　登壇〕

○町長（渡部勇夫君）　６番、矢沢明伸議員のご質問にお答えいたします。

はじめに、只見線の再開通、国道２８９号八十里越の開通を目前にした具体的な振興策についてであります。

国道２８９号八十里越についてでありますが、新聞報道のとおり、国が直轄権限代行で整備する県境の区間について、今後５年ほどで開通を目指すとの方針が示されました。これは大変喜ばしい限りであり、これまで八十里越開通のためにご尽力いただいた数多くの皆様のご努力の賜物と感じており、改めて感謝を申し上げるところであります。

明治時代、八十里越の開削にご尽力された人物として、会津側の長谷部保三郎氏と越後側の西潟為蔵氏が新聞で紹介されておりました。ともに当地域の振興を願い奔走された人物であり、去る６月１３日に三条市において行われた西潟氏の顕彰碑解説板の除幕式に際し、当町としても私のビデオメッセージをお送りし敬意と感謝を申し上げましたので、この場をお

借りしご紹介させていただきます。

さて、議員お質しのとおり、間近に迫った開通を見据え、既存施設の整備を早急に進めていく必要があると私も考えております。道路については、現在、国道２８９号田中工区や黒谷工区の歩道整備が進められておりますが、今後は狭隘区間や危険箇所の解消を行なっていく必要があると考えております。特に、小林地区と大倉地区をつなぐ明和橋周辺や長浜地区の桃木沢周辺など、過去に交通事故や災害が度々発生した箇所やその他の危険箇所の解消を含めて、道路管理者である福島県や国に対してしっかり要望してまいりたいと考えております。

また、施設等につきましては、現在進めておりますモノとくらしのミュージアムの整備をはじめ、河井継之助記念館・ブナと川のミュージアムなど町内施設の充実を図り、地域の魅力向上に努めてまいりたいと考えております。さらには、ＪＲ只見線の再開通に合わせた駅前の賑わいづくりが急務であり、多少簡易的であっても、町の総合案内、物販、飲食の各機能を充分担う施設整備と運営体制の確立を、議会や関係機関等のご意見・ご指導を賜りながら早急に進めていきたいと考えております。

次に、平成２３年新潟・福島豪雨災害から１０年、災害対策に向けての対応についてのご質問でありますが、平成２３年豪雨以後の災害発生の実態、法律改正の経過は矢沢議員ご質問のとおりでありますし、対応にあたっての課題やその対策の必要性についての認識は、まさにそのとおりであると考えておるところであります。

項目の１点目、河川状況把握のためのライブカメラの整備についてでございます。現状でありますが、只見川と伊南川の合流点や柴倉橋などの県が整備したライブカメラにより河川や道路状況の確認ができる地点があり、また、森林の分校ふざわ、河井継之助記念館、保健福祉センターにも町のライブカメラを設置してございます。このカメラの状況は町ホームページからご覧いただくことができるようになっております。夜間は暗くて映像が映らないなどの課題がある箇所もございますので、引き続き対応策を研究するとともに設置箇所増に向け県等へ要望してまいります。

２点目の浸水想定区域や洪水氾濫箇所等への探知センサー等のＩＣＴの活用でありますが、河川の水位状況やダムの水位状況は、国土交通省や県のサイトでの水位把握に努めているところであり、これもライブカメラ同様に町ホームページからご覧いただけるようにしてございます。

洪水氾濫箇所等への水位計ですが、現在、叶津地区堅盤橋地点や楢戸地内楢戸橋地点ほか町内８ヶ所に県の水位計が設置されておりますが、昨年度１１月に小林地内中ノ橋地点等５ヶ所の増設要望を行っている状況であり、今後も町民の安全安心のため努力してまいります。

矢沢議員お質しのとおり、令和３年は新潟・福島豪雨から１０年の節目であります。７月４日に防災訓練を計画しておりますが、今年から避難情報に関するガイドラインの避難指示警戒レベルが改定されておりますので、それに対応した訓練を実施いたしますのでご理解・ご協力をお願いいたします。

以上でございます。

○議長（大塚純一郎君）　６番、矢沢明伸君。

○６番（矢沢明伸君）　答弁ありがとうございました。

それであの、私のほうからは、只見線、それから国道２８９号八十里越の開通を目前にしたということでの質問であります。この中で、年次的に早いのが只見線の再開通であります。ＪＲのほうですと、令和４年、もう来年の上半期には開通をさせたいというような報道でありますが、まだまだはっきりした状況、まだ示されておられない中でありますが、ただ、先ほどの酒井議員の質問にもありましたけども、大変、皆さん、期待している路線でもあります。

全国的にも、冬場だったでしょうか、旅と鉄道ありがとう１００号記念号という中で、好きなＪＲローカル線の第１位に選ばれております。先ほど五能線という話もありましたが、五能線はこの中で３位であります。１番になった理由というのは、只見線がダントツ１位、元々、絶景秘境路線としての人気はあったが、豪雨災害の一時不通区間の復活への願いがさらに票を伸ばしたようだ。その魅力は福島県とＪＲ東日本を動かし、とうとう全線が繋がることでさらに人気は高まりそうだというようなコメントが載っております。ということで、この地域のみならず、全国的にも大変注目を浴びております。

そういう中で路線の景観の保全事業、景観が悪いところの木の伐採とか、そういう事業が進められておると思いますが、そのほかにやはり、一番は、先ほどの酒井議員の答弁の中にもありましたけども、駅舎の状況だと思います。昭和４８年に只見線が全通してから、幾分、屋根ができたり、駅舎の部分というんですか、ホーム部分は改善された部分ありますけども、なにぶん、駅から乗降するところまで、大変距離が長い。そして、途中に坂があったり、冬場はもう、雨の中とか、大変な状況の中、列車を待たなきゃならない。で、町民の方からも、

あんな駅はないよ。なんとかできないのかなと、そういうのがいっぱいあります。それで、一番は、体の不自由な人、お年寄りの方、本当にそういう方も安心して訪れられる、乗降できるような駅舎が必要だと思います。駅舎はＪＲの物件でありますが、町として、鉄道のこちらの玄関口になります。やはり玄関口はお迎えする一番のところだと思いますので、そこをなんとか改善できるような（聴き取り不能）ができないか。本当にあの、いろんな、一般会議、町民の方の会議の中でもあったんですが、要望があります。地元住民の方の利用もそうなんですが、来られる方も同じです。やはり、優しい、体の不自由な方に優しい施設づくり、そのような面で、是非、駅舎の改修を、要望をいただきたいと思いますが、現在の町長のお考えをお聞かせください。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　お答えいたします。

本当にあの、只見駅舎並びにホーム。そういった課題は議員おっしゃるとおりだというふうに認識しております。

一つには、ホームと駅舎の間が遠くて、屋根もないということで、雨や雪が降ったときに、本当に、傘がなければ濡れてしまうという、また、距離が長いということ。あと、ホーム自体も幅が狭くて手すり等もありませんし、また、待つにしても、例えば小出駅ようなフードっていいますか、その囲うところもありませんので、まともに風雨が打ち付けるという、非常に乗降するのに不便といいますか、不具合なところだなというふうに認識しております。

私、就任してから、只見駅管轄は会津坂下駅長さんだということでありますので、会津坂下の駅長さんのほうに、そういったことはまずお願いして、管理助役さんにもお会いしてお願いして、その後、ＪＲ東日本仙台支社の企画部長さん、その後、仙台支社長さんに同様のお願いをし、その後、内堀福島県知事に、只見駅にわざわざ来ていただきまして、ホームから、駅舎からホームまで、直接、知事に歩いていただきました。そういったことで要望はしておりますが、なかなかすぐ、はい、わかりました。直します。というところにはいきません。そういったことで先般、先日、只見線を支援する会の会長さん以下、役員の方々が、役場のほうにわざわざおいでいただいて、そういったご要望いただきました。経過、話しました。ですが、町長、そだ弱気でだめだぞと、もっと元気出して、支援する会の皆さん、町民の方々、多くの方々が応援していただいてますから、もっと政治力発揮して、しっかり頑張ってくれというふうに力強いお言葉をいただきました。ですから、課題としてはそのように

受け止めておりますし、矢沢議員はじめ、全ての議員の皆様のお力添え、先ほども酒井議員からもお言葉いただいております。また、多くの町民の方々、応援団の方々、全国のファンの方々含めて、そういった声をちゃんと受け止めて、やっぱりその改善に、当然、町のトップとして努めていかなければならないというふうに思っておりますので、それに向けて努力をしていきたいというふうに考えております。

○議長（大塚純一郎君）　６番、矢沢明伸君。

○６番（矢沢明伸君）　実情を認識いただいて、それのような行動もされているということで、是非、強くお願いしたいと思います。特に、再開通にあたっては県も関わっておりますので、県も含めてＪＲのほうに要望を強くお願いして、これも大変時間のかかることだと思いますので、いわゆるトップセールスといいますか、町長のその意見を是非伝えていただければと思います。

次にあの、先ほど答弁書の中にもありましたが、ＪＲ只見線の再開通に合わせた駅前の賑わいづくりが急務であるということは私もその趣旨は本当に理解できます。今、現状の駅を降りて、それから、案内、お客さんが降りてからどこに行くか。あと、休むところがほとんどありません。そのような状況で、ほかの駅舎ですと、当然、休憩する場所があったり、その辺のところが、時間を過ごすところが結構あるんですが、只見駅では本当、先ほどの駅舎も含めてなんですが、本当ありません。やはりお迎えする中ではお客さんを優しい対応ができるような、また誘導できるような、そういうふうな雰囲気をつくることが必要だと思います。現状としまして、こういう事業はこの先だと思うんですが、今できること。例えば駅前から歩いて、ふるさと田子倉館ですか、あの辺のところを、ちょっと休憩ができるような感じも含めて、対応できるような施設になればいいのかな。そして、その辺でワンストップサービスが、駅から含めてその辺でできるような形を是非考えていただきたい。そう思います。

まずあの、只見に来る目的。そういうものをまず、最初にスタートするところが駅になると思いますので、駅からその周辺にかけての対応をする場所、その辺のところをうまく雰囲気づくりを、つくっていただくようにお願いしたいと思うんですが、町長のお考えをお願いします。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　議員おっしゃること、まったくそのとおりだというふうに受け止めております。直ちに、只見の駅舎はＪＲさんのものでありますので、その中に手を加えるとい

うことは町としては今できませんが、やはりあの、来年、はっきりした日時は決まっておりませんが、来年中には只見線が全線再開通するという報道といいますか、話を伺っておりますので、それに間に合うように、具体的な目標としては来年の７月というふうに考えておりますが、夏休みには間に合うようにという意味ですが、そこでやっぱり駅前に、議員おっしゃるような案内ができる。町の総合案内ができる機能と、あとは飲食。多少の飲食だったり、物産販売できるところを整備したいと。多少、簡易的になるかもしれませんが、そういったのを整備していきたいというふうに思います。

併せて、あと駅前の土地、町有地とＪＲ用地、交錯しておりまして、様々、過去にもイベントとか駐車の関係で不具合ありましたので、ＪＲと今協議進めてますので、確定測量して、その権利関係を明示して、町として必要なところをＪＲから買収させていただきたいなということで今交渉をスタートさせております。そういったことで、議員おっしゃるような方向で整備を進めていきたいなというふうに考えております。

○議長（大塚純一郎君）　６番、矢沢明伸君。

○６番（矢沢明伸君）　再開通が本当、あと一年後くらいに迫っておるという中で、新たな事業を展開するのは大変厳しい状況もあるかもしれませんが、ただ、雰囲気づくり、それは将来的にも繋がることでありますので、今できることからまず着手をお願いしたい。で、やはり、ＪＲを利用して来られる方の視点に立った、（聴き取り不能）迷わないようにするにはどうしたらいいか。その辺の視点を大切にしながら、是非、いろんな事業の展開を図っていただきたいと思います。

それから次に、国道２８９号八十里越の開通については新聞報道されました。５年後を目途というか、まだまだ、いろいろ工事区間の課題はあるようですが、５年後を目途に開通をさせたいと、北陸地方建設局のほうからも話があるようです。そういう中で、答弁書にもありますが、既存の施設の整備を早急に進めていく必要があると考えておりますということで、私も本当にそう思います。国道２８９号八十里越、先般、建設事務所との勉強会あった中で、建設事務所の調査が一日１，８００台ですか、そのくらいの交通量があるということで示されましたが、そうなると、現状の中での、やはり道路が狭い区間、町から、それから議会からもいろいろ要望はされております。やはり、町としても、町の中で、ここは本当にあの、要望のほかにやっぱり狭いところがあるというふうに、全線を含めてもう一度検証しながら、是非、このタイミングに改善ができるようにお願いしたいと思います。その中で、道路、楢

戸から椿、あの辺も大変、歩道がなくて狭いところあります。で、よくダンプとか、大型車来ると、片方の車両が止まって通過する場面なんか、よく見ます。やはり、そういう状況でこれから交通量が増えてくると、地元の町民の方も大変、安全というか、そういう部分で本当に苦慮されている部分だと思います。そういう狭隘な部分も含めてあれなんですが、一番大きなものは駅前の交差点。以前、国道２５２号線が開通して、行楽期、大変な車が訪れました。その際に、役場前の交差点。本当、１００メートルも車が並んでしまって、渋滞して、本当に南郷方面に向かう車が、もうストップしてしまって、交通渋滞が引き起こしたという状況がありました。今度、２８９号が開通すれば、もっとひどい状況になるんじゃないかと。是非、山口のあのトンネル、そういうところにも既にできておりますが、右折専用車線がある。つくれば、そういう部分は多少なり解消できると思いますので、その交差点の解消を含めて、狭隘区間も含めて、既存の道路整備を是非、国・県のほうに強く要望を早急にお願いしたいと思います。町長のお考えをお願いします。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　国道２８９号線八十里越を含む全通並びに２５２号六十里越の町にとって大切な国道でございます。そういった中で交通量が増えるということは、おっしゃったように、当然、予想されておりますので、交通安全対策につきましては道路改良含めて万全を期していかなければならないというふうに思っております。具体的な道路改良計画の中では、今、庁舎なくなってしまいましたけど、建物ありました町役場、雨堤１０３９番地。あそこの田子倉方面から若松方面向かっていくときに、やはり、山口に向かっていくときの右折レーンを設けるという話は当時、建設事務所のほうからそういった考え方は聞いたことはあります。なお、その辺は議員おっしゃるように右折レーンの必要性は感じております。また、道路改良になれば、隅切りも当然、用地の提供含めて必要になってくるというふうに思います。今般、県のほうは駅前のほうから、町の駅前の賑わいづくりということも建設事務所、十分、ご理解いただいておりますので、今般、駅前のほうからやってもらってますけども、いずれ、そういったところも改良をお願いしていきたいというふうに思っております。

　併せまして、先ほど答弁の中で代表的な２箇所を申し上げましたが、これだけだということはありませんので、以前から危険個所はいっぱいありますので要望しております。先般の勉強会の中でも、中ノ平橋、災害を受けたときの橋の心配だったり、また、会津若松方面に行く叶津の堅盤橋の話も出ましたし、それ以外の今、楢戸のカーブのところとか、いっぱい

危険個所はあります。ただ、今回、代表的なところで小林と大倉。あそこは本当に、直角に曲がるようなところでありますので、その橋の架け替えと、やはりあの、長浜の桃木沢。あそこも日当たりが悪くて、降雪時にスリップ事故があったり、春先、雪崩が起きたりということで、やはりそこが、代表的なところ２箇所申し上げましたが、ほかのところも十分、そういったところは承知しておるつもりですが、そういったことで県や国に対してしっかりと要望してまいるということに尽きてしまうんですが、そのような認識でおりますので、引き続き、様々なご意見、お気づきのところがあればご指導いただきたいなというふうに思います。

○議長（大塚純一郎君）　６番、矢沢明伸君。

○６番（矢沢明伸君）　是非お願いします。町民の交通の安全安心のためばかりじゃなくて、この国道２８９号八十里越については、福島民報でも本当、何名かの方が投書であげておられましたが、八十里越の開通に期待します。是非、あそこを通ってみたいというふうな投書がいくつもありました。そういうことで、遠くから来られる方が、あんなひどい狭いところ、行くのやだ。そんな話がないように、やはり、このタイミングで、強く要望しながら、是非、来訪者、それから町民の方の安全安心のための道路事情の改善を強く要望をしていただきたいと思います。

で、今回、具体的な振興策ということでお伺いしておりますが、既存の設備の整備。今の道路状況の改善もあったんですが、そのほかに、町長がこの国道２８９号八十里越開通にあたって期待しているもの、こういうふうにしていきたいという部分がちょっと、答弁の中にはなかったようですので、是非その辺のお考えをお伺いします。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　本当にあの、町民の皆様、只見に来られる方々の交通安全を第一に考えるというううえで、さらにそのうえで、観光や産業面への振興、地域の振興に繋がる大切な道路であるというふうに認識しておりますので、それに適うような取り組みをしていきたいと思います。

それには、産業面のことは勿論でありますが、おこしいただいた方に観光面で申し上げれば、やはり長く只見町に滞在していただくというものが必要だと思います。そして、宿泊していただく。もしくは宿泊できなくても、日帰りでも、その中でいろいろなところを、先ほど２番、酒井議員のほうからもご提案いただきましたが、町内を観ていただく。そして、土

産物を買っていただいたり、充実した時間を過ごしていただくという準備、体制づくり、あとメニューづくりが必要だと思っておりますので、やはり、そこを十分意識した体制も含めた内容の充実を図っていきたいなというふうに考えております。

○議長（大塚純一郎君）　６番、矢沢明伸君。

○６番（矢沢明伸君）　ありがとうございます。

先ほど酒井議員から、いろんなご提案もありました。それも含めて、本当、この地域に新しくものをつくるというよりも、この地域が持っている、いわゆる資源。それをいかに有益的に結び付けながら活用していくか。それに尽きるんじゃないかなと思います。特に、先ほど国道２８９号八十里越のあの新聞投書の話をしましたが、その中にも、やはり、今般、峠という映画が一年延期になりました。先ほど町長からの話もありましたけど、私も申し込んだんですが、中止という連絡はがきをもらって本当に残念だと思ってます。期待しておりましたが。

そういう中で、本当に八十里越というのは、先ほど答弁書の中にもありましたけども、もう、江戸・明治、大変な尽力をされてきた歴史のある街道であります。で、只見は、八十里越も含めてなんですが、本当に歴史的にいろんなものが存在している地域ではないかと思います。答弁書にありますけども、現在進めておられますモノとくらしのミュージアム。今、内部展示等いろいろやっていらっしゃると思いますが、その辺と、それからブナと川のミュージアムですか。それから答弁書にはありませんでしたが、叶津番所。河井記念館。やはりその辺を歴史をうまく結びつけながら、教育路線ばかりじゃなくて、歴史的な、本当にこの地域の宝ですので、それを町外の方、県外の方に是非見ていただく。そのことによって、この地域に一時的にも滞留していただく。そういうことによって波及効果で、いろんな形での地域の経済効果が得られるような形を是非進めていただきたいと思いますが、町長のお考えをお願いします。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　本当にあの、長く、只見町に来られた方に滞在していただきたい。また、できれば泊まっていただきたいということ、先ほど申し上げましたが、あとは、我々、ここに住んでいる者も同じでございますが、やはり、今度、新しく、来年オープンする予定のミュージアム、モノとくらしのミュージアム。今、大倉地区で整備、外構工事進めておりますが、そういったもの含め、叶津番所であったり、様々な、先ほど議員おっしゃったこと。

やはり一体的なものだという受け止め方が大事だというふうに私も感じておりますので、やはり建物建てたから終わりではなくて、勿論、きちんとした維持管理に努めていくことは当然として、やはり、その後の発信、ちゃんとした管理の下に発信していくということが大事だと思いますので、私もこの歳になりまして、いろいろ感じるところ多くなりましたが、やはり、珍しいところを見て歩く。へぇー、そうなんだ、だけじゃなくて、時々、どういうふうにこの先考えたらいいかって、大きく言えば人生観というか、と重なる部分があります。あまり大きなことは言えませんが、やはり先人の方々はこういう思いで、こういう事業に取り組まれたんだということを、逆に、知らなかった自分が恥ずかしいんですが、そういった学びをいただいてくることがあります。そういった発信の仕方もあるんではないかなというふうに思いますので、先ほどおっしゃった施設、全体的に単片で、それぞれじゃなくて、やはり繋がるような只見町の価値ある財産だというふうに受け止めて、それを管理するだけでなくて、それをさらに魅力あるものとして、自分達が良く理解して、やっぱり発信していくと。それでやっぱり繋がっていくということに、魅力的な地域になる、ということになるというふうに思いますので、議員おっしゃっていただいたことしっかり受け止めさせていただいて、その体制づくり、方向付けについて努力していきたいなというふうに考えております。

○議長（大塚純一郎君）　６番、矢沢明伸君。

○６番（矢沢明伸君）　やはり情報発信というんですか、管理だけでなくて、本当に素晴らしいものを是非、町外の人にも見ていただきたい、感じていただきたいというのがあると思います。

それで、私、１０年ちょっと前だったでしょうか、ある体の不自由な方、家族連れで、団体で、湯ら里のほうに宿泊された時、お会いする場面がありました。その中で、その方達、三島だか、向こうの方とお話したときだったでしょうか。只見には１回も来たことない。だけど、今回来て本当に良かった。そんなに良かったですか。どうしたんですかって話を聞いたときに、田子倉の休憩所、食堂に行った時、駐車場から車椅子でまっすぐ行けた。そして、もう一つは、ブナのミュージアムですか。そちらも自然のあり様を車椅子を使って、体が不自由でも存分に味わうことができました。本当に自然の山の中に行ったようだというふうなお話をされておりました。

それからもう一つは、湯ら里。あそこフロア、全部一体です。バリアフリーというか、今は当たり前のあれだと思うんですが、本当、ちょっとしたこと、先ほどの駅舎もそうなんで

すが、やはり人に優しいまちづくりというか、そういう部分を根底に持ちながら、お迎えするやはり、施策というか必要かなと思います。

そういう面でやはり、町長にお願いしたいのは、ＳＤＧｓではありませんけども、やはり持続性、人に優しいまちづくり。そういう観点で是非、いろんな施策を展開をお願いしたいと思いますが、町長のお考えをお願いします。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　大変うれしいお話といいますか、ありがたいお話を聞かせていただきましてありがとうございます。

本当に、なかなかそういう、お一人お一人の声は、なかなかわからないで過ごしてしまうことあるんですが、矢沢議員がそういうお声掛けをしていただいたと。また、ここで、そういうお話をしていただいたということで、私も知ることができましたし、その湯ら里の職員はじめ、ブナセンターの職員にも伝えたいというふうに思います。本当にそういった受け止め方はとっても大事でありますし、優しい、人に優しいまちづくりと、バリアフリー、そういった案内も含めまして、駅舎とホームの問題、課題残っておりますが、おっしゃるような人に優しいまちづくりに努力してまいりたいというふうに思いますので、今後ともご指導よろしくお願い申し上げます。

○議長（大塚純一郎君）　６番、矢沢明伸君。

○６番（矢沢明伸君）　今後、ＪＲ只見線の再開通。それから八十里越の開通。それからもう既に供用されております六十里越。そういう路線、やはり生かしていかなきゃならない。で、そこに訪れる方が只見をどう感じていただくか。地元の住民、開通したことのメリットが享受できるよう、やはり、いろんな経済効果、波及効果をどのようにこう、求めていくか、つくっていくかというのが、これからの本当の課題だと思います。先ほどの話に通じることなんですが、まず、できることから、そして今あるものを有機的にやはり繋げていくということが必要かなと思います。やはり、もう一つは、住民、町民の方への情報発信。町長にお願いしたいのは、こういうまちづくりをしていくんだ、こういうふうな展開をしていくんだというふうな情報発信を是非お願いしたいと思いますが、そのお考えをお伺いします。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　情報発信の点では、先ほど、２番、酒井議員のほうからもいろいろご指摘いただきまして、まだまだ至らないところ、多々あるというふうに残念ながら思ってお

ります。そういったことを十分認識しつつ、適切な情報発信に努めるとともに、また繰り返しになりますが、人に優しいまちづくり、できるところからということで、大きな目標を持ちつつも、日々できることからやっていくということ、またおっしゃるとおりだというふうに思いますので、そのように努めてまいりたいというふうに思います。

○議長（大塚純一郎君）　矢沢明伸君。

○６番（矢沢明伸君）　それであの、私のほうで質問、２点ありますので、１点目の質問について、答弁書にもありましたが、明治時代、八十里越の開削にご尽力されたという新聞記事がありました。私もちょうど、あぶくま抄、民報だったでしょうか、そちらのほうに載ったのをちょうど目にしました。只見町と新潟県三条市にまたがる八十里越に、本当、大変尽力された人物がおられるということで、２８９号国道八十里越区間が５年後に開通する見通しであり、かつての功労に光を当てる取り組みが始まっているというのが新潟・三条の西潟為蔵さんの記念碑というか、それらの序幕のことだと思います。やはり、いろんな事業、今回の八十里越なんかもそうなんですが、先人の営みの先に今がある。原点を改めて振り返りながら、両県が手を携え、二人が願った地域振興を実らせてほしいというふうな記述がありました。是非、先人の想いを大切にしながら、先人の偉業を是非称えながら、それらを後世に伝えていく、やっぱり歴史を振り返りながらやっていくということが本当に必要だと思います。今日、小学生も傍聴に来ておりましたが、本当、小学生は歴史的なそういう部分は、たぶん、わからない部分多いかと思います。この八十里はこういう道路なんだよ。歴史的なものも含めながら、是非、開通にあたってのいろんな振興策を、是非、具体的に進めていただきたいと思います。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　本当、議員おっしゃるように、元々は八十里越というのは、もっと、江戸期、明治初期まで、一番、国のほうも十分理解して、国という概念ですか、明治になってから、西会津４９号国道であったり、磐越西線であったりということで、それまで、少し大きくなりますが、藩という概念でなくて国という概念になってから、やはり西会津のほうから、新潟・会津のほうにアクセスするというところがいろいろ整備されましたんで、それまではやはり八十里越というのは本当に重要な、越後と会津を結ぶ道路であったということは議員おっしゃるとおりでございますし、今、さらにそこに光をあてて、もう一度、その価値を皆様方のお力、先人の方達の想いを受け止めて、そういった運動で、様々、多くの方が

関わって今に至ったと。本当に一年や二年の取り組みでなくて、本当に長きに亘って西潟為蔵氏は、聞くところによりますと、私費を、自分のお金で、当時のお金で９００万使って、そういう測量をされたということも伺っております。本当に考えられないといいますか、本当に、衆議院議員もなされたり、いろいろ要職も務められておりますけど、やはり素晴らしい方が、将来、只見町といいますか、会津と越後のためにこの道路は必要なんだということで、また只見町、会津のほうでは長谷部さんが、そういった想いで努めてこられたということが今、本当に１００年以上になると思いますけど、今、それが陽の目をあたるということでありますので、その想いを馳せ、もう一度、我々もしっかり、学び直すおといいますか、受け止めて、この道路が、これからの越後が、新潟県、北陸地方、また福島県、会津を含む福島県全域にわたりまして、本当に、皆さん、我々の希望の光であったり、地域の発展のための道路となるように努めていくことがとっても大事なことだというふうに思いますので、引き続き、その想いをしっかりと受け止めまして、頑張っていきたいというふうに思います。

○議長（大塚純一郎君）　６番、矢沢明伸君。

○６番（矢沢明伸君）　ありがとうございます。

そのように、やはり、歴史的な観点に光を当てて、今こそ機運を盛り上げていく。そういうことが一番必要かと思います。やはり、そういう盛り上がりがあるところ、いろんな物語があるところに人は足を止めていただく。そして、そういうことによって地域がまたいろんなところで変わっていくと思いますので、あとは八十里越開通に向けて、近隣町村とのいろんな交流を是非、進めていただきたいと思います。

今般、質問二つありますので、八十里・ＪＲについてはこの辺で質問を終わらせていただきますが、まだまだ課題がいっぱいありますので、是非、具体的な振興策を進めていただければと思います。

次に、平成２３年新潟・福島豪雨災害から１０年ということで、あれからもう１０年経ちました。で、あの災害から、本当に、全国各地で、本当に水害が多発した、本当に気候が変わったのか、本当にあの、大変な時代になったというか、そんな感じがしております。

それで、今年は歴史のない、梅雨が早く訪れる。そんな報道もされております。その中で、梅雨前にして、いろいろ、新聞の中でも災害対応、今回、５月の中で避難勧告がなくなって、避難指示ということ、一本化になりました。やはり、どの地域でも今、そういう行政からの避難指示だとか、勧告とか、そういうふうな、いわゆる情報の関係が本当に重要視されてお

ります。

ハザードマップ。平成２３年豪雨の後に作られておりますが、この辺の見直しも当然必要になってくるかなと思います。昨年、一昨年ですか、台風１９号。あの時の水量、伊南川の水量は、本当、今まで経験したことないような水量だったというように住民の方申しております。で、大変、災害あったんですが、下流のほうはそんな被害はなかったんですが、福井のところ、決壊した。で、ただ、あの水量、平成２３年の時の水量。あれが黒谷川、只見川のほうの水量が増えれば､大変な状況になってしまいます｡こういう気象の状況というのは、本当、どこで変化するかわかりません。今般、台風１９号の時も、舘岩とか、田代の山とか、あちらのほうでの水量が多かったということが一番の原因かなと思いますが、気象状況によってはこれだけ流域面積が広い河川があるところでは、状況の変化というのは本当わかりません。そういう中で、行政が避難情報を発令する際に必要な情報の把握を、まず構築をしていただきたい。そして、住民への正確な情報伝達、的確な誘導を是非お願いをするような、できるような仕組みを是非つくっていただきたいということで今般の質問をさせていただきました。

現在ある只見町のライブカメラ。塩沢。それからあとは保健福祉センター、布沢とありますが、今の現在のライブカメラでは河川の状況、ほとんど把握できないんじゃないかなと思います。で、今は、国・県のほうでも、ライブカメラだとか、いろんな防災システムのほうの整備を進めております。そういう中で、今般の質問の中にも洪水の監視カメラ。これ、町独自の監視カメラの充実もお願いしたいんですが、県との情報システムとの連携。その辺をうまく図っていただきたいということが一つであります。

まず、町長にお伺いしたいのは、現在のライブカメラの整備について、具体的にどういうふうに考えておられるのかお伺いしたいと思います。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　ライブカメラの状況とか、具体的なところは担当課長等から、この後説明させますが、一つ申し上げておきますが、近々、福島地方気象台の台長、トップの方とウェブ会議で、その辺の顔合わせと話をしようということになってます。というのは、やはり、今回、改正があって、避難勧告がなくなって、避難指示というふうになったわけでございます。やはり、カメラとか、いろんな、県、電源開発、様々なところから情報を収集して判断していくということ大事ですが、やはり今、ＮＨＫの朝ドラで、天気のことを題材とす

るドラマありますけど、やはり福島地方気象台の台長さんと直接、首長が、お互いの顔がわかって、そこでお互いの携帯電話の番号を交換してやる関係をつくっていきましょうということで、今そういう取り組みをされておりますので、当然、只見町も携帯電話の番号は交換してますので、さらに、やはり、顔も知らない状況で、やはり、関係、人間関係というのは難しいわけですから、やはり、本当は、一番、会えるのが一番いいんですが、近々、ウェブ会議で顔で、やって、緊急の時には直接もう、どこにいても携帯で繋がるという、まずトップ同士のそういった関係づくりが大事だということを一つ、今取り組みをしております。それが一つございます。

あと様々なことにつきましては、担当課長のほうから、今のカメラの状況とか、その辺は答弁させますので、ちょっとお待ちください。

○議長（大塚純一郎君）　町民生活課長、横山伸成君。

○町民生活課長（横山伸成君）　ただ今の矢沢明伸議員さんのほうからご指摘いただきましたこと、まさにそのとおりだと思いまして、ライブカメラのほうなんですけども、今、現状、町のホームページのほうでは、県が設置したカメラですね、２箇所ということと、あとは南郷のお宮橋のほうのライブカメラなんかも、ちょっと見れるような形にはなっております。で、ホームページのほうも、ちょっと、だいぶ、直しまして、ライブカメラの様子ですとか、水位計のほうも､町のホームページから見れるようなふうに改修をしたところでございます。ご指摘のとおり、ライブカメラでございますが、県が設置したものについては二つでございますが、町のほうで設置しております、森林の分校ふざわですとか、河井継之助記念館前。あと保健福祉センターのところですと、なかなか、確かに見えずらいというところもございますので、この辺の設置についても、なお、今後とも県のほうとも協議してまいりたいなというふうに考えてございます。

あと水位計のほうなんですけども、今、優先順位をつけまして、今、一番としましては、小林地内の中ノ橋。ここに水位計をつけて、一つの目安として活用していきたいというようなことで、県のほうには要望ということで上げてございます。そのほか、合わせて５点ほどあるんですけども、そのような形で、今後とも、このＩＣＴを活用して、町民の皆様が状況を見れるような形というようなものを研究してまいりたいと思います。

○議長（大塚純一郎君）　６番、矢沢明伸君。

○６番（矢沢明伸君）　ありがとうございます。

ライブカメラ。それからあの、水位計についても、県のほうでいろいろ整備始めてます。やはり、台風１９号とか、いろいろな災害が多発している中で、地元の人ばかりでなくて、外部からも見て、すぐ危険を判断できるという形でやられております。

で、これをあの、いろいろ見る中で、先般、南会津方部の減災に係る取り組み（聴き取り不能）主な取り組み内容のスケジュールということで、県のほうでも危機管理水位計。この中で只見でも６箇所ほど、もう既に設置されております。田の口沢、国道のボックスだとか、あとは堅盤橋だとか、久保橋だとか、あとは布沢。それから小川のまちわび橋ですか。あとは塩ノ岐にも設置、今工事中なんですが、もう既にウェブ上で見れるようになってます。そういうものを是非、町民にもわかりやすく伝達して、こういうのが見れるんだよと、そういうものがいわゆる避難判断にもなると思いますので、そういうもの含めて、町民への情報、的確な発信の前に、そういうものを共有できるような環境を是非整えていただきたいと思います。

時間もなくなりましたので、水害というんですか、梅雨時期も迫っております。昨日も、今日も、だいぶ雷雨というのが予報されますので、有事の際に（聴き取り不能）まして、是非、情報を共有できるような環境を是非構築をお願いしたいと思います。

以上で、質問を終了させていただきます。

○議長（大塚純一郎君）　最後に、町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　今、具体的に教えていただきましたが、やはり町民の方々が、自分達が、職員がわかっているだけじゃなくて、どなたもアクセスできるような、わかりやすい情報の提供に努めて、防災対策に心して取り組んでいきたいと思います。

ありがとうございます。

○議長（大塚純一郎君）　これで、６番、矢沢明伸君の一般質問は終了しました。

昼食のため、暫時、休議します。

午後の開始時間は１時１５分とします。

休憩　午後１２時０７分

再開　午後　１時１３分

○議長（大塚純一郎君）　全員お揃いのようですので、少し早いですが、午前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続行いたします。

１番、佐藤孝義君の一般質問を許可します。

１番、佐藤孝義君。

〔１番　佐藤孝義君　登壇〕

○１番（佐藤孝義君）　通告に基づきまして、一般質問を行いたいと思います。

でも、私、マスクとしていると、話が乗ってこないたちなものですから、聞きにくい点があったらご勘弁願いたいというふうに思います。

私の質問はですね、新型コロナウイルスが収束した後の町の経済対策についてでございます。

当町においては、ワクチン接種も順調に進んで、今後の接種の見通しが立ってきたなというふうに思っております。この２年間、新型コロナの影響により、町内経済に深刻なダメージを受けておると思います。町内各産業に対して、収束後の雇用に繋がる支援・再生策について、次の項目について町長にお尋ねします。

一つ目はですね、米余りによる米価の下落や、伐期を迎えた杉などの人工林の活用など、農林業の政策をどう考えていかれるのか。

２番目として、新型コロナのために観光客が今現在途絶えているようの状態でございます。その後の観光業の再生策についてお尋ねします。

三つ目、高齢化やマンパワー不足が生じている建設業。地元の建設業ですね。これの継続させるための支援策、政策を伺いたいというふうに思います。

四つ目は、つい今年になってから、誘致企業の１社が撤退を、という話になりました。ほかの誘致企業を含む町の企業ですね、の支援策をどうされるのか。

五つ目は、この四つの業種について、現時点で町として実現できる具体策について、町長の考えをお願いしたいというふうに思います。

それと、６番目、最後ですけども、将来に向けてどのような産業、町の基軸産業として経済をまわしていくのか、町長のお考えを問いたいというふうに思います。

以上です。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

〔町長　渡部勇夫君　登壇〕

○町長（渡部勇夫君）　１番、佐藤孝義議員のご質問にお答えいたします。

新型コロナウイルス収束後の経済対策についてでありますが、項目ごとにお答えいたします。

まず、農林業に対する支援策についてであります。新型コロナウイルスの影響は基盤産業である農業にも及んでおり、令和３年産の米価も下落が予想される中、国では需給と価格の安定を図るため、前年比３６万トン、面積にして６．７万ヘクタールという過去最大規模の作付転換を求められる主食用米の生産目安が提示されました。

当町においては、前年比１８ヘクタール増の作付転換の生産目安が示されましたが、稲作農家の皆様がＪＡの助言などを踏まえ、様々な支援が措置された飼料用米への転換を図った結果により生産数量目標を達成したところであります。

町といたしましても、只見産米のＰＲ、販売促進事業を継続的に実施するとともに、それに加えて６月補正予算に計上した食味分析計を活用した食味向上に取組み、食味の全体的な高さをＰＲしてまいりたいと考えております。

林業についてでありますが、伐期を迎えたスギなど人工林の活用についてはこれまでも議論になってきたところでございますが、町特有の急峻な地形等により伐採搬出費用が嵩むこと、材価の低迷等から所有者が想定される売払い収益に見合わない現状が長く続き、伐採の機運が高まらない状況であります。

直近では、コロナ禍による海外の需給バランスの影響等により、国産材の価格が高騰しているといったニュースも流れておりますが、町内の木材価格まで高騰するといった状況にはないと考えております。

町といたしましては、長年人工林を保育されてきた所有者の心情をお察ししますと、安価での売り払いを推進することもできませんので、適期に所有者において伐採できるよう長伐期施業を推進しております。一方で、間伐等適切な整備が行われない里山において、クマやイノシシ等の有害鳥獣の出没しやすい環境となっていること、昨年冬においては着雪による倒木や折損木が多くみられたことから、生活環境保全の面からの森林整備についても引き続き対応してまいります。

次に、観光業に対する支援策についてであります。

現在、新型コロナウイルスのワクチン接種が進んできているところではありますが、感染

傾向はまだまだ予断を許さない状況であると認識しております。全国的なワクチン接種の進捗により、徐々にアフターコロナの観光の進め方が見えてくると考えておりますので、まずはふくしま県民割などの各種支援策を有効に活用して、町内から県内、近隣県へと町内観光施設の周知と誘客ＰＲを図ってまいりたいと考えております。

次に、雇用に対する支援策についてでありますが、議員お質しのとおり、高齢化やマンパワー不足などの人材不足に加え、誘致企業の撤退などによる雇用環境の悪化は大きな課題と認識しております。

町といたしましては、今議会に提案しております只見町雇用促進条例による助成措置を講ずることで、雇用機会の拡大と雇用環境の充実を図ってまいりたいと考えているところであります。

次に、町内の中心的な産業についてのお質しでありますが、町内には様々な業種・業態において経済活動を行っておられる事業者がございます。それぞれの産業が町内経済を支える大切な事業であると考えておりますので、全ての産業において、関係団体等と協議調整を行いながら、振興を図ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（大塚純一郎君）　１番、佐藤孝義君。

○１番（佐藤孝義君）　じゃあ、１番からですね、再質問させていただきたいというふうに思います。

ここに書いてある答弁書は、前にも随分ダブって質問しましたのでわかっております。ただ、今回あの、私、町長に対する質問、初めてなものですから、町長の政治信条といいますか、政治に対する想いで結構ですから、お答えいただければいいのかなというふうに思いますので、よろしくお願いします。

まずこれ、１番の農業、それから林業の関係でございますが、これ、私思うに、やはり、こういう山間地、政府では、成長戦略などと言って、ＩＴとかですね、半導体、デジタル化とか、ＩＣＴとかって、あとクリーンエネルギーとかっていうことを打ち出しておりますけど、やはりこういう只見町みたいに山間地の自治体では、それには一気にそぐわないというふうに思います。私は、せっかくですね、只見町がエコパークの認定に２６年なりました。それをやっぱり、活かして生き残りをかけるのが一番良いのかなというふうに、これは私の考えですけども、思います。やはりあの、只見の産業は昔は農業と林業がほとんどで生活、

今の何倍も、１万何千人も生活していたわけですよ。それが今４，０００人を切る状態にまでなっているということは、やはり、これ、人材がみんなよそに行っちゃったということ、人材不足が一番問題なわけですよね。だから、この人材不足をどう補うかということの対策として、やはり農業、林業。これで町が飯を食えるような、これは全部が全部食えるとは思いませんけども、一人でも多く、昔の生活に戻れるような政策を打ち出す必要があるんじゃないかなというふうに思ってます。

午前中の質問でも、観光業、只見線、２８９ということでお話ありましたけど、やはり、来ていただいて、ほかと区別するのは、やはりあの、今まで只見、この町が自然と人が共存して、共有してきた、そこを観てもらうというのが俺は一番自然の姿じゃないかなというふうに思います。今度、ミュージアムですか、あれ、できますけども、やっぱり写真で、昔はこうだったというのも、それはいいですけども、やはり、せっかく、観光客呼ぶんであれば、やはり、その辺を実際、ここはまだ、ぜんまい揉みの姿を只見町に行けば見られるんだなというような観光がベターかなというふうに、これが本当の只見町の姿じゃないかなというふうに思うんですよ。だから、町長にお願いしたいのは、一人でも多く、この農業とか林業で暮らせる施策を考えていただきたいというふうなお願いを、これは私の気持ちですけども、したいなと。一番ね、根についた、この一次産業・二次産業というのが地についた産業だと思うんですよ。やっぱりこれがベースにならないと町の発展はない。商業でも、サービス業でも、結局、人がいるから成り立つ産業ですから。やはり、そこで今まで暮らしてきた人間がまた暮らせるように、次の世代に繋げるような産業を考えていただきたいなというふうに私は思っております。ですから、まあ、農林業に対する町長の想いを、だけ聞かせてもらえば私はいいです。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　農業・林業・観光業、また全ての産業に亘ってのご質問であるというふうに私は受け止めさせていただいております。

やはり、これは本当に、構造的な話が多く含まれているというふうに思っております。やはり、昔は中学校を卒業して、集団就職とか、いろんな言葉ありましたし、私の親もぜんまい山で１ヶ月ほど山に行って、それで学校を出してもらったという記憶もあります。やはり首都圏に、やはり只見町ですと水力発電であったり、浜通りは原子力発電であったり、いろんな電力を首都圏にエネルギーを供給する。そして、先祖伝来の田畑や人も転出してしまう。

そして、首都圏に魅力的な就職口ができて、中学・高校を出た人が行ってしまうと。それを国が積極的に誘導してきたと。そして、日本を栄えさせようとしたということで、ずっとやってきた。まさに国の政策であるというふうに思います。それに、その代償としては少ないと思ってますが、それをいろんなお金という形で地方の自治体に流してくるという構図だったと思います。やはり、やっぱりその構図が行き詰ってきたといいますか、やはり持続的な発展をしていく中で、それだけではだめですし、価値観も大きく変わっているし、多様化してます。やはりそれには、力づくでというわけにはいきませんので、やはり、地域が魅力的になることに尽きると思います。あとはそれを具体的に、じゃあ、地域が魅力的になるということは、何を、誰が、どうする、いつまでに、いくらでとか、っていうことを具体的にみんなで共有して、午前中の一般質問でもございましたが、できるところからということになりますが、取り組んでいくという姿勢が最も大事であろうというふうに思います。ですから、今、若い人たちが、午前中も明和地区の農業青年がいろんな、従来の米作だけじゃなくて、次の産業に展開していくということを具体的にやっておりますし、次の世代の小学生へも、中学生・高校生へも伝えるという取り組みもされております。一つの例として申し上げておりますが、それ以外にも多々ございますけど。あと併せて、今回の新型コロナウイルスでワーケーションという言葉が普通に聞こえるようになりましたし、ウェブ会議なんていうのも、役場ではちょっと前まではほぼ出張だったんですが、今、結構、ウェブ会議もあって、画面越しに話をするということが、もう一般的になってます。ので、よそから来られる方、地元の方につきまして、様々な知見であったり、ご提案を、やはり町役場が受け止めて、これからどういう時代、魅力的な地域をつくっていくかということを考えて実践していくことが大事だと思います。それが産業の経済活動を伴ったものにしていく。そして、魅力的な地域にしていくということになれば、今、既にその動きは出てきていると私は思ってますが、そうすれば人が入ってくる。あとは関係人口の話も午前中しましたが、定住されなくても、やはり二地域居住であったり、行ったり来たりであったりという、いろんな関係性が生まれてきますので、そういった人と人との繋がりを大切にして、やはり産業、経済活動。それにはまあ、なんといっても魅力的な地域になるということが大事だと思いますので、議員おっしゃること、十分わかるつもりでございますので、そういったまちづくりに皆様方のお力をお借りして努めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（大塚純一郎君）　１番、佐藤孝義君。

○１番（佐藤孝義君）　ありがとうございます。

まったくそのとおりだと私も思います。たまたま、若い、明和地区の、特にねっかを中心にした、米の利用した、今、米余りでどうしようもない。それを自分たちで加工してお酒にすると。そういうやっぱり産業が次々とまわるような施策を、やはりこれから考えていくべきなんじゃないかなと。それが一番やっぱり強い産業になるんじゃないかなというふうに思います。この前の誘致企業撤退をみますと、ああいう産業というのは、一時的に、その業界が景気が良くなればいいですけども、バタっといった時には、まさにその煽りをもろに食うわけでございますので、やはり、やっぱこういう、山間地の自治体の産業というのは、やはり基本に戻って、一次産業・二次産業を大事に、そこから発展させて別な産業を興していく。一時時、六次化って流行った、声が流行ったんですけども、今あまり聞かなくなっちゃったんですけども、やはり、そういうことをやっぱり考えていかないと、本当、せっかく、只見の良いところ、今度、交通の便良くなって、人が来るようになっても、本当の只見町を観てもらえないんじゃないかなというふうに思うんですよ。そして、山菜だって今、採る人いなくなっちゃうような時代ですから、これではやっぱり、本当の只見町の良いところが何もなくなっちゃうんじゃないかなというふうに危惧されます。

それと、やはり、山菜だって今、特産みてますと、ほとんど輸入物を扱ってますので、その量やなんかはあるにしても、やはり、せっかくああいう工場あるわけですから、そういうところを利用して、なんとかその雇用に繋がる産業を興していく政策をお願いしたいというふうに思って今回の質問したわけですが、やはり、私思うに、産業の生産性というのは、やっぱ人材だと思うんですよ。やっぱ、人材の育成がやっぱり一番、頭にくるんじゃないかなというふうに思います。一時、教育委員会でダイヤモンドプランやって人材教育やったんですけども、やはり子供のうちからですね、やっぱり、俺は、ここに生まれて、ここで最後まで生活できるような、一時、勉強のために出ていくのは良いんですけども、やはり最後はここで、っていう、そういう教育も大事かなというふうに思います。だから、これからの人材を寄せ集めるのは、やっぱり政策だと思いますので、なんか、そういうふうに働ける場所、産業を新たに考えていただきたいなというふうに思うわけです。行政ですから、そんな企業のあれはないですけども、やはり、そうでないと、人がいなくなれば町が衰退するのはもう当然ですから、やはりこれ、一人でも多く、来てもらわなくちゃいけないし、残したいというのが俺、基本だと思うんで、やはりあの、人材の育成。だから、今、おそらく、投資する

のはね、これ、法律つくって、補助金の法律つくって、補助金出すのは良いんですけども、そういう施策じゃなくて、やはり、投資するのは人材に投資していただきたいなというふうに、将来の只見町を背負う人材を一人でも多くつくってもらいたい。田舎にいれば、よそから引っ張ってもらってきてもいいですけども、やはり人材が少ないと、少ないとというかね、いないと、町の発展は望めないんじゃないかなというふうに思います。

その辺、町長、どう思いますか。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　まさに議員おっしゃるとおり人材が第一だというふうに思っております。お米を作ったり、トマトを作ったりという、そういう方々が最近あの、私、この前、ちょっと試食させてもらったのは米粉のショートパスタ。本当に従来だと、お米を作ったり、トマトを作っておられて、それを出荷されていた方が、自らいろんな企画、取り組みをされて、大変、米粉のショートパスタ、おいしくいただきました。やっぱりそういった取り組みもされておられます。本当に様々な取り組みがあります。

あと、今般、ちょっと話ずれるように聞こえるかもしれませんが、福島第一原発の汚染処理水の海洋放出について、マスコミのほうからいろいろ聞かれましたけども、新エネルギー庁のその対策課も、町村会の、南会津郡４町村おりますから、その中での話もありました。やはり皆さん同じ考え方ですけど、やはりあの、風評被害並びに風評対策のことを心配されておりますので、電力会社の対策だけではなかなか今、信頼を失っておりますので、やはりもっと国が前面に出て、その約束を守る。ちゃんと情報開示を適切にやる。やはり信頼関係を築いたうえで対策でないと、誰も信じませんので、やはりそういった話も出ましたし、やはり風評対策。そういったことをしっかり講じていただきたいという話出ました。

加えて、私達思いますのは、これはあの、取り方によっていろいろあるかもしれませんが、福島全体での対策は必要です。が、先ほど答弁させていただきましたけども、何故、食味計かといいますと、やはりその中で会津米、もっといえば只見米ということで、只見のお米がおいしいということを、その主観だけじゃなくて、客観的なデータをもってしてお示しして、食味が高いということで魅力を知っていただくという具体的な取り組みも必要だということで、１回目の答弁の中にさせていただきましたけど、そういったＰＲも必要だというふうに思っております。

様々ございますけども、人づくりにつきましては、今般、予算の中で、直接、人づくりと

いうテーマに合致するかどうかわかりませんが、雇用促進に関する条例提案をさせていただいておりますし、今検討中の、また奨学資金等に関しましても、提案できる内容が固まり次第、議会担当委員会とご協議・ご相談させていただきながら、しかるべきタイミングで提案させていただきたいというふうに思っておりますし、それ以外にも様々、議員の皆様からご提言、お話もいただけますし、そういった中で引き続き、人材確保・人材育成に努めてまいりたいというふうに考えてございます。

○議長（大塚純一郎君）　１番、佐藤孝義君。

○１番（佐藤孝義君）　ありがとうございます。

そのようにお願いしたいと思います。今はまあ、お米の食味のＰＲ。ＰＲって、これ、おそらくあの、町長さん、これから一生懸命やられるだろうと思いますし、最近よく、新聞等にコマーシャル載ってます。ああいうのはやっぱり重要だと、必要だと思います。

で、やはりね、お米はもう、全国どこにでもあるようになってますから、やっぱりこれも差別化していかないと、絶対だめだと思うんですよ。ただあの、俺、心配しているのは、やはりあの、農業、昔はほら、三反百姓でも、これ、飯食っていけたんだけど、今やっぱ大々的にやらないと、これ、米農家、ここにいる中野君、やってらっしゃいますけど、なかなか大変な時代です。で、ここへきて、オリンピックで、ＧＡＰの話なんかも、この前ちょっとしましたけど、あって、ＧＡＰ取らないと、ということなんで、ただあの、ＧＡＰ、若い人はこれ、すっと入って取れるんですけども、なかなか、年をとっている人がＧＡＰ取るというのも、これもなかなか大変なんですよね。だから、これは、どれぐらいやられるかわかんないけど、やっぱり只見米は、おそらくこれから営業されるんでしょうけど、海外にまでというような感じになった時に、やはりＧＡＰがないと、おそらく国際的には通用しないんじゃないかなというふうに思います。で、そういうその、ＧＡＰの認証を得るための、なんですか、手助けとか、そういうやつを、もう若い人は問題ないと思うんですけど、考えていただきたいなというふうに思うわけです。

あと、木材の件ですが、結局、植えた人の想いもあるということなんですけども、確かにあの、ここに書いてあります、最近のニュースで、国産の単価が上がったというのを私もニュースで見ておりますが、ただ、只見の、ここに書いてあるとおり、只見の木材までは値段上昇しないだろうという、正吉郎さんにもお話聞きましたけど、そんな状態なんですけども、ただ、このまま放っておけないと思うんですよ。ここに鳥獣対策も書いてありますけど、ま

さにそのとおりであって、これ、なんとかね、産業にしてお金に代えれるような政策を、林業も考えられるんじゃないかと思うんで、その辺もちょっと、我々も研究しなくちゃいけないんですけども、やっぱ行政も研究して、担当課長中心に検討していただきたいなというふうに思うんです。そうでないと、もう、山荒れる一方でね、本当に、もう、足の踏み入れもできないようの状態になっているところが相当ありますので、やはり、せっかく今度、観光客等来てもらった時にですね、自信をもってですね、お見せできるような、歩いていただけるような町にしてもらいたいというふうな想いから私言ってるんですけど、それも考えていただきたいなというふうに思うんですよ。

そういう考えは、町長、考えられないでしょうか。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　ＧＡＰの件は担当課長のほうから話してもらいますけど、やはり、構造的な話の続きになりますけど、やはり、よく、地方の農山村、漁村もそうなのかもしれませんけど、よく今例えて言われるのが、穴の空いた場結論というのがあって、穴が空いているバケツだと。例えば。そこにいくら経済的なお金を注入しても、お水を入れても、穴が空いて外注してしまったり、外にお金が逃げて行ってしまったんでは、いつまでたってもバケツの中の水がたまらないということで、今、地方は穴の空いた場結論だっておっしゃる方がおられます。やはり、極力、勿論、合法的に、きちんとした手続きの中で、やっぱり地元でできるものは地元でやる。やはり、そういった仕組み、仕組みといいますか、流れといいますか、そこをよくもう一度よく理解しなくちゃいけないということです。

今、ブナセンターの館長務めておられる先生も、実際、大白川のほうでいろいろ実践されておりますが、やはりその集落単位で取り組んで、自分達で伐採して、春の、春水といいますか、沢利用して木を押し出してくるという、そういったことで付加価値といいますか、イベント的な部分もあって、協力する人もあって、アピール、今ですから、いろんな、フェイスブックとか、いろんなツイッターでアピールできますから、そういったことで魅力的なことをやりながら、楽しみながら、地域の経済、それ一つ一つは多額にはなりませんが、そういうことを一つ一つやっていけるということが学びであり、次の繋がりに繋がるということをやっておられますし、そういったお話も伺っております。ですから、そういった考え方の人が今、館長さんで来ていただいておりますので、そういったことをまた引き続き学ばせていただいて、地元で林業、製材に携わっている知見のある方もおられますので、そういった

方のお話を伺って、やはり一挙に大きなことはできませんが、そういったことを取り組んでいくことが必要だなというふうに思います。あとは杉をはじめとした針葉樹。一番は衛材の用材として使えることが一番だと思いますが、やはり、そのあり方についても極力、使うことは使うけども、次の段階で、例えばそれを、今具体的に出せるものありませんが、例えば薪ボイラーであるとか、今、個人の方は薪ストーブ使っておられる方多くおられますが、それが例えば大きな町の施設は薪ボイラーを使うとか、いろんなその循環と経済の関係が生まれてくるんではないかというふうに思っておりますので、その辺を関係者の方に教えていただいたり、勉強させていただいて、只見町に相応しいあり方というのをやはり求めていかなければいけないなというふうに思っておりますので、引き続きそのように努めてまいりたいというふうに思っております。

ＧＡＰの関係は担当課長、お願いします。

○議長（大塚純一郎君）　農林建設課長、星一君。

○農林建設課長（星　一君）　ＧＡＰのご質問ございました。正確ではないかもしれませんけれども、たぶん、町内で６事業者がＧＡＰを、米ということでお持ちではないかというふうに認識をしております。ＧＡＰにつきましては、２年間で更新が必ず出てきまして、数十万、たぶん、更新手数料がかかるというような話を聞いてございます。そういった生産行程であったり、そういったしっかりしたものをつくっていくということで、そういった仕組みあるんですけれども、取り組みの中で、おっしゃるとおり国際的な形で売っていくうえでは、そういうＧＡＰというものが非常に重要になってまいっております。そういった方々が、少し、なんていうんですかね、そういう取り組みをしたいという方があればですね、支援のほうはしていきたいと思いますけれども、今、それにあたっての助成事業はございません。そのあたりは内部で改めて検討はしていきたいと思います。そういった取り組みですね、更新も含めてですね、非常に、なかなか、継続が、いろいろ、有期も含めてですけれども、継続していくのが非常に難しい制度になっておりますので、そのあたりも含めてですね、しっかりと情報も発信をしながらですね、検討してまいりたいというふうに思っております。

また、森林の関係につきましても、町長が前からも申し上げておりますとおり、樹種転換ですか、そういった方向を考えていきたいというお話もされております。それをするうえでもですね、例えば列状間伐をして少しずつ変えていくというのに関しても、費用がやはりかかってくるというような状況がございます。町長が申し上げましたとおり、専門家の館長も

おられますので、そういった今後の施策振興に向けまして、様々、ご協議をしながらですね、進めてまいりたいというふうに思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○議長（大塚純一郎君）　１番、佐藤孝義君。

○１番（佐藤孝義君）　ありがとうございました。

そのギャップの件なんですが、おそらくあの、トマトなんかは生産組合で一緒にまとめてやってらっしゃるからいいと思うんですけど、俺、心配したのは、お米のほうで、やっぱ、少しやってらっしゃるところとか、これね、海外に売るっていうんじゃなくて、海外から来る、コロナ落ち着けば観光客が来ますよね。で、その時に、そういうふうになっちゃったら、ＧＡＰ取ってないお米はダメだよみたいな話、今回のオリンピックみたいに、そうなった時に困ると思ったからお質ししただけの話なんですよ。ただ、一時流行りの、ＩＳＯみたいにね、こういうやつは認証機関の、これ、ヨーロッパ、頭良いから、世界に先に、日本より先に広めちゃうんだよね。日本だってもっと厳しい規格あるんですよ。ＪＡＳだとか、ＪＩＳだとかっていうのはあるにも関わらず、国際機関はみんなヨーロッパの認証でないとダメだってなっちゃうんで。ただその、お金取りかもしれませんけども、ただ、世の中がそうなった時に困ると思って、今、お質ししたんで、それはやっぱ勉強しながらやってください。お金かかることですから。これは本当に、中間の審査機関の金取りになってますので。その辺も頭に入れて慎重にやったほうがいいとは思います。

それと、最後に、町長にお願いしたいのは、午前中から一生懸命、トップセールスやられる。これから、もう、私も、前から、前の町長からずっと言ってきたんですけど、全然やらなかったんですけども、これ、是非やっていただきたいと思うんですよ。それがないと、やはり、只見町の存在が見えてこない。で、特に、これ、４番・５番、３番、建設業、誘致企業もちょっと喋れなかったんですけども、誘致企業の中でも会津工場なんかは、もう国際的にも有名な、あの資格、資格というか、認証もらっている、特許取っているようの優秀な企業ですから、やはりこれらもですね、町長行かれたら、只見にはこういう企業があるんだよというＰＲとですね、逆に、今度、三条に抜けるわけですから、三条は工業地帯です。職人の町です。あそことやはり連携をとるべきなんじゃないかなと私は考えております。人材だけ向こうに引っ張られるんじゃなくて、やはり向こうの企業とも仲良くやって、向こうの企業もこっちに入ってきてもらえるようなトップセールスをやっていただきたいなというふうに思いますし、あと、これまあ、建設業も私関わってましたんで、心配なのはやっぱ、マン

パワーが完全に不足して、地元の公共事業が、地元の人間でできなくなってる状態です。だから、何のための公共事業だかわかんないようの公共事業になりかねない。もうほとんど、工事発注すると、下請けが来て、どこの誰だかわかんないけど。そのために旅館・民宿は繁盛はしますけども、本当の意味で人の雇用と地元のお金に結びつかないような公共事業になりかねないんで、この辺もやはり、なんか、良いアイディアを、ちょっと歩いて、探していただければいいのかなと思います。なんか今、これから２８９で除雪の件問題になっておりますけども、やはりあの、重機なんかも、今開発中だと聞いておりますが、やはり無人でできるやつとか、それは試験的にね、こういう豪雪地帯だから、メーカーに直接話して、ここで実証実験やってくれぐらいのトップセールスをそっちのほうにもしていただきたいなというふうにも思いますので、町長、これから一生懸命歩かれるんで、これは絶対あの、やっていただきたいなと。

あとは、やはり只見線の例もありますけど、やはりあの、こういうところ、地方というのは、やっぱり議員の数も少ないし、国会議員の数も少ないところなんですけども、やはり、やっぱ町長の人脈を通じて、午前中おっしゃいましたけど、やはり政治の力を借りる、中央の力を借りるということも大事だと思うんです。だから、積極的に動いていただきたいなというふうに思います。せっかくあの、今度、副町長、しっかりとした副町長できたわけですから、ここを守ってもらって、一生懸命歩いていただきたいなというふうにお願いして私の質問は終わります。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　誠にありがたいお言葉をいただきました。

本当に、おかげさまで副町長できましたので、町を守ってもらって、私は極力、トップセールスとして頑張っていきたいというふうに思います。６月下旬と７月上旬に、既にもう、今出かけるように日程組んでおりますが、やはり、またいないのかと言われるかもしれませんが、そういった中で懸命に頑張っていきたいと思いますし、あとは勿論、私も頑張りますけど、やはり議員の皆様と場合によっては一緒になって、政治活動といいますか、要望活動という機会もお願いしたい場面多く出てくると思いますので、その時は是非お力添えをいただきたいなというふうに思います。そういったことで様々お話しいただきましたけども、一生懸命頑張ってまいるという決意を申し述べて結びとさせていただきます。

ありがとうございます。

○１番（佐藤孝義君）　これで質問を終わります。

○議長（大塚純一郎君）　これで、１番、佐藤孝義君の一般質問は終了しました。

続いて、５番、小沼信孝君の一般質問を許可します。

５番、小沼信孝君。

〔５番　小沼信孝君　登壇〕

○５番（小沼信孝君）　５番、通告に従いまして質問いたしたいと思います。

人材確保の対応策ということで大雑把に書いてございますが、質問の要旨といたしましては、町内のあらゆる業種において人材不足が大変課題となっております。そんな中でも建設業や介護施設などでは人材確保が急務になっておりますが、毎週、おしらせばん等で求人情報出ておりますが、まったく減らない状況。また、今後、働き手の年齢が上がり、数年後には働き手がいなくなってしまうのではないかということを危惧される方も大勢いらっしゃいます。業者は勿論ですが、町としても大変な事態になることと思います。町はやっぱり、今後、人材確保についてどのように考え、どのような対応策をお考えなのかということをお聞きしたいと思いますので、よろしくお願いします。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

〔町長　渡部勇夫君　登壇〕

○町長（渡部勇夫君）　５番、小沼信孝議員のご質問にお答えいたします。

まず､この度の町誘致企業の撤退にあたりましては町内各事業者等の格別のご配慮により、多数の求人を出していただきました。この場をお借りし、関係の皆様に深く感謝申し上げます。

さて、おしらせばんの無料職業紹介所の求人情報数については横ばいが続いており、議員ご指摘のとおり、現状の人手不足と将来にわたっての心配がございます。町といたしましては、企業等の新規の雇用を促すべく、今回の議会に提案させていただいております只見町雇用促進条例による助成措置を講ずることで、雇用機会の拡大と雇用環境の充実を図ってまいりたいと考えているところであります。

次に、人材確保面でありますが、特定地域づくり事業協同組合の制度を活用した組織の立ち上げに向けた勉強会を重ねております。本制度を活用することで、安定的な雇用環境と一定の給与水準を確保した職場を作り出し、地域内外の若者等を呼び込むことができるようになるとともに、地域事業者の事業の維持・拡大を推進することができます。

併せて現行の只見町Ｕ・Ｉターン等促進助成金、住宅の賃料や引越し費用を補助する若者定住支援事業補助金、そして令和２年度から実施しました只見町奨学金返還支援補助金についても多くの問い合わせと申請をいただいております。この補助金は就業等が条件となっていますので、今後もＰＲに努め、少しでも多くのＵ・Ｉターン者の確保に結び付けたいと考えております。

また、現在、町の償還免除型奨学金についての検討を行っておりますので、今後、議会の皆様方と協議をさせていただきたいと考えております。

コロナ禍の影響により地方への移住意識が高くなったといわれており、移住・定住や空き家バンク登録物件への問い合わせも多くなっております。空き家を求める方の中には就業を希望される方もいらっしゃいますので、引き続き移住コーディネーターを介した人材確保も図ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（大塚純一郎君）　５番、小沼信孝君。

○５番（小沼信孝君）　ここで、資料配付を許可願いたいと思います。

○議長（大塚純一郎君）　資料の配付を許可いたします。

〔資料配付〕

○５番（小沼信孝君）　ありがとうございます。

ちょっと小さい字で見難いかと思いますが、ご了承願います。

この資料については、町民の方が、このままではやっぱり人材が少なくなって、非常に大変なことになるということで、何らかの対策を願いたいということで作ってもってこられたものでございます。

左側の図１については、皆さん十分ご存じだと思いますが、年々、亡くなられる方が多くなって、大体、約、年間９１名の方が亡くなられるということで、出生や転入というのは含まれてなくて、本当に亡くなられた数を単純に引いただけですので、これが只見町の人口ということにはならないと思いますが､そういったことを感じて見ていただきたいと思います。

問題は図２についてですが、この中の働き手と一般に言われる、アンダーラインを引かせていただきましたが、２０歳から６６歳から６９歳までの方が、現在は７０歳から７４歳ぐらいの方まで現役としてお仕事をされておられるようです。

ちなみに、この表の令和３年度の、令和３年１月１日というところを見ていただくと、２

０歳から６９歳までの方を合計しますと１，９４８名。それから７０歳から７４歳まで含めますと２，３４５名ということになっております。ですが、これ、全員働いているわけではございません。仕事に就いておられない方。これが７割なのか、６割なのか、ちょっとそういったデータはなかったんであれなんですが、仮に７割だとすると、１，６００人ほどの人数になります。ということは、やはり、これでいきますと、町内の働き手が少ないということを、人材不足というのがまあ、とって見れるんじゃないかと思いますので、後程、これ、この表は、そのまま５年後ずつ増えていきますので、死亡というのはまったくその、書いてない表になっておりますので、ゆっくりと後程ご覧いただきたいと思います。

人材確保というのは、各業種によってだいぶ、その様子が違ってきていると思います。で、今回、いくつかの提案をさせていただきたいと思いますが、まずあの、先ほど１番議員も質問ございましたが、建設業。非常にまあ、人材が不足しておったり、年齢が高齢化して大変だということ。昨日、建設業の社長さんとお話した際に、只見高校の職業体験の際に毎年来られると、そういうことですが、高校を卒業して、建設業に勤められた方というのはほぼゼロに近いと。そういった中でその、体験には来られるんだけど、建設業の何が、問題があって就職されないのか。その辺まで詳しくというか、掘り下げた、例えば賃金であるとか、待遇のほうに不満があるのか。そういったことまでアンケートというか、掘り下げた調査をしていただきたい。それから、それに対して、建設業、それから町、教育委員会、学校等も含めて、密な話し合いをすれば、もう少し確保できる可能性があるんじゃないかということもおっしゃっております。まず、そういったことについて、どこが担当かはわかりませんが、そういう対応ができるのかどうか、ちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（大塚純一郎君）　観光商工課長、目黒祐紀君。

○観光商工課長（目黒祐紀君）　ありがとうございます。

建設業に限らずといったようなところで、人材不足といったようなご指摘がございました。その中で、只見高校の就職にあたっての、いわゆる職業体験といったような形の中が、なかなかそれが現実の就職に結びつかないといったような現状をお示しをいただく中で、高校生の意識調査といったものができないかといったようなお質しかというふうに思います。高校生対象にですね、町内の誘致企業を中心にしまして、町内の企業訪問等々も毎年やっておりました。昨年はちょっと、コロナの関係があって、なかなかその時間が取れない。学校の時間数の関係であったりだとか、なかなか、そういった、みんなが集まって、現状の企業を視

てまわるといったことが困難であったということから、昨年はちょっと実施ができなかったわけでございますが、今年はなんとか実施をしていきたいということで、高校の、いわゆる就職担当の先生とも協議をさせていただいております。そういった中で、就職担当の先生とも相談をさせていただいて、そういったアンケートができるかどうか。その意識調査をなんとかとっていく中で、それを皆様方にも周知をさせていただく中で、どういった取り組みができるのか。そういった話し合いの機会も持てればというふうに考えてございますので、ちょっと、高校のほうとも協議をさせていただければというふうに考えます。

○議長（大塚純一郎君）　５番、小沼信孝君。

○５番（小沼信孝君）　そういった方向で進めていただきたいと思います。それで、その中でですね、やはりその事業者さんと、それから学校、それから、その間に入る方、町、行政でも結構ですが、そういった方と情報を共有できる場を設けて、なるべく若い人に戻ってもらいたい。Ｕ・Ｉターンという話が町長のほうから出ましたが、そういったことも、その連携協議会というのはちょっと大げさかもしれませんが、そういった取り組みというお考えというのはあるでしょうか。皆さんで、同じ土俵で情報共有をする。それから情報発信をする。そういった取り組みをしていくというのは、結局、事業者さんと行政、学校も含めてですが、そういったことをすれば、もっと情報発信できるんじゃないかということが、片方の情報だけでなくて、両方側から出す。その時に、例えば賃金が安いよと。もうちょっとなんとかなんねえのかという話が例えばあれば、それに対して対応して、例えば次回、そういった対応でやるということを業者さんもおっしゃっておりますので、そういった話し合いの場、それを情報発信をする手助けをするのが町としてできるかどうかということだと思いますので、ちょっとその辺、わかるというか、そういう考えがございましたら、お伺いしたいと思います。

○議長（大塚純一郎君）　観光商工課長、目黒祐紀君。

○観光商工課長（目黒祐紀君）　ご提言ありがとうございます。

　そういったような機会について、町内の企業の皆様方のご意見も、また改めてお伺いさせていただくとともに、また、学校のほうとも協議をさせていただいて、機会をなるべく設けていける方向で協議をさせていただければというふうに考えます。

○議長（大塚純一郎君）　５番、小沼信孝君。

○５番（小沼信孝君）　そのようにしていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

次ですね、先ほども佐藤議員のほうからちょっと、八十里の除雪の件がございました。これあの、この間、南会津建設事務所ですか、八十里の話があった時も、除雪は大丈夫なのかという話が出たと思います。で、除雪オペレーターについてですが、現在の状況ですと、町に１６台。それから県が１２台。合計２８台。それに２名ずつのオペですから、５６名が携わっていると。まあ、もし、数字的に違いがありましたらご指摘願いたいと思いますが。そこに八十里の開通で約３２名が必要だと。合計８８名の除雪隊員が冬期間必要になるということですが、町として、この、年々、高齢化になってきているオペレーター確保というのはどのように考えられているのか、ちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（大塚純一郎君）　農林建設課長、星一君。

○農林建設課長（星　一君）　小沼議員からの今のお質しでございます。数年前から、町としましては、そういった懸念はしておりまして、拡充といいますか、２年前ですかね、２年前に除雪オペレーター育成支援事業補助金という制度を創りまして、事業者さんがその除雪オペレーターを確保するために養成する、その費用に対して助成事業を設けたところでございます。実績としましては、令和元年度に１名、令和２年度には、たぶん、正確にちょっとあれですけど、たぶん、なかったかというふうに理解しております。周知はしっかりしていたと思いますけれども、先ほどあの、議員がお話あったとおり、なかなか、人材、人員不足のところから、新たな人材を見つけられないというのが実態だというふうに思っております。県とも様々、協議をしまして、そういったことの解消に向けて、ＩＣＴを活用したり、無人の関係であったり、そういったものも研究は進められておりますけれども、そういったもの以外にもですね、今回、町長の答弁にもありましたとおり、雇用促進のための条例など整備しながら､なんとか確保していきたいというふうなことで今考えておるところでございます。町内の除雪につきましても、非常にあの、議員お質しがあったとおりですね、厳しい状況が続いております。年齢の件もそうですけれども、現状の除雪路線を維持することも非常に難しい状況になっております。今年につきましては、早めに除雪業者さん、建設業協会の皆様と情報交換を設けまして、新たな何らかの改善策がないかどうか、早めに検討会をもちまして、冬を迎える前にしっかりとした形をとっていきたいというふうに考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

○議長（大塚純一郎君）　５番、小沼信孝君。

○５番（小沼信孝君）　そういった検討会というのが必要だと思いますので、それについても

ちょっと提案させていただきますが、その前に、その元年度に１名、オペレーター養成で補助金を出してやった方については、令和２年度、元年度はたぶん、雪が少なくて、それほどだったのかなと思いますが、除雪に携わってらっしゃるのかどうか、ちょっと、わかればお願いします。

○議長（大塚純一郎君）　農林建設課長、星一君。

○農林建設課長（星　一君）　この場で正確にはわかりませんけれども、運転もしくはその助手といいますか、そういう形で、おそらく業務にあたっていただいたというふうに認識はしております。

○議長（大塚純一郎君）　５番、小沼信孝君。

○５番（小沼信孝君）　いや、ｗやはり、支援をするんだから、そういうふうになってもらわないと困るんで、そのために支援をするんですから、是非ともまあ、そういったことでお願いしたいと思います。

それでまあ、先ほどのその検討会の中の提案ということで、ひとつ、これも業者さんのほうから出てきた話ですが、業者さんとする前に、ここでしていいのかどうかということありますが、一応、提案ということでお聞き願いたいと思います。

というのは、例えば永洸建設さんに限っては、今、除雪をされている方のほかに除雪をされてない方で資格を持っておられる方というのが２０名ほどいるそうです。機械を乗るというか、資格を持っていると。助手もされてないと。ですから、この先ほど申しました５６名の中には入ってないという方が、永洸建設さんだけで２０名ほどいらっしゃいます。これは社長も含めてですので、社長を除いたとしても、その程度いらっしゃると。で、この方をオペレーターにするには、やはり、人が休んだから、さあ、機械をもって除雪してくれというわけには、これ、決していきません。町道除雪はなおさらそうです。ですから、やはり、事前に助手をしたり、それから、練習といいますか、そういったやっぱり、試験的に乗る。その段階を踏んで、何年か経って、初めて路線という形にオペレーターなると思います。ですから、その時に何が問題かというと、現在乗っておられる方を休ませて、その人に機械を乗せるということになると、休業補償ということが当然言われるようになるらしいです。それはまあ、昨年、浅雪で、２月までだったと、１ヵ月間、休業補償の分、補償、町でされました。当然あの、それを充てにして仕事に就いている方、たくさんいらっしゃいますので、まあ、そうです。ですからその、現在のオペレーターの方を休ませて、次にオペレーターを育

成するのが業者の仕事なのか。それはまあ、町も含めて、今後の対応として何らかの支援をするべきではないのかと、私は考えますが、その辺どう思われますか。

○議長（大塚純一郎君）　誰が答えていただけますか。

町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　今ほど、その会社につきましては、２０名ほど、そういう資格は持っておられるが､乗っておられないという方がいらっしゃるとお話を具体的にいただきました。やはりこれあの、建設業協会の会長さんはじめ、役員の方々も、２回ほど、皆さんでいろいろ要望に来ていただいております。まさにあの、議員ご懸念のテーマも挙がっております。町としては、そういう支援していくという考え方はありますが、大事なのは具体性でありますので、そういった中で今のようなお話をまたいただくといいますか、一緒にそういう協議の中で、担当は農林建設課になりますけど、そういった中でやっぱり、率直な話し合いの中で､制度といいますか､助成制度になるかと思いますが､あとはそういう練習といいますか、その機会といいますか、そういったことが具体的になってくると思いますので、是非、私も機会あったら話させていただきますけど、また、そういう場がありましたら、議員からも言っていただいて、一緒になって作り上げていくということが大事だと思いますので、そのように努めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○議長（大塚純一郎君）　５番、小沼信孝君。

○５番（小沼信孝君）　是非ともそういった、前向きな方向で検討していただきたいと思います。

もう一つなんですが、これは今、５６名の方というのはたぶん、直営の運転手は入っていないと思います。町で抱えている運転手ですね。これはあの、会計年度任用職員ということの決まりがあって、それから建設業者の方のその雇用の関係があるんで、なかなか、そこら辺は難しいことかもしれませんが、例えば直営の運転手のそのサブということで、そういった方、その２０名の方かどうかは別にしても、資格を持っておられる方を、乗って、少しずつ、重機の練習というか、覚えていただくというのも一つ、案なのかなということも考えますが、そういった時に、例えば雇用の問題があって、それから町のほうのその雇用の問題。そういったことはまあ、例えば除雪に関しては、違う方向でできるような考えというのはないでしょうか。ちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（大塚純一郎君）　総務課長、増田栄助君。

○総務課長（増田栄助君）　会計年度任用職員ということもございました。様々な方法はあるかと思いますので、今、まあ、ここで具体的にどうしますということも、ちょっと申し上げられませんので、そういった部分、今おっしゃられたことも含めて、検討させていただければなというふうに考えます。よろしくお願いいたします。

○議長（大塚純一郎君）　５番、小沼信孝君。

○５番（小沼信孝君）　本当にこれは大変な問題ですから、是非ともまあ、そういった制度上の弊害があって、壁があってできないということにならないように、柔軟な対応をしていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

この事業者さんが、例えば除雪の人だけでなくて、人材を確保するにあたって、一番問題、ネックとなるのは仕事だそうです。というのは、先ほどもまあ、１番議員からおっしゃられました公共工事ということもありましたが、それはまあ、大きな工事ということでなくて、例えば県単の工事のような、町の単位でできるもの。それを、例えば林道だったり、そういったところの維持管理というのを定期的に発注してもらうことによって、人材を確保しておいても仕事がなくならないという安心感があれば、人材を確保することも可能ですよというご意見をいただきました。やはり、それがないと、人は雇ったけど、仕事がなくなっちゃったよ。辞めてくれということになったでは、なかなか募集もできないことがありますので、その辺、町として、大きな公共工事ということだけでなくて、継続的な工事、それは維持補修というのが良いのかどうかはわかりませんが、そういったものを継続的に、安定的に、事業者のほうに供給するということがあれば、ある程度、人材も確保できる。そうすることによって、冬期間の除雪のオペレーターも確保できるかもしれないという話ですので、その辺ちょっとお考えをお伺いしたいと思いますが。

○議長（大塚純一郎君）　農林建設課長、星一君。

○農林建設課長（星　一君）　今の議員のお質しは、一年を通じて仕事が継続できるような、そういう仕組みをつくれないかという、ざっくり言うと、そういうお質しだと思います。そういう形でできると、確かに、建設業さんのほうも、そういった雇用も確保できるというふうに思います。すぐ、今見えているわけではありませんけれども、そういった仕組みづくりについては検討してまいりたいと思います。

町長の答弁の中にも、特定地域づくり事業協同組合という制度ございますけれども、実際、この特定地域づくり事業協同組合は建設業の、いわゆる建設部門については除外されている

といいますか、できない制度設計になっている。ただし、除雪については、この中でやれるような仕組みになっております。そういうようなこともありますので、違う業種の方との連携の中で、そういった除雪者を確保するという方法もありますので、併せて、除雪していただける方がいなくなると、大変、豪雪地帯ですので、町民の皆さんが大変お困りになるということは間違いありませんので、議員の今のご提案も含めてですね、何らかの手立てができないかということは検討してまいりたいというふうに考えております。

○議長（大塚純一郎君）　５番、小沼信孝君。

○５番（小沼信孝君）　是非とも、良い方向に進めるようにしていただきたいと思います。

で、除雪の話ばっかりしていて、進まないとあれなんで。人材確保するにあたってですね、先ほど町長から答弁ありました。この最後のほうにあります、移住・定住や空き家バンク登録物件への問い合わせが多くなっており、というものがございますが、やはりその、これも建設業の話で申し訳ないんですが、かつて空き家を、来た人に貸し与えて、就業していただいた。そういう事例があったんですが、数か月後に仕事に来なくなってしまったと。やはり、一軒家で一人で生活をしてくれということで、人材を確保するということになると、なかなか、その衣食住、食ですね、食べること、そういったことがやっぱりなかなかネックとなる。それからやっぱり、お弁当を自費で、当然、お金はかかることですが、そういったことを自分でするということがなかなか大変。昔はやっぱ、みんな、そうやってきたわけでしょうが、今はやっぱりそういう時代でないよという話を言われました。というのは、やはり、言葉はどうかわかりませんが、寮みたいな、この辺でいうと電源開発の寮がございますが、食べるものも、お弁当も全て、そこで賄える。ただ、それで、部屋は全て個室だと。ただ、共同の部分もございます。ございますというか、あると思いますが、そういったものをつくる。例としましては、会津工場、ヒロタテクノさんは自社で外国人労働者の居住、寮をつくられ、ただ、自費ですかという話を聞いたらば、自費です。大変な負担はありますと。ですが、やはり、仕事をこなすには労働者を、人材を確保しなくちゃならないから、やっぱそこは致し方ないことでやってきたんだけども、なかなか大変だと。ですが、やっぱり、そういったことを、この外国人労働者、この間、委員会の中で課長に、外国人労働者、福島県だめですよといったのは除染だけだそうです。担当者に聞いてみました。除染はだめですけど、それ以外は建設業もまったく問題なくできますと。ただあの、外国人労働者の場合に、一番ネックになるのは、やっぱり東南アジア系の方、冬期間がだめだそうです。雪降るともう、ピタリ

と動かなくなってしまうということがあるんで、除雪には向かないのかなという感じはいたしますが、そういった方を含めて、例えば町で先進的にやられた借上住宅。そういった制度で、そこに入る方を町が建てたものを借り上げてやっている。そういった支援、全て町でもてということは業者さんも言っておりませんが、そういった何らかの、やっぱりそういう施設をつくって、入ってもらうために、支援ができないものかと。

話は若干違うかもしれませんが、只見高校の存続のために奥会津学習センターをつくって、只見高校の振興対策に相当のお金を使っておられるわけです。それは別に悪いとは言いませんが、それと同じで、只見町の人材を確保するために、町がそういった施設を借り上げたり、それに支援をするというのは何ら問題ないようの、私は気がしますが、その辺について、どういうふうに、そういったこと、寮的なものを建てる。それを借り上げるか、それに支援するか。そういったそのやり方は別だとしても、そういった考えについてどう思われるか、ちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　改めまして、本当に、地域を支えていただく方々の人材確保のご苦労というのはよくわかります。本当に、具体的な例を挙げていただきましたが、それぞれの会社で、その会社の努力で、そういう寮といいますか、住宅を確保されて、賄いも準備されて、そしてやっておられるということ、本当に、有難いといいますか、本当に大変なご苦労があるものというふうに推察しております。したがいまして、やはり町としては、雇用促進・雇用確保の努力をしていく当然の立場ではありますが、やはり、そういった企業間との、公的な助成が入るとなると、やはりあの、公平性といいますか、そういったのも考えていかなければならないということがありますので、あとは、そういった面とちょっと違って、いわゆる町営住宅から、特高賃とかありますけど、そういう住宅整備を図っていく中で、たまたまそのＡ社・Ｂ社・Ｃ社の人が入っていくとか、そういった流れであれば特定なことになりませんので、そういった意味の住宅整備。あとは将来的にはその、ちょっと食べれるところとか、あとは総菜を、今もありますけど、まだ十分ではないと思いますから、総菜を買ってきて食べられるとか、そういった環境が整えば、結果として、会社が独自で住宅確保しなくても環境が整ってくるのかなというふうに思っておりますので、直ちにというわけにはいきませんが、やっぱこれからの様々な振興政策の中で、そういった環境づくりは整えるように努力はしてまいりたいというふうに思っております。

○議長（大塚純一郎君）　５番、小沼信孝君。

○５番（小沼信孝君）　当然、一企業だけで、そういったことに対する支援というのはなかなか難しいというのは、これはわかっております。ですから、やはりその、プライベートを確保したり、そういった食べるものに関してでも、だから一企業だけでなくて、いろんな業種で、例えば人材が不足されている。仮に、外国人でも、国内の日本人でも一緒だと思いますが、そういった方が只見町に住んでいただくというのが、ましてその、空き家の一軒家が空いているから、そこに皆さん住んでくれというのは、なかなか難しい、現実難しいと思います。ですから、やっぱ、そういった仕組みなり、施設の建設なりを考えていかないと、人材確保というのは非常に難しいのかなと考えておりますので、その辺、今、町長おっしゃられたようなことを是非ともまあ、今すぐにということでなくても結構なんで、考えていっていただきたいというふうに考えますので、もう一度お願いします。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　本当にあの、空き家対策は空き家対策として取り組んでいかなければなりませんが、やはりあの、東南アジアの方々も寒いの苦手だというのは、まったくわかりますし、あと元々、只見町に生まれ育って、都会で働いて、Ｕターンしてこられて、自分のうちを改築して住んでおられる方多くおられますが、ある方に聞いたら、とにかく冬は寒いと。自分が子供の時、平気でいたんだけど、ある年齢になって帰ってきて、家なおしたはずなんだけど、とにかく寒いという方がおられました。ですから、非常に外壁とか屋根とかきれいになったんですが､やはり気密性とか､そういったものもあるんだろうなと思いまして、特にそういった経験のない方は本当に、除雪、雪が降り積もれば不安になりますし、作業自体も大変ですので、やはり集合住宅といいますか、そういったものも、特に就業、他町村から来られて、就業に携われる方は一軒家では不安はあるんだろうなということは容易に想像されます。ですからあの、そういった住宅、今具体的に申し上げるわけにはいきませんが、そういった方向、併せてさっき言った、総菜とか、そういったのを容易に確保できる。そういった環境づくりには努めてまいらなければいけないというふうに思っておりますので、ご理解とご支援をお願い申し上げます。

○議長（大塚純一郎君）　５番、小沼信孝君。

○５番（小沼信孝君）　是非とも、よろしくお願いしたいと思います。

まあ、おしらせばん等で、前々から出ているところで、まったくまあ、採用がないのか、

応募がないのか、ちょっとわかりませんが、介護関係でございます。今の話の中で、例えば介護者も、金山町は寮がございますので、そこに入っている方が結構何人もおられます。寮の話は先ほど終わりましたので、介護職員、それからまあ、皆さんご存じの医療従事者、診療所の看護師等の人材確保について、大変苦労されていると思います。その一つの原因として、何が原因で、世の中にはこれほど看護師が余ってたり、介護を辞めてらっしゃる方。只見町にも介護の資格を持っておられるけど、まったく違う業種にいっておられる方もいらっしゃいます。それで、その方、正職かというと、そうでもなく、バイト的に仕事をされている。それは家の事情もあって、そういうことはあると思いますが、どういった原因で、その話をしている中でネックになる部分があるのか。わかりましたら、ご意見というか、お答えを願いたいと思います。

○議長（大塚純一郎君）　保健福祉課長、増田功君。

○保健福祉課長（増田　功君）　介護の資格を持っている方、あるいは医療従事者で資格を持っている方で、資格を持っているんだけど従事されないのはどうしてかという…

○５番（小沼信孝君）　いや…

○保健福祉課長（増田　功君）　ことでは…

○議長（大塚純一郎君）　質問内容をもう一度。

○５番（小沼信孝君）　じゃあ、質問内容、もう一度。わかりずらくて申し訳ありません。

資格があるとか、ないとかでなくて、募集をされていますが、非常に応募が少ないのか、まったくないように感じますが、そういったのに、なんかその原因があるのか。只見町のその、介護施設はほとんど南会津会が多いと思いますので、町で直接わからないことがあるかもしれませんが、その原因として、例えば賃金的なものなのか。待遇的なものなのか。そういったことがわかればお答え願いたいと。

○議長（大塚純一郎君）　保健福祉課長、増田功君。

○保健福祉課長（増田　功君）　介護職ですとですね、今、募集出ているのは臨時職員ということで出ているというところがまず１点あるかなというふうに思います。あとはまあ、仕事の内容が、やはりちょっと、きつい、きついといいますか、自分に向いているか・向いていないかというのもあるのかなというふうに思いますが、今、こぶし苑ですと、今、正職員は、介護は１名不足しているので、なんとか人材を確保したいなというふうには考えておりますが、そういったことで、まあ、待遇というところと、あとはその、職種の内容について、そ

れで自分が適用できるかといったところが課題なのかなというふうに思っております。

○議長（大塚純一郎君）　５番、小沼信孝君。

○５番（小沼信孝君）　直接、こぶし苑のほうは南会津会を通してということで、あれだと思いますが、やはり、そういったその、臨時職員だという採用基準。まあ、南会津会の場合は会津地方でも給与的にはそんなに低くないそうです。わりあい高いほうだそうです。ですが、やはり、賃金でも、結局、人材を確保するによそから人を連れてくるということになると、まったく格差がございます。それも相当な額が違います。よそから来るのは。県内でなくてですよ。一番、只見町のその介護施設、南会津会で三つあるのかな。今。そこで、伊南・南郷の方が非常に多いと。で、伊南・南郷にも施設あるのに、自分のほうに戻って仕事をしたいんだけど、只見町の人が少ないから、そこを転勤できないといった現状がございます。そういったことの中で、その一人しか足りないというのが、一人を入れれば、普通にまわるのかと、大変でなくなるのかと、そういうことではないと思います。やはり全体的に人数が少ないんじゃないかという感じはしますが、これは南会津会のことですから、町に言ってもなかなか大変でしょうが、ただあの、診療所の看護師に対して、待遇の問題というのはまあ、まったくわかりませんからお伺いしますが、県内のその医療関係機関と差がないのか。相当の開きがあるのか。そういったところをちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（大塚純一郎君）　診療所事務長、吉津瑞穂君。

○朝日診療所事務長（吉津瑞穂君）　ただ今のご質問でございますが、診療所の看護師につきましては、町の職員ということですので、民間の病院との格差については私のほうでは承知はしておりませんが、県の職員であるとか、ほかの市町村の看護師と大きく差があるものとは認識はしておりません。

以上です。

○議長（大塚純一郎君）　５番、小沼信孝君。

○５番（小沼信孝君）　具体的な数字を挙げることができれば一番良いんですが、それができないということもありますが、結局、この業界でも外国人の人を雇うということが、もう本当に普通になってきております。外国人が福島県にもいらっしゃいます。ただ、そういった方を、例えば只見町で来てくださいといった時に、あまりにも金額が違いすぎて、県だったり町の条例の中の範囲でやっているということになると、なかなか人も集まらないのも現状かなというふうに、この質問するにあたっていろいろ聞いてみたら感じることができました。

ですから、やはりその、今後、人材を確保するにあたって、これはまあ、どの業種もそうですが、皆さんがこうやって、やってきたから、同じことをすれば、当然集まらないのは当たり前です。ですから、町として、ほかではやってないことをやることによって、ほかに人がいかないで只見町に来るといったことに繋がると思いますので、その辺、町長にお伺いしますが、町として、ほかの町でしてないようの取り組みを、何だか考えつかないで、そういうのも難しいかもしれませんが、そういう取り組みをしても人材確保をする考えがあるかどうか、ちょっとお伺いします。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　人材確保、全ての産業に携わる方々に共通の課題であります。大きく言えば、町が魅力的になることと、あと不便、不利な条件を克服していくということを、生活環境含めて、それがまあ、一番大事だというふうに思います。

あとは、特に介護に限った話ですと、社会福祉法人南会津会で主に経営委託してやってもらってますが、先般も南会津会の理事会ありましたが、どこの施設も赤字です。そして、いわゆる会社で言えば資本金といいますか、社会福祉法人では期末資金残高っていう表現してますが、年々減ってます。ですから、今の只見ホームとか、そういったところでも、あと１０年といわず、５年・６年の中で、今のペースでいけば底をつきてしまうということになります。そうすると現在、あさくさホームには２９人で、町が議会の皆様のご理解を得て予算的な支援してもらってますが、同じような流れで、今のままでいくとなります。それを少しでも遅らせるために、実はあの、只見ホームは今、長期５０人床ですが、今年の８月から５６人ということで、６人、長期のところ増やします。その代わり、ショートが１０あったところが四つに減ってしまいます。でも、トータルで考えると安定的に少しでも貢献すると。あとはその、私より６番議員のほうが、本当は一番詳しいかと思いますが、退所なされてから、ほかの方、入所される期間を短縮して、前は本当に１ヵ月近くとか２０日とかかかっていたものを、できれば２週間、もっといえば１０日前後で、次の人に入ってもらうということで、やはりその、経営的な安定を図るという努力はなされておりますし、これからもやっていかれます。そういった中でやはり、なかなか賃金を上げていくというのは、そういった事情がありますから難しいですし、あとは国のほうも社会保障費が年々年々、増額してます。介護だけじゃなくて、年金とか、医療保険、いろんなものが増えてますので、やはりどうしても国の今の流れは、そちらを抑制していこうという流れでありますので、そうすると、な

かなか、賃金の上乗せ、多少の改善の制度は何年か前あって、若干は良くなってますけど、そういった環境があります。ですから、これはあの、やはり、町として長期的な考え方で、これからの高齢者の、先ほど、こういう貴重なデータもいただきましたけど、やはりこれからの推移をよく見極めながら、どういった形が良いか。金山町の話ちょっと出ましたが、金山町さんの場合は単独の社会福祉法人もってますし、昭和村さんもそうですし、あと西会津町さんも単独の福祉会もってますので、町のいろんな議会との協議の中での様々な施策がこう、時間、短縮していろんな反映しやすいということありますが、南会津会の中では、勿論、良い点いっぱいありますけど、そういったことはやはり合議になりますので、やはりその辺のところはちょっと時間かかるのかなとか、様々、ちょっと奥歯にもの挟まったような言い方しておりますが、様々な課題もありますので、その辺を十分、また別の機会に話をさせていただきながら、議員おっしゃるような課題に向けて解決に向かって取り組んでいかなければならないという認識は持っております。よろしくお願いいたします。

○議長（大塚純一郎君）　５番、小沼信孝君。

○５番（小沼信孝君）　じゃあ、最後にあの、町長にお願いしたいことが１点ございます。

今までいろんな話させていただきましたが、やはりこの中で、今までされてはいたのかもしれませんが、やはり事業者さんと行政、町が、同じ場所で、同じものに対して、どうやったらいいのかという話し合いの場を設けること。それから、そういったことを情報発信をして人材確保に努めるという、話し合いの場を是非とも事業者さんともっていただいて、それはまあ、１回で決まることではないと思いますが、そういったことに対して、決まったこと、それから改善されたことを情報発信をすることによって人材代確保に努めるというふうに事業者さん等もまあ、考えてらっしゃるみたいなんで、是非ともそういったことを開催していただきたいというふうに最後に質問としてお伺いしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　今までは、住民の方々に、例えば集落座談会とか、町政座談会ということで限られた時間の中でお話を伺うということあります。あとは前、どなたでしたか、言われたのは、いろんな、町長、担当課長と一緒に、もしくは一人で、そういう町内の事業者さんのところをまわって、いろいろ話聞いたほうがいいんだぞということを、どなたかでしたか、改めて言っていただきました。そういったことで今般また、そういう様々な産業ありますので、そういった場を設けて、役場に来てもらって要望書を出してもらうだけじゃなく

て、そういった機会はとっても大事だというふうに思いますので、外にも出ていきたいですし、そういった場も設けさせていただきたいと思ってますので、議員おっしゃる方向で、様々な事業者さんとの懇談といいますか、距離を縮めていきたいなというふうに思っておりますので、ご理解とご支援をお願い申し上げます。

○議長（大塚純一郎君）　５番、小沼信孝君。

○５番（小沼信孝君）　是非とも、そういった取り組みをしていただいて、人材確保、良い方向に向かうようにお願いしたいと思います。

これで質問を終わります。

○議長（大塚純一郎君）　これで、５番、小沼信孝君の一般質問は終了しました。

ここで、暫時、休議します。

再開は３時１５分にします。

休憩　午後２時５２分

再開　午後３時１２分

○議長（大塚純一郎君）　定刻前ですが、全員お揃いですので、休議前に引き続き会議を開きます。

ここで、町長より発言の申し出がありますので、これを許可いたします。

町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　すみません。お時間を頂戴しましてありがとうございます。

午前中報告させていただきました林野火災の件につきまして、その後、１２時３４分に鎮火を確認いたしました。そして、関係者、消防、警察、消防団と、全員、１３時４５分に下山を完了いたしました。大きな松の木が１本燃えたということで、周辺への燃え広がりはなかったということでございます。詳しい地番は別といたしまして、只見町分ということでございました。

以上でございます。

○議長（大塚純一郎君）　それでは、９番、三瓶良一君の一般質問を許可いたします。

９番、三瓶良一君。

〔９番　三瓶良一君　登壇〕

○９番（三瓶良一君）　一般質問を行わせていただきます。

私の質問につきましては、昨日の全員協議会、そして今日の一般質問と、大体、共通するものでありますから、良いところ聞き終わったという感じでございますが、せっかくでございますから質問させていただきます。

ＪＲ只見線の全通に向けての取り組みということで質問させていただきますが、その前に、私はこの、あまりにもＪＲの駅前、あるいは役場、そして只見町の中心商店街。こういったこと、ここの、この辺がすごく荒れてしまったと。昔の面影がなくなってしまったと。まあ、あちこちから、合併を解消しなさいという声もありました。しかし、私は、今更、合併を解消するなんていうことでなくて、これはやっぱり、オール只見でこの難局は乗り切らなければならない、そういうふうに思って、これから只見町全体のこと、オール只見でどうやってこの難局を乗り切っていくかという観点から質問をさせていただきます。

第１に、駅舎、ホーム、駅前の整備計画。これにつきましては、渡部町長より、昨日から詳しく説明がありました。ただ、どの程度進んでいるのかということになってくると、これがまた見えてこないと。町はどういう青写真をここに想定しておられるのかと。それをね、いつ頃までにその青写真を基に、その本格的な交渉をされるのかということについて、町長のご見解をお伺いしたいと思います。

そして、その中で、障害になっているのは用地の問題だというふうに再三言われました。用地が入り組んでいるということは前町長からもお話は伺っております。しかし、この用地の問題。これはあの、精力的に取り組めば、用地の問題、私はそんなに時間かからないはずだと。もし、かかるとしたら何引っかかっているのかということをお伺いしたいと思います。

そして、三つ目に、この観光客というのが、観光路線というふうにＪＲでは位置づけておられますから、相当な、ＪＲでも、観光客をここに呼び込んでくるんだろうと。そのための特別列車も走らせるんだろうと。私はそういうふうにも思いますけれども、その場合、その、やっぱりちょっと降りて通過してしまうというようなことであってはなりません。やっぱりあの、願わくば、ここで１泊していただくというような状態まで町のウイングは広げて考えなければならないなというふうに思うわけであります。この点、町長、どういうふうにお考えをされておりますか。このことについては町でただ予想しただけではしょうがありません。ＪＲのほうでもどういうふうにお考えになっているのか。県のほうでもどういうふうにお考

えになっているのかと。そして、これが本当に、町を活性化するだけのインパクトのあることに繋がっていくのかということをお伺いしたいと思います。

二つ目に、朝日診療所の県立医療センター化についてお伺いいたします。朝日診療所はこの只見という非常に大変な豪雪地帯の中に立地しておりますし、南会津病院、会津若松方面の医療機関、どっちにも遠い。そして、私は三島のお話を若干させていただきたいと思いますが、三島病院は、三島病院になる前には三島診療所だったんですよ。県立会津総合病院の三島分院と。県は廃止の方針を出しました。ところが、佐藤ながおさんという町長さんが、猛烈にこれに対して反発をされました。そして、ながおさんは、逆にこれを独立した県立病院に引き上げていったと。その時は私驚きました。こういう政治力のある人、町長におられるのかなと。そして、私はその頃、西会津の山口村長が、生涯現役１００歳への挑戦という看板を掲げていろいろなことをやられましたんで、私は厚生大臣表彰２回受けましたと。そして、全国医師会の会長表彰も受けましたと。しかし、只見町はどうやって、北里大学病院なんていうのとコネを付けたんだと。いや、これはうらやましいなと。うちは病院のお医者さんが辞めるといえば、それまでですよと。お宅のほうはずっと続けて来てもらえるんでしょ。そうです。まあ、私のほうも褒められましたけど、もっと三島病院には驚きました。宮下病院ですか。宮下病院には驚きました。この只見町の今の、ずっと皆さんお話もそうですが、本当、只見町、容易でない。容易でない中で、高齢化社会を保ちながら、且つ、また、少子化対策も進めなければならない。こういう中にあって、やっぱり町は、町の医者問題を考えた時、これはやっぱり三島の例のように、県立の医療センター化として県にお願いをしていくと。そして、県にお医者さんの問題は担当していただくと。町はなにほど手が抜けるかわかりませんし、安心できて、また予算的にも別なほうにどんどんまわすことができるわけであります。しかし、これは大きな政治力がいります。渡部町長には、是非、トップセールス、トップ外交をやっていただきたいと。城代家老ができたわけですから、ひとつ、その点を、その点の心構えというんですか、そういう腹構えでやれば、必ずできると思います。私は。それは渡部町長が一番よくわかっておられると思いますが、必ずできます。

以上、２点お伺いいたします。よろしくお願いします。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

〔町長　渡部勇夫君　登壇〕

○町長（渡部勇夫君）　９番、三瓶良一議員のご質問にお答えいたします。

はじめに、ＪＲ只見線全通に向けた取組みについてであります。

まず、駅舎、ホーム、駅前の整備計画についてでございますが、駅舎につきましては会津川口駅のようにＪＡ・郵便局と併せて複合化した例や、新潟県の糸魚川駅のように、民間企業とのタイアップなどにより複合化した例もございます。全国には他にもたくさんの事例がございますので、参考にしながら只見町らしい複合化を模索し、駅を中心とした賑わいの創出ができればと考えております。併せて、改札が離れているため雨の日に不便である現在のホームについても解決を図ることが必要であります。しかしながら、改修には技術的、費用的なことなどから現時点での実施は困難と認識しております。将来を見据え、ＪＲ東日本仙台支社長や会津坂下駅長にも私の考えをお伝えしておりますし、去る３月に只見町においでいただきました内堀県知事にも同様のお話をさせていただいておりますので、今後も機会を捉えまして要望を継続していきたいと考えております。

駅前の整備計画でございますが、現在複雑に入り組んでいる駅前用地の取得を進めており、取得後には駐車場の舗装改良を実施いたします。また、賑わい創出のための総合案内機能や飲食が提供できる施設整備と運営体制の確立を進めるために、過日の議会全員協議会において現時点での方向性やイメージをご説明させていただいております。これらの事業推進にあたっては、庁議で十分検討するとともに、複数の課が役割分担をしながらしっかりと進める体制を構築しております。

２点目の障害となっている問題があるかでございます。初めにお答えをさせていただきましたが、駅舎、ホームともに改修にあたっては技術的、費用的なことなど解決しなければならない課題が数多くあるものと思っておりますので、継続して要望と協議をさせていただきたいと考えております。なお、議員の皆様方にもご協力をいただく場面もあると思いますので、その際は是非ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。

３点目の受け入れ対策と方針についてです。ご説明をさせていただいておりますとおり、来年度の開業に向けた駅前の賑わいづくりのためのハード整備と施設の運営体制整備等をしっかりと推進してまいりたいと考えております。また、町全体の受入れ対策として、既存の観光資源の磨き上げ事業にも取り組みたいと考えております。そのひとつとして、只見駅周辺の魅力向上が只見線の利活用につながるとの考えから、縁結び三石神社を中心とした整備事業を地元の方々のご協力をいただきながら進めてまいります。

４点目のご質問となりますが、これは只見線利活用推進協議会において、只見線利活用計

画に基づいたアクションプログラムにより関係する主体が各事業を進めているところであり、相互支援の形で沿線自治体等が一体となって取り組んでおります。ＪＲ只見線という路線名でもありますので、三瓶議員お質しのとおり、只見町が積極的に取り組み、行動していくことは大変重要であります。本年は只見線全線開通５０周年であり、関連する記念事業が予定されておりますが、そのひとつとして、ＪＲへの積極的な働きかけにより、最近では珍しい記念硬券の発売が実現することとなっておりますし、特別臨時列車の運行もお願いしておりますので、これらが実現すれば只見線の大きな話題になるものと考え推進してまいります。また、三石神社との関連から、縁結びをキーワードとした事業も実施してまいりますので、これらの事業を積極的にＰＲすることで、町の積極的な姿勢のアピールとなるよう努めてまいりたいと考えております。

次に、朝日診療所の県立医療センター化についてお答えいたします。

朝日診療所の立地につきましては、２次医療体制が整っている中核病院まで１時間から２時間を要する地理的に不利な地域であることは、まさに９番議員のおっしゃるとおりでございます。朝日診療所は町内唯一の医療機関として、入院・外来診療をはじめ、老人福祉施設等の回診、学校医や産業医、予防接種など地域の保健医療を担う重要な施設であります。今般の新型コロナワクチン接種においても、診療所医師及び看護師の協力があり、スムーズに進めることができております。その他にも、喜多方市地域・家庭医療センターから医師２名、会津医療センターから医師３名に応援に来ていただきました。応援に来られた医師の中には学生時代に朝日診療所で研修された医師もおり、今までの朝日診療所の取組みが協力・応援という形で表れていると感じております。

現時点では、朝日診療所の県立医療センター化については考えておりませんが、今後とも各地域の医療機関と連携しながら、安定した医療体制の確保を図ってまいります。

医師確保につきましても、福島県及び福島県立医科大学に要望書を提出しており、今後も引き続き強く要望してまいりますので議会及び町民各位のご支援とご協力をお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（大塚純一郎君）　９番、三瓶良一君。

○９番（三瓶良一君）　只見線の問題は、やっぱりあの、新潟県から、小出のほうから通じてきたと。そのために、その前までは駅舎の前のほうまでホームがあったんですよ。それが、

駅舎の前から向こうのほうにいってしまったと。それはこの敷設替えのためです。これはまったく不便になってしまいました。そして、今のような状態になると、さらに不便なんですが、冬になったりすると。この問題というのは本当大変な問題ですから、今、お話を聞いてますと、財源の問題にかなり引っかかっておられると、思う答弁でございました。しかし、財源の問題というのはね、そんなにあの、複雑に考えないほうがいいと思う。県のほうにね、県が電源流域に一回その、占用料を配付して、共同事業やらせたことある。まあ、そういうことでやっていけば、これは相当なお金は県は出せるはずですよ。そしてまたあの、特交をお願いしたり、町にも基金はあると思いますから。これはやっぱり一大事業として捉えてもらわなければいけないと思います。

ＪＲは、いろいろ力のある会社ですから、やろうと思えばいろんなことやってくる。例えば、去年だって、コロナのああいう騒ぎの中で特別列車３両編成を用意してくれと。３両編成、１両５０人乗ったって１５０人ですよ。ああいうのをこまめに出してもらえば、只見の観光の振興には大きなインパクトを与えます。問題はあとは受け入れの問題。駅の問題。雨が降った時、行き場もないような駅舎ではしょうがありません。やっぱりあの、大勢の人が行かれるような駅舎。あの田島のあの駅舎見てもらえばわかると思いますが、あの駅舎の２階のホール、何回か、会合なんかもありましたし、私も出席したことありますが、あれだけ大きいものは、やっぱりあれ、電源交付金でやっているんですよ。財源調べてみたら電源交付金。そういうことを考えますと、そう遠慮なん、してる必要はないなと。只見はこれは大きなやっぱり、これだけの大水害の後で、地域が大問題になって、それから今、駅をそのＪＲも、国も、県も、各市町村も、みんな応援してやろうと。只見だけでお金をくださいなんて言ったってしょうがありませんから、電源流域の共同事業というものの中に織り込んで、やってもらうようなことも一つの案かもしれません。是非考えていただきたいと思います。

それからあの、三石神社のお話出ましたけれども、三石神社というのも、いろんなことを考えますと。良い神社だし、あの近辺を開発して、するということは大切なことだと思いますが、しかしあの、只見町は、ユネスコという国連機関の認定を受けて、エコパークということになってますから。やっぱりこれだけのブナ林がいっぱいある中で、いろんなところの散策とをつくられたらいいと。例えばですね、今日、先ほど、雷鳴った。あそこの道路、この前、私行って見てきましたが、あんなところ、本当に散策路に最高の場所ですよ。森の中をずっと歩くと。そして、昔は歩いていたんだそうですが、最近は歩いてない。ちょっと手

入れをすれば、すぐ歩けます。いくらもありませんから。あの鉄塔の付近だけ。まあ、そういうような、その緑の環境を活かしながら、健康を兼ねて、そして中高年の人が只見は意外と多く来られると。昨日も私は歩いていて、中高年の人が２０人ぐらい歩いておられた。結構、只見にいろんな人が来るんだなと思っております。そういう様々な只見を訪れるような人が、本当に来てみたいなというような、そういう受け入れ態勢をつくっていけば、相当、只見町に大きなインパクトを与えてくるし、皆さんも元気を出されてくるなと思います。まあ、あと、この問題については、いろんな方から、いろんな質問がされておりますので、そう多くは質問する必要はありませんと思いますが、その点をひとつ、是非考えてもらいたい。いかがですか。

それから、第２番目の朝日診療所の県立医療センター化ということですが、これはやっぱり、これは三島の佐藤村長がそれを実現された時に、私、三島の人達といろいろ会いました。そうしたら、三島の議員さんが言っているんですよ。今まで医者問題に苦労してきたと。ところが今度、県立病院になったと。県立病院になったために医者４人、そしてまあ、喜多方の県立病院から、あるいは若松の総合病院から、そういうところから専門の先生も来てもらえると。うちの町長はたいしたもんですよ。というお話だった。それは、私は三島っていうよりもね、只見が中核でなければならないと。只見が一番不便なんですから。そして、これだけ電源界のダムの町で、そういうことで、土地を失い、人を失い、いろいろ地域としても大きな問題を起こしていると。そういう中で、只見こそ、この中核として県立の医療センターがあってもいいなと。医師４名に、ベッド数を今の倍ぐらいに増やしてもらえば、もう十分なんですよ。それにあと専門医に来てもらえば。そうすると、これで、医療スタッフも、お医者さんも、全部県で負担してくれると。それが私は地方分権だと思う。地方分権は与えられるものではありません。自分から引き寄せるものだと思う。私はそういうふうに考える。渡部町長も考え方同じだと思いますが、今、副町長ができた状態の中で、町長は体は相当自由になられたと思いますから、これ、億劫がらないで交渉をされるべきだと。いろんな政治家の応援も必要ならば、されればいいし、議会だって応援できると思いますから。そういうことは臆せずにやってもらいたい。

今の現状をちょっとお伺いますが、コロナのことは本当によくやられたと思います。これは本当に、皆さんに感謝申し上げます。医療スタッフの人達にも感謝申し上げます。しかしあの、医者不足からきて、夜間に緊急なことが起こっても、対応はできませんよということ

になってます。これは大問題ですよ。やっぱり少子化対策をするうえにおいても、高齢者対策をするうえにおいても、夜間にいろんなことが起きてくる。その時、診療所で受け付けてもらえないなんていうことでは、本当に大変な問題だと思います。これも、やっぱり解消の一つの、当面の解消の問題です。これはまあ、医療センターとはまた別個に、もう、解消の問題だと。それでこれの問題ですが、現実にはどのぐらい、そういう問題あるんですか。おわかりですか。その辺で。

○議長（大塚純一郎君）　診療所事務長、吉津瑞穂君。

○朝日診療所事務長（吉津瑞穂君）　今、ご質問いただきました夜間の診療の、実際には救急は受け付けておりませんので、受付の件数はないわけなんですけれども、診療所に相談の電話というのは月に数件程度あるようです。実際には、看護師及び医師のほうで内容のほうを聞き取りをしまして、緊急でない症状の場合は翌日の受診のほうを奨励をしています。で、緊急を要する場合については、南会津病院に救急搬送を、広域消防のほうにお願いをしたほうが良いというアドバイス程度に今の現状ではなっております。具体的な件数については診療所のほうでは把握はしておりません。

以上です。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　私のほうから、今ほど、診療所事務長が答弁した以外のことを話させていただきます。

本当に、何点かいただきましたが、本当に檄を飛ばしていただきまして温かいお言葉ありがとうございました。

駅舎改修つきましては、財源の心配してないわけじゃないですが、そこ一番先に考えているわけではありません。やはり、ちゃんと交渉するということが一番ですから、具体的な課題は何かということをちゃんとお互い認識して、それをどうやって克服していくかということを一番に考えておりますので、決して、お金を一番に、大事ですけど、一番に考えて交渉を臆しているわけではありませんので、今、日程調整しておりますが、ＪＲ東日本の本社に出向こうと思って、今、実は日程調整してます。そういった中でも話をしていきたいというふうに思っております。今後とも引き続き、本当に具体的なお話、ためになりますので、また教えていただきたいなと思います。

また、只見区、只見の方々に大変お世話になって、三石神社であったり、様々なアドバイ

ス、具体的な作業もお力添えいただいておりまして、この場をお借りして只見地区の住民の方々に感謝申し上げたいというふうに思います。加えまして、やはりエコパークの町であるということをもっと前に出して、散策路であったり、有意義な時間の過ごし方というのを、やはり具体的に提案していかなければならないと思っております。何分コースであるとか、どういった費用負担でできるのかということを、やはり観光商品化して提供して、良い時間を過ごしていただいて、できれば泊まってもらってということで、そういうことが大事だと思っておりますので、そのように努めていきたいと思います。

それから、県立宮下病院、三島町の、につきましては確かにそのような経過はございますが、今、残念ながら、宮下病院、今度、診療所になりますので、非常に当時としては佐藤ながお町長のお力で政治力を発揮されて、そのような時代もあったかと承知しておりますが、昨今の県立病院改革であったり、様々な中で、統廃合の中で、宮下病院は診療所化になると。で、そのうえで、会津医療センターが中心となって、訪問医療といいますか、そういった体制を構築していくということで、会津医療センターの先生とも実は私、意見交換もしておりますが、そういった流れもあるということも承知しておりますし、先般あの、南会津病院のほうにも出向きまして、委員長先生はじめ、前、診療所におられた先生ともいろいろ意見交換しております。確かに今、事務長から話ありましたが、夜間の診療、一定の時間以降できないということは大変、従来に比べればご不便をおかけしたり、ご不安を与えているということは承知しておりますので、これをあきらめているわけではなくて、いずれこれは解消できるようにやっていかなければならないと思いますし、その努力はしてまいりたいというふうに思いますので、そのような考え方で取り組んでまいるということを改めて申し上げまして、今段階での答弁とさせていただきます。

○議長（大塚純一郎君）　９番、三瓶良一君。

○９番（三瓶良一君）　渡部町長、どうもありがとうございました。

懇切なる説明をいただきました。

私、参考までに申し上げます。千葉県の柏市と交流提携をしております。この交流提携に至るまで、大変な時間を要したわけですが、最終的には交流ができたと。そして、今も交流をされておるんですが、この時、渡部完爾町長だった。町長は。そして、私達は、私は囲碁が、その頃、習いたてで面白くてしょうがなかった。それで、囲碁会に入っていたんですが、交流事業の一環として柏で囲碁会やるから、誘われましたから行きましたよ。そしたら、そ

の次の朝、柏市のほうから、宿舎のほうに電話が来て、手賀沼の反対側に藤沢という町があると。案内しますから、すぐ行ってもらえませんかと。そこは町長さんが電話をよこされたと。人口５万５，０００人ぐらいの町だったようですが、そこにちょっと顔を出してくださいと。なんで囲碁の人達が顔出さんなんねえのがな、なんて思って行きました。行ったらばもう、役場のここのところ、只見のポスター、それからあの、雪まつりのポスター。まあ、大変な、只見のポスター貼っておられる。何だろうと思った。そしたらば、渡部町長が来られたと。ここに来られたんだと。そして、柏市と提携をしてますと。是非とも藤沢町もうちのところに来てくださいと。ご利用してくださいと。湯ら里という宿舎もできましたと。ホテルもできましたと。環境の良いところです。風光明媚なところです。是非来ていただきたいという、そのお使いをいただきましたと。それで、自分だけが行くのはなんだから、老人会に話をしたと。そしたら、老人会はもう、歳とってるし、汽車あちこち乗り換えて、ちょっと億劫だなという話だったそうです。その話を町に伝えてきたと。そしたらば、湯ら里からバス２台出されたと。そしてお迎えに行ってこられた。いやあ、是非これは行かなきゃならないということで、藤沢の町長の一声で老人会が来られた。これが私はトップ外交だと、トップセールスだと思うんですが、まあ、参考までに申し上げましたが、是非ね、町長自ら、公約されてるわけですし、これは効きますから。トップが先頭に立つということは。是非ともやってもらいたい。そうすれば観光客も増えますし、自治体間の関係も良くなりますし、一般の人達も来られます。これは、なにもその、観光ばっかりじゃありません。今ほど言いました、医療の問題も、只見の実態を詳しく訴えてもらって、そして、こういう状況の中ではやっぱり、県のご支援はどうしても必要だということを強く訴えてもらえば、私は実現すると思いますよ。したって、渡部町長、一番、大学の教授たちと一番近い人だから。それを何かその、官僚答弁のことに今聞こえましたが、失礼な話だかもしれませんが、官僚答弁のように聞こえました。私には。そうでなくて、ひと汗流すぞと。ひと仕事するぞという心構えでひとつ取り組んでいただきたいなと。そうすれば、夜間診療だってきちっとできますよ。是非お願いします。これは過疎問題、少子化問題にとっても、その基礎ですから。基礎部分ですから、是非お願いしたい。よろしくお願いします。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　改めまして、町のトップとしての、ことに取り組む姿勢、覚悟、態度というのを教えていただきたいというふうに思っております。

渡部町長当時、私、まだ職員で、勿論、係員でありましたけど、あとは議会にいる時も、町長になられる前、議長としても、私、事務局におりまして、一緒に時間を過ごしていただくこともございました。そういったことで改めて今、三瓶議員のほうから、過去のご努力、長としてのあるべき態度というのも教えていただいたというふうに思っておりますので、そういった、まだまだ、私、未熟でありますので、やはり、そういった方々の態度であったり、取り組む姿勢、また事柄ということを学びながら、少しでも近づけるように努力をしていきたいというふうに思っておりますし、やっぱりなんといっても、人と人、顔を合わせて心を通わせるということがまず交流の第一歩だというふうに、言うは易く行うは難しという言葉もありますが、そういった率直な態度で、様々な方々と取り組んで、町のトップセールスとして取り組んでいきたいというふうに思います。決して、官僚答弁、官僚でもありませんし、官僚答弁のつもりもありませんが、訛っておりますから全然そんなことはないと思いますが、どうかそういったことでご理解とお力添えを引き続き賜りますようお願い申し上げます。

○議長（大塚純一郎君）　９番、三瓶良一君。

○９番（三瓶良一君）　私は議員になる前、いろいろな疑問を持ってました。疑問を持っておりましたが、議会に出てみると、議員の人は真面目ですよ。議員の人、本当によく勉強してる。私は本当、昔の議員とまるっきり違うなと思って驚いているんですよ。本当によく勉強されている。これはね、町長が旗を振れば、全員、右習いしますから。そうすると町は本当に活性化してきます。間違いなく活性化しますから。これは面白いもんですよ。リーダーの役割というのは。是非あの、私は期待してもおりますし、それがなければ今の只見町というのは、ダラダラダラダラいっちまう。やっぱりあの、八十里が抜ける。この汽車が通る。そして、国連のユネスコエコパークの指定を受ける。こういう恵まれた条件が揃っているわけですから、これを最大限に活かしていけば、良い町になってくると思いますよ。まあ、いろいろ、苦しい問題もたくさんありますが、そこはやっぱり乗り越えるしかありません。乗り越える。どんなことがあっても乗り越える。どんなことがあってもやり遂げる。その心構えを持っておられれば、絶対に只見町は復活します。１０年後に復活しますから。よろしくお願いします。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　本当に身の引き締まる言葉をいただきましてありがとうございます。

本当に、議会議員の皆様はじめ、やはり、我々町当局、庁議構成員、議会に出席させてい

ただく幹部職員含めまして、職員一丸となって、しっかりした、まず案を作らせていただく。町民の声を聞きながら。関係者の声を聞きながら。そして、やはり議会基本条例にございますように、やはり二元代表制の下、善政を競うということで、我々としては最高の案を作って出させていただく。その中で議会の皆様の案と、そこで率直な意見交換をして、場合によっては修正ということもあるかもしれませんが、そういった中で只見町がより良く発展して、町民の皆様が益々健勝であることを願って取り組んでいきたいというふうに思いますので、非常にあの、深く胸に届く言葉をいただきまして感謝申し上げます。

○議長（大塚純一郎君）　９番、三瓶良一君。

○９番（三瓶良一君）　町長の決意をお聞かせいただいたところで、先ほどの質問に戻ります。

今、年金をもらう。６５歳上になって年金をもらうようになってくると、どうしても自然を求めて田舎暮らしをしたいという人が結構いるんですよ。こういうところにターゲットを絞っても私は面白いと思う。しかし、これが全てではありませんが、一部ですから。これは面白いと思いますよ。やれば。

そして、もう一つ、電源の流域のお金は、もう、一年に３０数億円、県に入ってます。これは、この前、委員会の時も説明ありました。国土交通省ですか、これは河川の事業に使いなさいというようなことを言ったと。しかしね、財政法も改正しないで、そんなこと勝手に言えないんですよ。河川占用料というのは、占用使用料というのは、使用料ですから。一般財源ですよ。これは法的に矛盾したこと言ってる。そこのところ、ちゃんと手直ししないでそんなこと言ったってだめですから、それは私は聞けない話だなと。だから、これもちゃんと町長から、今のうちにきちっと言ってもらって、基金を創ってもらいたい。まずは基金。この電源五町村の振興のために基金を創ってもらいたい。１町村でやったでは、なかなか容易でありませんから、五町村で揃ってやってもらいたい。一年に２０億円ぐらいずつ積んで、積み増ししてもらえば、１０年経てば２００億になりますから。２００億円の仕事をすれば、必ずひっ立ちます只見町は。ちょっと大げさな話だかもしれませんが、大げさな話でありません。田中角栄さんは、ここにトンネル開けるなんて、若い時言ったそうですよ。初めて当選したとき、只見に来て。そうしたら、みんな笑っちゃったと。何言ってんだろうなと。ところが本当に開けたから驚きだもんな。私はあそこに行ったとき、そう言われましたよ。渡部完爾さんだとか、吉田六郎さんだとか、あの人達に。やっぱり、そういうもんなんですよ。政治っていうのは。光の当たらない、容易でないところに光を当てる。それが政治だという

ことです。

町長、やってください。お願いします。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　いくつかの話が含まれているなというふうに思って聞かせていただいておりました。

一つは、河川流水占用料の話ですが、確かに議員おっしゃるように、私の記憶では福島県内で３０億程度というふうな、私も記憶をもっております。それにつきまして、さらに、只見川流域であれば、その３分の１程度だったかなというふうな記憶を持っておりますが、やはりそれは県に入るお金だということで、様々ありまして、前の民主党政権の時に、国交大臣が八ッ場ダムの関係で、いろいろ、県の負担金の時に様々話ありまして、それを当時の関東圏の県知事が別な意見申し上げたときには、それはじゃああの、国庫財源にするぞという話があって、多少、話がずれたかもしれませんが、難しい取り扱いの話があります。あとは電源立地の、勿論、所在の町でありますし、その協議会にも只見町は入っております。現在、山梨県の早川村の村長さん、辻一さんが長く会長と務めておられます。そういった中でも毎年、今、議員、三瓶議員おっしゃったことはテーマとして、やはり地元にという声は長年に亘って運動をされておりますけど、なかなか実現しないというところが、もう私よりもご存じだと思いますが、それが実態でございます。

あともう１点は、水力の交付金につきましては、固定資産税が年々、２，０００万から３，０００万、減価償却で減っていきます。それを補完する意味で水力交付金という制度ができまして、大体４，０００万から５，０００万、年によっては６，０００万前後のお金きたことありますが、毎年２，０００万・３，０００万減価していくのに、５，０００万もらっても、２年間でなくなってしまいますから、じゃあ、３年目・４年目の分はきてないということですから。それについても、過去には仕分け対象になりまして、緊急の会議が東京でありまして、私も代理で出席して、当時の会長さんが渡部恒三先生でしたので、非常に水力、地域のことはご理解、会長さん、ご理解あられましたけども、やはりなかなか、そういった会長さん達をもってしても、なかなか厚い壁といいますか、それが思うように任せないと、今は維持して、５，０００万前後だと思いますけど、維持できてること自体が力があるという言い方もできますが、非常にそういったのが難しいということがございます。

あと電源流域の関係でございますが、これはあの、中曽根内閣の時でしたか、フレッシュ

リゾートということで、リゾート法という関係で、会津フレッシュリゾートで旧田島町までエリアに入りましたが、奥会津のほう七町村、桧枝岐含めて、そのエリアに入らなかったものですから、電源のお金を使って只見川電源流域振興協議会という協議会ができました。ですが、それも、今、構成が、南会津合併したことによって構成が若干変わっておりますが、なかなか、それもあの、観光誘客のための施設整備であったり、そういったことでやっていこうということでやってきましたし、その後、当時、只見町長、小沼町長の時に、奥会津五町村の協議会と、現在ございますが、そういったことで、やはりさらに奥会津の五町村の振興を図っていこうということで、二つの会が協議会あります。そういったことで取り組んでおりますので、長々と答弁してすみませんが、私もある程度わかっているつもりですが、私以上に、議員はよく、経過も含め、ご承知だと思いますし、それは所属の協議会、総会等を通じて意見を申し述べて、引き続き運動を展開してまいりたいということが今段階での率直な話でございます。長々と申し訳ございません。

○議長（大塚純一郎君）　９番、三瓶良一君。

○９番（三瓶良一君）　わかりました。難しいんですよ。この問題は。政治的に絡みますから。

しかしね、これ、やんないと、本当に町の、町が容易でないと、そういう思いでまあ、町長に申し上げているわけですから、よろしくお願いしたいと思います。

それで、何年か前に、鬼怒川で大水が出ましたよ。大水が出て、流されたのは茨城県の平野部ですよ。平野部。ここの電源交付金をもらうのは栃木県。被害を受けたのは茨城県。そして、ダムが、電源のダムがない県が全国に三つありあす。三つ。だから、その辺が、まあ、やっぱりどういうふうに仕分けするのか私はわかりませんが、やっぱりあの、官僚の通達ひとつでこうだというようなことできる性質のものではない。やっぱりこれは根が深いですから。そうするとやっぱり地域振興ということが第一でなければならない。そして、河川も大事ですが、そういうことに必ずなければならないわけですから、福島県は本当は、本当はここにどんどんどんどん、その投資をするべきなんですよ。もっと早い段階で。それ怠ってきたから、こういうふうになっている。だからこの問題、やっぱりね、追及すべき問題、しなければならない問題だと思う。財源がありながら、地元のために使わない。そういうことになってます。是非ともお願いします。

以上で、私の質問は終わります。

○議長（大塚純一郎君）　答弁はよろしいですか。

○９番（三瓶良一君）　どうもありがとうございました。

○議長（大塚純一郎君）　これで、９番、三瓶良一君の一般質問は終了しました。

次に、１１番、鈴木好行君の一般質問を許可します。

１１番、鈴木好行君。

〔１１番　鈴木好行君　登壇〕

○１１番（鈴木好行君）　それでは、通告書に基づきまして一般質問をいたします。

私の質問内容は、昨日の全員協議会においても活発な質疑がありました。

また、本日は２番議員、９番議員も同様の質問がございました。

一部、質問と答弁が重複するところもあるかと思いますが、ご了承願います。

それでは質問いたします。

質問事項は、道の駅基本計画の変更についてでございます。

質問の要旨は、５月７日の全員協議会において、道の駅建設の場所は只見からきらら２８９までの間に変更し、只見駅前賑わい創出事業を先行して実施したい、との町長発言がございました。変更の理由と今後の道の駅建設へ向けた町長の真意を伺います。

一つとして、道の駅基本計画策定の中で方針が変わった理由は何か。また、その時期はいつ頃か。町長の考えを伺います。

二つ目として、道の駅建設はこのまま継続して行うのか、延期するのか、中止するのか、町長の真意を伺います。

三つ目として、６月１日の経済文教常任委員会において、只見駅前賑わい創出事業の計画案の説明を受けた。来年７月の開業目標に向けて、建物の建築だけでなく、営業形態をどのように考えていのるか、町長の考えを伺います。

また、併せて、只見駅前だけでなく、駅周辺の環境整備も併せて必要と思われるが、整備についての町長の考えを伺います。

以上です。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

〔町長　渡部勇夫君　登壇〕

○町長（渡部勇夫君）　１１番、鈴木好行議員のご質問にお答えいたします。

まず、５月７日の議会全員協議会において発言させていただきました内容につきましては、国道２８９号八十里越が２０２６年にも全線開通する見通しを国土交通副大臣からお示しい

ただいたことを受け、町の整備についてもこれに合わせて図っていかなければならないという認識のもと、ＪＲ只見駅前整備と道の駅のあり方の基本的な考え方について述べさせていただいたものであります。令和元年度から２年度にかけて、只見町道の駅検討委員会において、町民や有識者などのご意見を出し合い、その結果をとりまとめて只見町道の駅基本計画（案）としてお示しいただきました。その前後において、様々な関係者等と意見交換をさせていただいた中で、只見町の道の駅は、福島県のふくしま道づくりプランに掲げる縦横６本の連携軸を意識して計画すべきだという認識を持ち、連携軸の１本である国道２８９号線を中心に、只見から南会津町方面の途中に道の駅建設を計画したいと考えたところであります。道の駅建設については、今般取りまとめいただいた只見町道の駅基本計画（案）の、休憩機能、情報発信機能、地域連携機能、防災機能の４大機能を軸としたご提言や内容を基礎にして、引き続き議会等からご意見を賜りながら検討を進めてまいる所存であります。

次に、只見駅前の賑わいづくりについてでありますが、６月１５日の議会全員協議会において、町の総合案内、物販、飲食の各機能を担う施設整備と運営体制の確立を早急に進めていくため、現時点の方向性やイメージ、今後の進め方などについてご説明させていただきました。お質しの営業形態につきましては、町内を中心として総合案内、物販、飲食の各機能を担ってみたいと希望する事業者を公募して、テナント（貸店舗）方式による運営を想定しているところでありますが、議員各位や今後の説明会での意見等を踏まえて検討してまいりたいと考えております。

次に、只見駅前だけでなく、駅周辺の環境整備についてであります。鈴木議員のご指摘のとおり、駅前だけでなく駅周辺の環境整備は必要なものと思っております。先の酒井正吉郎議員のご質問にもお答えをさせていただきましたが、只見駅周辺の魅力向上として東北芸術工科大学と只見区の皆様と連携し、三石神社の遊歩道整備を実施いたします。また、滝神社側の花壇植栽や草刈りなどは只見しゃくなげ会の皆様、かかしの設置はかかし作りの会の皆様のご協力で行われており、訪れた皆様が和む風景が広がっています。他にも只見地区の圃場整備事業が進められており、現状は休耕が目立つ田畑については今後の整備により解消されるものと考えております。これらのことも踏まえ、只見線で訪れる方の待ち時間や只見線を撮影される方々にも喜んでいただけるような周辺環境の整備に引き続き務めてまいります。

以上でございます。

○議長（大塚純一郎君）　１１番、鈴木好行君。

○１１番（鈴木好行君）　それでは道の駅建設に関しましての再質問を行います。

まず、一番最初に質問いたしました、道の駅建設は継続か、延期か、中止か、というところで、引き続き議会からご意見を賜りながら検討を進めてまいる所存でありますという返答でございました。これはどういうふうに理解してよろしいのか。この検討というのは、まずは建設するのか・しないのかの検討なのか。建設する時期はいつなのかの検討なのか。また、道の駅基本計画検討委員会の答申を踏まえて、そして検討するべきものなのか。この辺の意味がよくわかりません。このままの継続はたぶん、ないというふうに判断しておりますので、延期されるのか。白紙にされるのか。その辺のところをお伺いします。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　私は道の駅は建設したいというふうに考えております。そのうえで、今回、委員の方々がお忙しい中、ご審議に関わっていただいて、本当にありがたいというふうに思っております。ですので、そういった中で含まれております、先ほど申し上げました四つの機能、これからの道の駅に求められる四つの機能、休憩機能、情報発信、地域連携、防災。この四つのいただいた提言はそのまま活かした道の駅を造りたいというふうに思っております。

あと、道の駅につきましては、今、国土交通省の道路局が主管でございますけども、今は第３ステージに入ったというふうに言われております。道の駅は、私も多少調べましたが、１９９３年から盛んに道の駅と言われて、その時が第１ステージだそうです。その時は、そのドライバーさんが通過する、道路利用者、運転手の方々、同乗者の方々のサービスを提供する場であればいい。それが第１ステージの道の駅だそうです。で、その後、２０１３年からは第２ステージというふうに言われまして、もう道の駅自体が目的地になるんだと。どこかに行く途中に休憩するばかりじゃなくて、道の駅に行って楽しんだ。そこで一日もしくは半日楽しんでくるんだという道の駅づくり。それが第２ステージだそうです。今は、２０２０年、ちょうど昨年から第３ステージに入ったというふうに言われてますが、やはりこれは地方創生、地域振興であったり、観光を加速する拠点づくりということで、さらに道の駅と道の駅を繋ぐネットワーク化、そういったことで地域の連携であったり、まさに地方創生、地域の振興に繋がる道の駅ということで第３ステージに入っております。今回いただいた四大機能の中に、まさにそういった機能は盛り込まれているということで、委員長さんが官公庁のアドバイザーをやっておられた篠原委員長さんでございますし、以下、委員の方々、地

域の有識者の方々からご意見いただきましたので、もう先取りした、第３ステージを先取りした四大機能が盛り込まれておりますので、その機能を活かさせていただいた道の駅を今後建設していきたいというふうに考えてございます。

○議長（大塚純一郎君）　１１番、鈴木好行君。

○１１番（鈴木好行君）　第３ステージに関しましては、道の駅基本構想の委員会で提出いただいた基本計画でも、そういった基本計画の位置づけということで載っておりますので承知はしております。

それであの、そうした場合にですね、まずは只見駅前賑わい創出事業を行う。そして、町長は今後、２８９号沿いに新たに道の駅を設置する場所を選定したいというお考えであると思います。その時期はいつ頃を考えていらっしゃいますか。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　私としては、先般、国土交通副大臣から、２８９号八十里越が５年以内という考えをお示しいただきまして、その後、福島県の工事施工に関しても建設事務所の所長さんから、国のスピードに合わせて追いついていくんだというお話を先日の勉強会でも改めて言っていただきました。ですから、町としても、その５年以内という中で様々なものは取り組んでいきたいというふうに考えております。

○議長（大塚純一郎君）　１１番、鈴木好行君。

○１１番（鈴木好行君）　はっきりとした町長のお考えがわかりました。

それでですね、以前、委員会の中で、この道の駅の第１ステージとして、只見駅前賑わい創出事業を行いたいんだ。そこで簡易店舗をつくって、そして第２段階として、また同じ場所に第１ステージの結果をブラッシュアップしながら第２ステージに進んで、それで第３ステージにいって、最終的には道の駅という認定を受けたいという委員会説明を受けましたけども、それはもう、今の町長答弁でなくなったということで認識してよろしいのかと思いますけれども、その中でですね、一つ気になったことが、道路管理者との一体整備をやめるというお話を伺いました。それは、結局あの、今度は場所が変わって、別な場所に道の駅建設として、この一体型をされるお考えはあるんでしょうか。ないんでしょうか。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　ちょっと整理させていただきたいと思います。

只見駅前は、賑わいづくりを創っていかなければならないということでありますから、本

当であれば只見線の全線再開通までに、もう役場庁舎も建っている。駅前のさっき言った機能、もっと、総合案内・飲食・物販。もっとあるかもしれません。そういったものも、もう建物も建っている。そういった中で全線再開通ですというのが一番理想的だと思ってます。ですが、如何せん、来年の話ですから間に合いません。ので、多少、簡易的になりますけど、そういった三大機能を盛り込んだ施設整備と運営体制を整えていきたいということを申し述べさせていただいております。

併せて、やっぱり、只見駅、駅舎の改修、先ほども９番議員からいただきましたが、やはり、それについて取り組んでいかなければならないというふうに思っておりますから、まあ、お金の心配を一番先にはしてないと、先ほど９番議員にも言いましたが、多少は心配してますから、そういったことで、その駅舎ができて、その中でそういった機能を盛り込んで、充実した駅舎ができれば、なお良いと思いますが、それは交渉がどうなるかわかりませんが、それも交渉もある程度、年限を限って交渉していかなければならないと思います。何十年も交渉はしていられませんから。それはやはり数年間の中で決着をつけなければいけないというふうに思ってます。何ができないのか。やっぱりそれで、私だけで力不足であれば、議員の皆様のお力お借りして、もしくはもっと、多くの町民の力もお借りしてという段階になりますけど、そこでやはり、もっとわかりやすく、何が課題かを詳らかにして取り組んでいくと。そして、駅舎の中に全部盛り込めればいいですが、盛り込めないものであれば外に出していくと。そういったことでいろんな、ＪＲの用地の取得も含めて舗装工事して、ちゃんとした環境を整えたいと。そして、あそこは雪まつりの会場でありますから、長年の実績もありますから、雪まつりの関係者の方々のご意見を聞いて、夏も冬も使える。冬場、邪魔になる建物だって言われないように、夏も冬も使える、多くの方をお招きする雪まつりをやっていくし、雪まつりない時にも、いろんな方々の来ていただけるようなイベントを開催していくというところにしたいと思います。当然、今、役場庁舎の話、ずれますけども、ここの町下庁舎と駅前庁舎に分かれておって、町民の方々にご不便をおかけしております。それもいずれ、やはり雨堤１０３９番地という条例上の位置に、やはり役場庁舎を建てなければいけないというふうに私は思っておりますので、そういった考え方の下、申し上げております。

あと道の駅につきましては、先ほど申し上げました国土交通省道路局の管轄ですから、道路管理者といいますか、国との関係を良好の中でなければできませんので、別ではなくて、そこは新しい道の駅は一緒に造っていくということで、この協議の中に国土交通省の工事事

務所長さんもオブザーバーで入っておりますので、そういった方々と私も実際、意見交換させていただいて、今回の結論に至ったということを申し述べさせていただきます。

○議長（大塚純一郎君）　１１番、鈴木好行君。

○１１番（鈴木好行君）　それでですね、昨日の全員協議会の中で、３月２６日に最終的な検討委員会が行われておりまして、そこで町長がお話をされたという形の報告を受けました。それで、その中で、その後ずっときまして、それで、昨日の全協で、大体、３ヶ月近く経っているわけなんですけれども、昨日の全協の中で、大変にスケジュールがタイトではないかという方が何人かいらっしゃいました。実際にまあ、私もそう思いますし、当局の方々も、実際、タイトではないかなというふうな感じをお持ちであると思います。何故、３月２６日、その当時ですね、町長のお考えがもし、そうであるならば、その時にお示しできなかったのかなっていうふうな疑問が一つあるのと、実は町長は、就任当初からそういった考えをお持ちだったんじゃないかなと思って、町長の選挙公約を見直してみました。そうすると、やっぱり、駅前の周辺の整備は必要だということは謳っていらっしゃいますけれども、道の駅に関しては謳っていらっしゃいませんでした。そしたらば、もう、これは最初から町長方針はそうだったんではないのかなというふうに私はあの、想像いたしました。その中でもし、そうであるならば、こういった考えがあるならば、もっと早く、議会にお示しいただいて、もっと早い段階でくれば、令和３年度の予算編成にもギリギリすべき込みで間に合ったぐらいのペースでこれたんじゃないかなというふうな感じがいたしますけれども、何故、この、今日に至ってしまったのか。その経緯。今日の質問の中で、その時期はいつ頃かというふうなことは、そういった意味の質問ですので、その町長のお考えをどのように反映されたのかなというふうなことがちょっと疑問に思います。

それと申しますのも、委員会の道の駅に対する進捗状況の説明が、町長が代わられてから、やや、トーンダウンしてきて、別な方向になってきたなというふうなイメージを私は受けました。ですから、そうした中で町長指示がどのようにされて、どのように進んでこられたのか。ここまでの経緯を説明願います。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　選挙の時の、選挙の時といいますか、広報を読んでいただきまして、ありがとうございます。

正直、そのような、完全に固まってはいませんでしたが、そういった想いは持っておりま

した。ですが、確たるものではありませんでした。そういった中で、一方で駅前に道の駅を造るという、委員会が進んでおりましたので、それもまた尊重しなければならないということを、改めて当選させていただいた後で思っておりました。それで、篠原委員長さんですが、本当に全国各地の道の駅に関わっていらっしゃって、官公庁のアドバイザーであったり、大学の先生もなさっておられます。その方と、あとは郡山国道事務所の所長さんと３人で話したのが３月です。で、まだ委員会進んでおりましたので、まだ委員会としての最終の会議に至っておりませんでした。で、その先生方、最終日の前日に３人で話させていただいて、実はあの、担当課長含め、担当課の職員も、心配しておりました。今まで駅前に道の駅。道の駅造るということについて、町長が代わったからといって、駅前に道の駅を造らないなんていったら、委員長さんとか、国土事務所の所長さんが、非常に心象を悪くなされるんでないかということで、その辺は事務方としては当然の心配だったと思いますし、私はそのアドバイスも受けてはおりました。ですが、私はやはり、率直に、私の考え方を、その委員長さん、工事事務所の所長さんに、これからのあるべき姿、本当に、国道２８９号の南部軸の話から様々申し上げました。そしたら、本当に、たぶん、職員もびっくりしたかと思いますが、その通りですというふうにお二方から言っていただきました。やはり、そういった、先に建物ありきじゃなくて、道の駅に只見町は何を託しているのかと。どういうまちづくりをするのかということが、まず最初に町長から聞きたかったというふうに言われました。そして、私はお伝えし、それについて否定されるどころか、そうあるべきだというふうに言っていただきました。ですから、位置の問題ではなくて、道の駅をこれから町の地域振興のために、町が栄えるために、みんなが幸せになるためになる道の駅じゃないといけないんですよということで背中を押していただきまして、そういったことで最終的に委員長さんがとりまとめをしていただいたということでありますから、非常に大きな方針転換、場所については大きな場所の転換ではありますが、考え方は率直に申し上げまして、それぞれの方にご理解をいただいたと、逆に背中を押していただいたという、今理解で話をさせていただいております。

○議長（大塚純一郎君）　１１番、鈴木好行君。

○１１番（鈴木好行君）　そうすると、担当委員会のほうには、まだ最終的な基本計画案。それから検討委員会の最終答申お示しいただいてないんですけれども、その答申は、どのようなことになっているのか。その答申と、今、町長が答弁されたことと、一致しているのか、違っているのか、わかれば教えてください。

○議長（大塚純一郎君）　観光商工課長、目黒祐紀君。

○観光商工課長（目黒祐紀君）　道の駅基本計画（案）の答申内容についてでございますけれども、答申書のほうは３月２６日付、委員会、篠原委員長より、町長宛、提出をいただいているところでございます。この（案）でございます。基本計画（案）の内容につきましては、概要というような形で、事務局のほうで、かなり厚い冊子になっておりますので、内容をある程度整理をさせていただいて、担当委員会のほうにご報告をさせていただいたといったようなところでございます。ただ、あくまでも委員会としての町長への提言といったようなことで取り扱いをさせていただいておりますので、この内容についても、今後また改めて、町としての最終的な基本計画案という形に整理をしていかなければならないというふうに考えておりましたので、まず検討委員会の委員長の報告という形では概要という形でお示しをさせていただいて、今後、先ほど町長からも申し述べさせていただきましたような形で、この基本計画のほうを、また改めて見直しをし、町の正式な計画として皆様方にまたお示しをする時期にお示しをさせていただいて、協議をさせていただければというふうに考えていたところでございます。

以上です。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　そういった中で、最終答申書、計画案の中に盛り込んでいただいたのが、第１ステップ、第２ステップ、第３ステップという考え方です。それは当初入っていませんでした。そういった話を受けて、第１・第２・第３ステップっていう考え方を盛り込んでいただきました。ですから、四大機能と含めて、そういった段階を踏むということが入ってまして、あとそれ以外の、今、観光商工課長申し上げましたように、今後、別な場所でやるんであれば、あれはあくまでも駅前の場所で想定した図になってますから、それはまた改めてということですが、基本的な考え方は四大機能とスリーステップでやっていくという考え方は盛り込んでいただいております。

○議長（大塚純一郎君）　１１番、鈴木好行君。

○１１番（鈴木好行君）　そうすると、今後の道の駅の基本計画を進めるうえで、グリーンシグマさんでしたっけ、に委託をされて、基本計画案を作っていただいたのが駅前に造る案で、それはステップ１から、ずっとステップ３まで進んでいくという案でしたら私も拝見しました。そうした中で、今後進める中で、それではまたコンサルに委託されて基本計画を作り直

すのか。今回作っていただいた基本計画をたたき台として、あとは場所、それから建物の配置図。そういったものを見直す内部作業だけでやっていくおつもりなのか。その辺の答弁をお願いします。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　考え方は後段のほうでおっしゃっていただいた、内容はそのまま承って、場所とか、そういう技術的な、用地、どことか、そういったことで、また新たに外部委託ということで、お金を要するではなくて、職員が中心となってお示ししていくと、計画づくりとしていくという方法を考えております。

○議長（大塚純一郎君）　１１番、鈴木好行君。

○１１番（鈴木好行君）　そうするとですね、道の駅建設に関しても、かなり、今後、急なスケジュールが求められてくるなというふうに感じております。これから用地を決定して、その用地交渉からスタートしなきゃならないということになると思うんで、そうした場合に、先ほどあの、やっぱり、早急にですね、やっぱり、町長がしっかりした考えを示していただいて、それで候補地を選定していただく。それを我々に示していただいて協議をする。そして、それと同時にですね、基本計画案という概要版、只見道の駅基本計画概要版というものを、全町民に示しております。そうした中で、只見の町民は、駅前に只見の道の駅ができるというふうに、大半がまだ思っていらっしゃると思います。そうした方、住民のやっぱり納得のいく変更の仕方というものがあると思います。そうした中で、しっかり、懇切丁寧な説明書をつけた変更内容、変更通知をですね、町民の方々に示して、理解を得て、それから次のステップに進んでいくということが一番必要ではないかと思われますけれども、その辺のところを町長、どういうふうにお進めになりますか。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　議員おっしゃっていただいたこと、大切なことだというふうに思っております。まずは、来年の只見線の全線再開通に合わせた、そういう駅前の簡易的な受け入れ態勢を整える。そして、駅舎の改修といいますか、その辺の交渉に入っていく。そして、その見極めをつけていかなければいけないと。そして、役場庁舎のことも考えていくということあります。そのうえで、基本的な、道の駅検討会にいただいた内容、ソフト部分はいただくといいますか、尊重させていただく。あとは位置、場所について、そういった検討に入って、なるべく早くお示しして、議会のご意見もいただいて固めていくという流れです。で

すから、そういったことは、この後、集落座談会もありますし、駅前の賑わいづくりということで、昨日も４番議員から、ちょっと横の棒が短いんで、ちょっと横に延ばすように、ちょっと７月まで入ったということ、大変有難いアドバイスいただきましたけど、そういった中でも説明し、またあの、議会との協議が整った段階で、また広報ただみ等でお知らせするとか、ということでそういったことは心掛けてまいりたいというふうに思います。

○議長（大塚純一郎君）　１１番、鈴木好行君。

○１１番（鈴木好行君）　それとですね、令和２年度。令和２年度の事業で、道の駅基本計画というものがプロポーザルで発注されて、出来上がってきて、成果があるわけです。そして、最終答申もあるわけです。そうした成果表はやっぱりあの、議会にお示しいただいて、そのお示しいただいた資料と、町長の考えはここが違うんだよというものもお示しいただかないと、我々、こうやって、私らは担当委員会ですから、まだ基本計画案というものを一度いただきました。まだわかります。総務の方々は本当にあの、何の話だか、わかんなくて、この場にいらっしゃるような方もいらっしゃると思います。是非、そういったことのないように、昨年度の成果報告でありますので、その辺はお示しいただいて、そして、その成果に関して、町長はどのように考えているのか。どのように進めていきたいのかという方針を示していただければ、この後の進め方も簡単になるのかなというふうに感じますので、その辺のところをお願いしますけれども、いかがでしょうか。

○議長（大塚純一郎君）　観光商工課長、目黒祐紀君。

○観光商工課長（目黒祐紀君）　今ほどのご指摘、本当にありがとうございます。

　そういったところ、本当に概要版という形でしかお示しをさせていただいていないといったようなところもございましたので、今回、検討結果の報告という中で、委員会としての考え方、また資料編という中で様々、データを集めさせていただきました。こういうものも議会のほうにもお示しをさせていただきたいというふうに思いますし、また、この内容の考え方等についての町長の考え方についても、また整理をさせていただいてお示しをさせていただければというふうに思います。よろしくお願いいたします。

○議長（大塚純一郎君）　１１番、鈴木好行君。

○１１番（鈴木好行君）　是非それをお願いして、やはりあの、我々にもわかる、先ほど９番議員のお話にもありました。やっぱり議会と当局と一体になって、町長が右向けば、みんなついていくだからって言いました。言われました。ついていくかどうかは別として、やはり

示していただかないと、どっち向いていいのかわかりませんので、その辺のところをお願いして次に移りたいと思います。

駅前の賑わい創出事業。これは仮の事業名でございますけれども、についてです。

駅前の賑わい創出に関しましては、先ほどから２番議員、それから６番議員、それから９番議員、いろいろ関連されて質問されておりました。駅舎の改修とかに関しましては、とりあえず私は今回はしないでおきます。

それで、駅前だけでなく、駅周辺の環境整備、併せて必要と思われるということで、町長答弁もいただきました。三石神社周辺をやっておりますよと。それから、駅前のＪＲの土地に関しては現在、取得の検討中で頑張ってますよというお話をいただきましたが、平成２６年の只見地区土地利用計画書で書いてあることを若干メモしてきたので紹介します。スキー場、ゲレンデを利用した景観保全。滝神社参道と連続する形でプロムナードとしての街路整備。ＪＲ駅周辺整備。三石神社、要害山登山道散策路の整備。さらにはヒメサユリの生育保全。そして最後に、イベントガイドとして高齢者が活躍する地域づくり。この土地利用計画書。町長が現役の時に作られた計画書ではないかと思われますけれども、これについて書いてあることの中で、三石神社とＪＲ駅周辺整備に関しては、今取り掛かろうとしているということで評価いたしますけれども、そのほかのことに関して、今後、計画はお持ちなのかどうか伺います。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　これまた、当時のものを見ていただいて、お話いただきましてありがとうございます。

やはりそれはあの、そういった考え方、年数、多少経ちましたけど、基本的な考え方は変わっておりません。やはりそれ進めるにあたって、先ほども一般質問でいただきましたが、やはり人、人材、ちゃんとその整備もしていかなければいけませんし、それをちゃんと気持ちよく、来られた方に案内できる人であったり、それが事業として成り立つような組織。そういったものが大事だと思っておりますので、その考え方でちゃんと裏打ちといいますか、そういったことをちゃんと作り上げながら、足らないところはそれを補強、補強といいますか、組織づくり、人の確保含めて、そのおいでいただいた方々に、そういった時間と空間を提供できるような町でありたいというふうに思いますので、それは引き続き努めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（大塚純一郎君）　１１番、鈴木好行君。

○１１番（鈴木好行君）　ＪＲ只見線が再開通するということで、一番あの、忘れてならないのが、たしかに乗降客、利用客は増えるかもしれませんが、只見駅はＪＲ只見線の中途駅だということです。小出と若松の間にある、もしかしたら通過されるかもしれない駅。今は、なんでかんで、不通区間があるから降りていらっしゃいますけど、そこを通過させないための、只見を目的地とするための工夫が必要と思われます。そうした中で、その周辺整備だけで大丈夫なのかなと。その辺の、今、金山・三島・柳津。その辺は一生懸命になってやっております。ＰＲされております。宮下駅から金山駅までを繋ぐ交通でありますとか、そういったことはやってますけれども、こういった中で、今度は只見は後発になってしまいます。現在続けていらっしゃるところから比べると後発になってしまいます。そして、そうした中で、トロッコ列車とか、そういった列車を運行させたとして、はたして、只見駅が潤うかどうか。只見駅にお客様が降りるかどうかっていうのは、甚だ難しい点があると思いますけれども、その辺のところを、何か、これは負けねえぞみたいな秘策はお持ちでしょうか。教えてください。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　いや、秘策ということでなくて、全部喋りたいと思ってますので、隠すような策はありませんが、率直に私は申し上げたいと思います。

やはり、先ほどらい、議員の方、一般質問、貴重なご意見いただいておりますが、やはり、長く只見町に留まっていただく。できれば泊まっていただく。というには、そこに、遠かったけど、わざわざ来たけども良かったという内容づくりが大切だと思っております。ですから、モノとくらしのミュージアムとか、河井継之助記念館であるとか、叶津番所、様々、ブナセンターあります。そういったものを、今のあり方をもう一つ進めて、やはりその横の連絡も良くして、やはり、そこに行って見て、そこでただ入って自分が見るだけじゃなくて、限られた時間の中で、お願いすれば適切な説明もしていただけるとか、そういったものもちゃんと、大切な只見町の魅力のあるプログラムの一つだというふうに位置づけて、そういうのをつくっていくと。そして、旅館・民宿、あとは季の郷湯ら里とかありますが、季の郷湯ら里はやはり旅館・民宿と料金的にもやはり差別化を図っていくということが私、大事だと思ってますから、そういった中で泊まっていただく。そうすれば、飲食であったり、様々なものにも波及していくという、湯ら里の話になってしまうと、ちょっと質問の主旨とそれて

しまいますが、湯ら里だけで完結するんじゃなくて、旅館・民宿とも力を一緒に携える商品づくり。あとはキャンプ場とか、そういったところとか、森林の分校ふざわとか、そういったところと含めた複合的な商品づくりもこれから必要だなと思っております。様々、いわなの里であったり、塩沢のお蕎麦であったり、もう全部、あと落ちはないかというふうに今、ちょっと心配してますが、魅力的なところいっぱいありますから、やはりそういったのを町が一緒になって、全体で商品づくりして、住み分けをしながら、心地よく過ごしていただくということがなにより大事なことだと思ってますので、今はやっぱ、そういった組織・体制・環境づくりということがこれからとっても大事になってくるというふうに思っております。

○議長（大塚純一郎君）　１１番、鈴木好行君。

○１１番（鈴木好行君）　そうした中で、一日の本数が３本だというお話です。そして、その３本の乗降客だけで、あとは町内からのお客様も見込むという形で行うのかなと思いますけども、先ほど道の駅を２８９沿いに造りたいというお話がありました。そうした中で、２５２を通る車が、今度は道の駅にはわざわざ、まあ、どこにできるのかわかんないですけども、わざわざ遠く回り道をしないと、２５２の車、通行者は利用できなくなる。そうした中で、２５２の車を誘導する術が必要なのではないのかなというふうに感じますけれども、その辺はどのようにお考えでしょうか。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　一つ、さっき、第３ステージの中で、ネットワーク化ということで、道の駅と道の駅の連携ということもひとつ申し上げました。金山町、中川にある道の駅、東北電力の水力の施設もありますけど、そこに行く２５２。あとはこっちでいえば、きらら２８９に行く道の駅ということで、ちょうど、そういった意味では道の駅という名前は、私今、使っておりませんが、駅前賑わいづくりということで、やはり只見線は鉄道ですから。道路じゃなくて鉄道ということで、只見線ということを、せっかくここまで、多くの方々のお力添えでここまできたわけですから、やはり鉄道ということを前面に出した駅前の賑わいづくりをさせていただきたいというふうに思っておりますので、そこにもしっかりした拠点はつくっていかなければならないというふうに思っております。

そしてあの、先般、会津鉄道の大石社長、今回、ご退任ということで、今日の新聞にも、会津鉄道の３両編成ですか、乗り入れの記事載ってましたけど、そういった意見交換させていただきました。大石社長はご存じのように、ＪＲの仙台支社長もなされた方で、ＪＲのご

経験、役職も務めておられますので、両方のこと、よくわかっておられますので、本当にご退任にあたって率直に言っていただきました。やはり、町長、只見は、只見駅前は、やっぱり鉄道を中心として賑わいをつくっていかなくちゃいけませんよというふうにご退任の挨拶の中でも言っていただきました。ですから、会津鉄道でそういった列車が乗り入れる。あとは今度、一日３本という不便なところはありますが、それを野岩線であったり、会津鉄道だったり、東部ということでいろんな周遊コースができてきます。ですから、今、この前、山田さんという方、円卓会議で三条市長、滝沢市長と私と南会津の大宅町長と、そういった三条・南会津の連携会議、円卓会議ありまして、そういったウェブ会議ありましたけども、そういった中でも山田さんという方は里山資本主義で有名な藻谷浩介さんと一緒に本、観光立国の正体という本も書かれておりますし、多くの本あります。私もその本読ませていただきました。そういった中で、やはり、山田さんから率直な、やはりその道路、八十里・只見線含めた、目的を明確にしていくと。町民の人が幸せになると。わざわざ遠くから来たけども、来た甲斐があったと。そして、そのうえで稼げる。やはり、そういったことを基本的にして具体的にやっていくことが大事ですよねというお話もさせていただいておりますので、そういったことをしっかり含めて、あとは観光周遊ルート。もっと、只見町だけで完結しよう、南会津郡だけで完結しようじゃなくて、もっと広く捉えて、新潟・群馬とか、その大きな周遊観光ルートをやはりつくっていくという考え方が大事ですよと。本当に大局的、俯瞰的な面からのお話もいただいておりますので、その中の一翼を担うのが只見町だというふうに思っておりますので、そういった大きな視点を持って、その目標を持って、取り組んでいきたいと思いますので、只見線だけ見れば３本で、なかなか乗るのが難しいと言われるかもしれませんが、周遊の中で来た方法と別の方法で帰られる。また、その逆もありますが、そういったことでみんなで力を合わせて盛り上げていきましょうということを多くの方から言っていただいておりますので、また鈴木議員はじめ、皆様からもいろいろご意見・ご提言・ご指導を賜りたいというふうに考えてございます。

○議長（大塚純一郎君）　１１番、鈴木好行君。

○１１番（鈴木好行君）　その周遊の計画は、開通に間に合いますか。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　それは非常に大きな構想でして、只見町だけでできるものではなくて、やはり今まであの、東海道新幹線に代表されるような、やはり京浜地区といいますか、太平

洋側にあったものを、やはり北陸地方・越後・環太平洋・環日本海という話になってきますが、そういった大きな視点の中で、産業面も含め、観光周遊面も含め、そういった時代がやってくるというふうにおっしゃっていらっしゃいますし、そういったことも書かれておりますので、一朝二朝ですぐできることではありませんが、大きなうねりとして、周遊観光ルートをつくっていくということが大事だという、非常にまあ、大きな話になりますが、そのような方向、方向といいますか、流れであるということをご理解いただきたいなというふうに思います。

○議長（大塚純一郎君）　暫時、時間を延長して会議を続行します。

１１番、鈴木好行君。

○１１番（鈴木好行君）　私が一番心配しているのは、これから店舗をつくって事業主を募る。そして、事業者が事業を行う。そうした中で、その事業が経営的にうまくいくかどうか。そこの１点に尽きます。

私は以前、町長が課長時代に、亀岡のトレーラーハウスでも同様の質問をしました。トレーラーハウスでお店をやりたい人を募って、そのお店の方が実際に生計が成り立つほどの集客ができるか。集客ができるか・できないかは町政の責任だよというふうなお話をさせていただいた覚えがあります。そして、今回、私が一番危惧しているのは、まさにその点であります。一日３本の列車で、そこの乗降客をターゲットにした商売で、はたして営業が成り立っていくのかな。持続が可能なのかな。

まあ、その昔になりますけれども、議長、私、酒井議員、同じ場所で夢職人という店舗を町おこし会社としてやっておりました。なかなか営業も厳しく、それ、夢職人独自の製品も持っておりながら、そして県内外のドライブインとか、そういうところに出荷しながら、営業をかけながら、それでもなかなか、最終的には継続できなかったという苦い経験を持っております。そして、今の状況を考えますと、その時の状況と、開通した後の状況って、そんなに変わらないんじゃないかなと。あの頃は電車も通っておりました。そして、大型バスでの観光客もございました。ゴールデンウィークになると、この辺のガソリンスタンドのガソリンがなくなってしまうような交通量もございました。そうした中で、盆とゴールデンウィークとか、そういった連休ではなんとか利益をあげることができたんですけれども、最終的に冬期間、それからあとは、あんまりあの、普通の、一般の日、そういった形でなかなか営業的に厳しいものがございました。そういった経験があるからこそ、このお店、この事業主

を募って大丈夫なのかなと。そこに行政のテコ入れは必要がないのかなというふうな形で昨日は質問いたしました。そうした中で、とりあえず行政は、行政支援は考えていない。事業主が頑張ってやるんだと。そして、町の観光ＰＲまでしていただくんだというお話をされました。私はそうして、まあ、一番心配なのは、事業をやってみたいという人が現れるかどうかということと、継続してその方ができる環境を整えることができるのかなというふうなことを一番心配しております。その辺のところを町長はどういうふうにお考えでしょうか。

○議長（大塚純一郎君）　町長、渡部勇夫君。

○町長（渡部勇夫君）　議員のご心配、よくわかります。やはりあの、繰り返しになりますが、只見駅前には、その三大機能がまず必要だということがまず先にありますので、その環境を整えたいということで再三説明させていただいております。

　あと、その後の経営のことでありますが、たしかに、過去に、その夢職人さんとか、いろいろ、まちづくりのために懸命にご努力されたということも多少承知しております。私もその商品を買った記憶ございます。今、大変難しい状況、人口もさらに減っておりますから難しい状況あるとは思います。ですが、一方で、高速通信網といいますか、ＳＮＳであったり、様々な通信手段、高速通信網、当時なかったものがあるということ。あとはあの、先ほどワーケーションということも申し上げましたが、どうしても都会は便利、田舎は不便という、代表的な言葉で言い表されていた時代から、いやいや、そうじゃないぞという風潮といいますか、社会的環境も変わってきているなということがありますので、似てるところはありますが、まったく同じではありませんので、やっぱりそういった追い風のところ、あと関係人口の方もいろいろ技術やご経験、特徴のある方も、まだまだ人数は少なくございますが、只見町においでいただいております。そういったネットワークは従前よりは構築しやすい手段があるのかなというふうに思っております。そういった中で町としては環境づくりであったり、ＰＲであったり、あとはイベント広場としてイベントがあれば、当然、そこに多くの人が足向くというのが一般的ですから、そういった中での支援といいますか、環境づくりは整えていかなければいけないというふうに思いますが、直接的な経営に対して云々かんぬんていうのは、なかなか、今の段階では難しいものがあるのかなと。逆にそういった勉強会であるとか、講師を呼んできて、商工会と一緒になって経営に関するいろんな講座とか、そういったことでの支援はできるかと思いますが、直接的に、将来ともに安定した経営を云々かんぬんというのは、今の段階で、絶対ないとは言いませんが、今の段階では、当初からはちょ

っと考えたくないなというふうに思っております。

○議長（大塚純一郎君）　１１番、鈴木好行君。

○１１番（鈴木好行君）　まさに先ほど申したとおり、そうした事業がうまくいくか・いかないかは町の観光政策にかかっているというふうに私は考えます。是非、町支援する必要がないほど客が来れるような状況をつくってあげることが大切なのかなと思います。

そして、やはり、どうしても、狙っていかなければならないのにですね、国内ばかりでなくて、コロナ収束後はインバウンドにも目を向けていかなきゃならないという形で、２８９繋がれば新潟空港も近くなります。そうした中で、そのインバウンド客をどのようにつかまえるのかなっていうふうな形で私は思っていますけれども、三島あたりは星賢孝さんの写真一枚で、あれほどの海外からの観光客が来るようになりました。是非ですね、そういったあの、ことも、先ほど地域創生課長のほうから、フェイスブックで只見の状況を伝えているというお話がありました。私もフェイスブック見ていて、よく小まめに、ダムの風景であるとか、只見ダムの風景であるとか、のっけているなというふうに思いました。是非ですね、そういったことを広く、せっかく出しても、見てもらわない、話題にのっからないと、なかなか広がっていかない。是非そういったものを広げていただいて、私はインバウンドの外国人観光客、そこにもターゲットを絞って進めていく必要があるのではないかなと思いますけれども、最後にその辺のところをどういうふうにお考えなのか、お伺いいたします。

○議長（大塚純一郎君）　地域創生課長、目黒康弘君。

○地域創生課長（目黒康弘君）　今、鈴木議員にお質しいただいた件でございます。町のほうのフェイスブックのほうご覧いただきまして本当にありがとうございます。なるべく、きれいな景色ばかりじゃないんですけども、そういったのを広げていきたいということで、景色のほうは週１回でもということで、課のほうで相談をしまして、みんなが写真を送って、それを広報担当者が載せてもらうような形で今努めているところです。話題にのらない、のせたいというところでもありますので、そういったのを続けながらも、我々としてもインバウンドのほうにいつか引っかかることもありますので、そういった取り組みは継続して続けたいと思っております。

また、尚、昨年の取り組みで、只見町のガイドブックのほうを、町のガイドブックなんですが、多言語化のほうもさせていただいておりますので、来たるべき将来に向けてはそういった多言語化のガイドブックも活用しながら、話題となるように努めてまいりたいと思って

おります。

○議長（大塚純一郎君）　１１番、鈴木好行君。

○１１番（鈴木好行君）　是非そうしていただいて、本当にあの、ＪＲ再開通後、それから２８９開通後、只見町の姿が一変するような姿を思い浮かべて、これからの政策に期待して、一般質問を終了します。

ありがとうございました。

○議長（大塚純一郎君）　これで、１１番、鈴木好行君の一般質問は終了しました。

◇◇◇◇◇　　◇◇◇◇◇　　◇◇◇◇◇

◎散会の宣告

○議長（大塚純一郎君）　上着の着用をお願いいたします。

以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

ご苦労様でした。

（午後５時０８分）